

令和元年度 事業報告
社会福祉法人 川福会

目 次

法 人	1
特別養護老人ホーム福寿苑	35
特別養護老人ホームみのわの里	44
特別養護老人ホーム布市福寿苑・真寿庵	62
介護老人保健施設枚岡の里	84
介護老人保健施設長田の里	88
ケアハウスひらおか	94
ケアハウス喜里川	97
川福会だいとうケアプランセンター	101
小規模多機能ホームごりょうの家	103
介護老人保健施設すいれん	108
ケアフル布施	114
専門会議・専門委員会活動報告	117

創業者の思い

人は幸せになる権利がある

人は他人（ひと）を幸せにする義務がある

人はひとりでは生きていけない

法人の理念

- 一、私たち川福会は、すべての人々の人権が尊重され、皆様が安心を感じられ、生きがいを持てる社会をめざします。
- 一、私たち川福会は、地域の身近な社会資源として活動し、地域社会に貢献することをお約束します。
- 一、私たち川福会は、制度の一步先を行く法人として、新たな価値を創造し、社会福祉の向上に資することを誇りとします。

法人の事業目的

社会福祉法人川福会は、地域における安心の拠点としての公益的役割を果たし、ご利用者が、個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援すること、及び地域で「生きることに困難」を抱えている人々を支援することを目的として、次の事業を行います。

1. 第1種社会福祉事業
2. 第2種社会福祉事業
3. 公益事業
4. 社会貢献事業

法人のビジョン

1. 職員全員が川福会の理念を共有し、理念の実現に向かって、目標が事業・活動ごとに具体的に設定され、目標を達成するために取り組む仕組みができていて、着実にそれを実践している。
2. 社会福祉法人の使命を果たすため、財務基盤の強化とガバナンスを確立し、社会福祉法人として自立した経営を進めている。
3. 職員が、川福会に勤務していることと川福会が実施している事業を誇りとするとともに、他の法人が模範とする法人となっている。

社会福祉法人川福会 令和元年度事業報告

続・新三か年計画は平成30年度から令和2年度までの中期計画となっており、「法人体制の充実—ガバナンス・職員育成」「既存事業の充実と新規事業拡大の成功」「地域医療との連携と地域公益活動の推進」の3つの大項目が計画の柱となっております。

令和元年度は、続・新三か年計画の2年目に当たります。

本事業報告にて、令和元年度の計画実行状況について総括し、続・新三か年計画の締めくくりの年度となる令和2年度につなげていくための課題を的確に抽出する必要があるため、本事業報告は、下記の内容で構成しております。

法人事業報告書	令和元年度事業計画の実施状況と課題抽出 【付表】①稼働率一覧 ②地域の公益的な取り組み ③研修一覧 ④第三者評価受審結果一覧
各拠点事業報告書	【1】施設運営を振り返って 【2】数値目標と実績 【3】事業計画の実施状況 【4】施設の課題 【付表】行事・防災訓練・研修一覧
専門会議・専門委員会 活動報告書	【1】令和元年度総括 【2】検討内容 【3】令和2年度への課題

本事業報告で法人の経営、運営状況をしっかりと把握し、社会、地域、国民の皆様からの要請にしっかりと答えていくため、社会福祉事業の主たる担い手としての組織機能をさらに充実させていきたいと考えております。

1. 法人体制の充実—ガバナンス・職員育成

[1] ガバナンス

(1) 会計監査人の設置

令和元年度 実施状況	<p>令和元年度第2回評議員会（令和元年6月20日開催）において、くすのき監査法人が選任され、会計監査人を設置しております。</p> <p>平成30年度に行われた予備調査の指摘事項から「IT管理規程の策定」「固定資産と台帳の突合」「平成12年度の計算書類の確認」「支払金員に関わるチャート作成」等を行いました。</p> <p>会計監査人監査については、令和1年10月1日、11月11日、11月12日、12月2日、令和2年1月8日、2月10日、3月24日に実施されました。</p> <p>主な指摘事項としては下記となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 建物5件の国庫補助金等特別積立金過年度修正 (減価償却計算方法設定の誤りで合計約700万円の過剰償却があったため) ② 器具及び備品2件の減価償却過年度修正 (誤って非償却の設定となっており合計約50万円の償却漏れがあったため) ③ 固定資産登録修正（器具及び備品5件、リサイクル預託金2件） ④ 固定資産除却処理（車両1件） ⑤ 仕訳伝票修正（5件） ⑥ 勘定科目修正（3件） ⑦ 電話加入権、リサイクル預託金の明確化 ⑧ 経理規程の徴収不能引当金に係る規定と実際の処理が整合しておらず規程改定
令和2年度 への課題	<p>法人のガバナンスを確保するために内部管理体制の整備と運用を図ると共に、支払資金の収支の状況、経営成績及び財政状態を把握・公表するために適切な会計処理と適正な計算書類等の作成を行うことが必要であり、独立の立場から会計監査人による監査を受け、今後も継続的に対応・改善していくことが必要と考えています。</p>

(2) 改定定款の実施—外部役員等の増員等、法人内部組織の改編

令和元年度 実施状況	<p>平成31年2月14日開催の評議員選任・解任委員会にて、新評議員が1名選任され、評議員総数が7名から8名へと増員となりましたが、令和元年度において、外部理事の増員については実施できておらず、適任者を検討中です。</p> <p>定款の改定については、評議員会にて下記の改定を行いました。</p> <p>令和元年度第2回評議員会（令和元年6月20日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4号議案 評議員・役員の報酬総額（評議員の増員に伴う改定） 評議員会決議の省略（決議があったとみなした日令和元年10月1日） 第2種社会福祉事業に移動支援事業の経営を追加（事業譲渡に伴う改定）
---------------	---

	<p>法人内部組織の改編については、執行役員規程を平成31年4月1日に改定し、執行役員会の目的、構成、開催、招集、責任について明確化しました。</p> <p>また、第3統括部を非施設系事業及び新規事業及び譲受事業の統括へと変更し、介護老人保健施設すいれんを既存施設事業として第2統括部へ移すこと、役職として副施設長を追加、人財育成委員会を人財採用・育成会議として法人専門会議としました。</p>
令和2年度への課題	<p>当法人の運営の透明性の更なる担保とガバナンスの更なる強化を行うために、評議員・外部理事の増員を推進する必要があります。</p> <p>評議員数が理事数を下回らないようにするためにも、外部理事を増員する前に、評議員を増員する必要があると考えています。</p>

(3) 第三者評価の受審とその水平展開による法人全体のガバナンス強化

令和元年度実施状況	<p>布市福寿苑が平成29年度、みのわの里が平成30年度に受審し、福寿苑が令和元年10月9日・10日に受審しました。</p> <p>3つの特別養護老人ホームの受審が終わり、施設の運営管理・利用者処遇についてそれぞれの施設での強みと弱みが明らかになりました。</p> <p>(各施設の結果は付表②第3者評価受審結果一覧を参照)</p>
令和2年度への課題	<p>各施設の結果を比較・検証することで、施設の運営管理・利用者処遇について強みと弱みを抽出できると考えていますが、その改善計画の策定や実施を施設のみで検討すると、その施設内のみの考え方にとらわれて、多角的な見方ができなくなる可能性があります。</p> <p>川福会のスケールメリットを活かし、それぞれの結果を比較する事で、法人として取り組むべき優先順位が明らかになると考えています。</p> <p>また、受審した特別養護老人ホームのみならず、介護老人保健施設や軽費老人ホーム、小規模多機能ホームにもしっかり落とし込を行い、施設運営管理・利用者処遇の向上に努めていく必要があると考えています。</p>

(4) 組織風土の診断と改革

令和元年度実施状況	<p>組織の硬直化を防止し、風通しの改善に努める事で機能的にマネジメントが実施できるよう、令和元年9月3日大阪府社会福祉協議会主催の「組織風土診断参加促進セミナー」に参加し、第1統括部の「特別養護老人ホーム福寿苑」「介護老人保健施設枚岡の里」「ケアハウス喜里川」3施設の組織風土診断を申込、実施しました。</p> <p>実施後、令和元年11月20日、同じく大阪府社会福祉協議会主催による診断結果の説明会に参加し、各事業所においてその結果内容の検証を実施しました。</p>
令和2年度への課題	<p>法人の計画の実行や目標を達成するためには、その戦略や仕組みを構築し、その進捗管理を行う事が必要であり、また、職員一人一人の能力が最大限に発揮されるためにも、職員がその強みと弱みを補完する事が必要となります。</p>

	<p>そのマネジメントについて、管理職がしっかり理解をしたうえで、各施設の職員に周知する必要があると考えています。</p> <p>第1統括部での組織風土診断結果における傾向として、経営全般を評価する項目の内、法人の方針や目標達成に向け施設運営を実施してゆく事において、その内容や重要性が上手く周知されていない、管理方法等における不備や組織的機能が十分発揮されていない等、管理者・職員ともに評価が低く、課題が残る結果となりました。</p> <p>これは組織マネジメントとして重要な「目標設定（目標に対する施策の立案、最適な人員配置等）」「計画（目標を達成までのプロセス・期間等）」の計画性・実行性が弱いという結果と考えています。</p>
--	---

[2] 職員育成

(1) 全職層での目標管理の実施開始

令和元年度 実施状況	<p>経営補佐職、上席管理職、管理職は目標管理を軸に自己啓発に努めております。</p> <p>目標管理を実施することにより、目標についてどのように計画を立て、どの方法(OJT、Off-JT、SDS)で能力を習得するかを検証いたしました。</p> <p>順調に目標達成することにより成果を上げている職層、職員と目標を挙げているものの実施が進んでいない職層、職員と進捗に差が出ている状況があります。</p> <p>一方で、目標管理の進捗に差があるとはいえ、全ての職層で目標設定、面談を実施することができました。</p>
令和2年度 への課題	<p>目標管理は、職員OJTの仕組みであり、当法人の教育制度でもあります。</p> <p>一方、今後は、公正な評価の仕組みを確立することで、人事管理の公平性及び職員の意欲の向上を図り、人材の開発・育成に資する事を目的として、令和2年4月から目標管理から人事考課への移行を行います。</p> <p>人事考課へ移行するにあたり、職員育成という共通した意義はありますが、人事考課は評価を目的としており、その意義における職員教育及び考課者の人事考課理解の教育を行う必要があります。</p> <p>また、人事考課の仕組みの中に、目標管理の仕組みを合わせた形で運用しますが、丁寧な運用が必要であると考えています。</p>

(2) 教育計画の実施検証と効果測定

令和元年度 実施状況	<p>法人の新卒研修に加え、平成26年度から新卒のフォローアップ研修や法人中途採用研修と中途採用フォローアップ研修の研修サイクルを作成して実施したことを検証し、研修内容と研修サイクル、講師の見直しを行い実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念、ビジョンのバージョンアップの解釈についての教育 ・業務監督職や専門職層のキャリアパスの構築 ・学校関係とタイアップした教育体系（初任者研修や介護実習指導者講習会等）を
---------------	--

	<p>検討しました。</p> <p>目標管理やOJT実施の継続、検証については、各拠点や人財育成委員会、職場研修担当者会で効果測定を行いました。(結果は「目標管理から人事考課への移行」に記載)</p> <p>また、外国人雇用促進のための人財育成の計画と受け入れ態勢の準備のため、他法人訪問やセミナーの参加、マニュアルの見直し等を実施しました。</p> <p>効果測定としては、各法人研修等に対する振り返りアンケートを実施し、そのアンケート結果から職員理解度を確認しています。</p> <p>その後の姿勢・発言・行動変化がみられる職員もおり、法人研修等の教育にある一定の効果がみられると考えています。</p> <p>目標管理については、目標達成度は職員の力量で差が出る部分もありますが、目標達成や達成に近いき職員もおり、ある一定の効果がみられると考えています。</p>
令和2年度への課題	<p>教育計画立案と計画実施は行っていますが、効果測定は職員の理解度と資質の差が出る部分も大きく影響しており、その測定結果の具体化は大きな課題と捉えています。</p> <p>例えば資格取得支援についてケアマネ受験サポートチームによる学習支援の年間計画を立て実施していますが、平成30年度は法人職員受験者21名のうち合格者1名と伸び悩んでいるものの、その測定は合格者という具体的な測定が可能です。</p> <p>一方、管理職には、財務管理、人事管理、労務管理、運営管理等、法人を経営・運営していき、事業所を管理監督できる力を身に付けていく必要があると考えています。</p> <p>また、教育の効果測定については、具体的な測定を行う必要で、「アンケート」「テスト」「目標管理」「研修目的と結果リンク」等で確認する必要があると考えています。</p>

(3) キャリアパスの構築と教育の連動

令和元年度実施状況	<p>キャリアパスについては、それぞれの職位における職責、職能、またその能力を得る、向上させるための必要教育について検討し、上半期で見直しを行いました。</p> <p>また、下半期では、2等級から5等級までの職務等級の概念について整理を行い、その項目においてキャリアパスとの連動の検討と人事考課の評価ツールに落とし込みを行いました。</p> <p>当法人の人事考課は評価のみではなく、目標管理を含めた職員教育の意味もあり、その人事考課の基準を明確化することで、等級昇格や昇給への道筋が職員に明示できると考えています。</p>
令和2年度への課題	<p>現在の法人のキャリアパスは、それぞれの職務において複数等級が存在しています。令和元年度では2等級から5等級の職務等級の概念を整理しましたが、令和2年度では6等級から9等級の等級概念の整理を行います。</p> <p>職務が特別養護老人ホームの施設長であった場合、8等級の施設長と9等級の施設長では何が違うのかを明確にする必要があると考えています。</p>

(4) 外国人採用のための体制整備

<p>令和元年度 実施状況</p>	<p>令和元年6月18日・19日に石川県にあるアリス学園（日本語学校・介護養成校）に訪問し、教師との意見交換、外国人留学生との面談等を行いました。</p> <p>12月には学生への法人説明会に参加します。</p> <p>また、9月9日から12日にはベトナムハノイにある日本語学校へ訪問し、留学生支援の面談を行い、3名を内定しました。</p> <p>それぞれの学生に対する奨学金規程も策定しました。</p> <p>外国人留学生を受け入れるにあたっては、7月に研修にて法人の業務監督職クラス50名の職員に留意すべき事項や注意点を伝達し、また12月には、外部講師を招聘して、事例や国民性等について勉強会を開催しました。</p> <p>また、現場介護士が外国人留学生を身近に感じることができるよう、近隣の大学との関係構築に注力し、外国人留学生の実習を受け入れる体制整備や、法人が支援する外国人留学生の生活支援のための住居や日常生活備品の準備を行いました。</p>
<p>令和2年度 への課題</p>	<p>外国人留学生を支援するにあたり、管理職や業務監督職は理解を深めてきているところではありますが、留学生が働くのは介護現場であり、そこでともに勤務する介護士の理解が必要となります。</p> <p>また、各施設の課題として、言葉の壁がある中でのコミュニケーション、指導方法の統一、留学生の生活支援サポート等があげられます。</p> <p>外国人採用は、単なる人材確保の観点でなく、学生が、国を超えて、介護を学びに来るということについて、介護士を目指す意欲のある学生を支援し、ひいては介護後進国の発展に尽力する等、社会福祉の向上に寄与する事が大きな目的であることを、あらためて職員の理解を深めていく必要があると考えています。</p>

2. 既存事業の充実

[1] 法人の収支差額（資金収支） 2.5億円黒字達成

(1) 経費率の定率化

<p>令和元年度 実施状況</p>	<p>経費削減のために業者の見直しについては、各消耗品について3社見積もりを行い、最も条件が良い業者からの購入を行っております。</p> <p>また、洗剤やシャンプー、ガソリン等一部の購入品の見直しも実施しました。</p> <p>各拠点においても、光熱水費の削減や消耗品の使用数等について職員に啓発を行うとともに、節水器材のリース等を行い、経費の節減を行いました。</p>
<p>令和2年度 への課題</p>	<p>経費率の定率化については、令和元年度では行えておらず、令和2年度において、収入の増加による経費率の改善ではなく、「収入に対して、この支出は何%を限度とする」</p>

	<p>という定率を確定することを法人及び各拠点の管理者が行い、そのうえで職員の節約意識を向上させることで改善に取り組む必要があると考えています。</p> <p>また、業者の見直しについては、対象を拡大し、スケールメリットを生かした見直しをさらに実施していく必要があると考えています。</p>
--	---

(2) 赤字事業の内容見直し

令和元年度 実施状況	<p>社会福祉法人が実施する事業においては、介護保険内外のサービスであっても利用者や地域、社会のニーズに添って提供されるべきであり、デマンドサービスであってはならないと考えております。</p> <p>そのニーズに添ったサービスが求められ、サービスの質の高さが収入の高さにつながると考えております。各事業における赤字事業の内容見直しについては、加算取得の推進、営業方法の検討、訪問介護事業においては、自費サービスの開始や障害サービスの開始の検討を行いました。</p> <p>開設以来、赤字事業であった「だいとうケアプランセンター」は、大東市での事業拡大を行う上で必要なサービスであると考え、拠点機能の充実を図る事業として「ごりよりの家」に移転することにしました。</p>
令和2年度 への課題	<p>赤字事業の見直しについては、平成27年9月及び平成30年8月に策定したサービス事業所統廃合計画にて検討しています。</p> <p>サービス事業所統廃合計画に策定されていない事業として、小規模多機能型居宅介護と地域密着型通所介護が挙げられます。</p> <p>小規模多機能型居宅介護は登録者数が少なく、加算取得も必要です。</p> <p>認知症対応型通所介護は、一般通所介護との差別化が必要であり、地域密着の趣旨に沿った事業運営が必要と考えています。</p> <p>また、小規模多機能型居宅介護・訪問介護・地域密着型通所介護については、共生型サービスの指定をとることで、高齢者のみならず障がい者の受け入れを推進し、社会のニーズに沿いながら赤字事業の収支改善に注力する必要があると考えています。</p>

(3) 既存拠点での新規事業（新規加算獲得含）検討

令和元年度 実施状況	<p>既存施設における新規事業においては、訪問介護の自費事業を検討しております。</p> <p>介護保険で対応できない院内付き添いや年末大掃除、庭掃除等、身近なサービスからの取り組みの検討を行いました。</p> <p>加算取得については、各拠点においてすべての加算について検討し、法人としての加算取得計画を策定しました。</p>
令和2年度 への課題	<p>令和元年度の検討では、特別養護老人ホームにおける併設事業について検討しましたが、令和2年度では介護老人保健施設における新規事業の検討を開始する必要があると考えています。</p>

	<p>住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築において、在宅復帰支援・在宅生活継続支援を行う介護老人保健施設は重要な役割を担うと考えており、訪問看護や訪問リハビリ等の事業開始の検討が必要と考えています。</p>
--	---

[2] 事業サービスの見直し

(1) 既存事業におけるアウトリーチ型を含むサービスの可能性の検討と試行

令和元年度 実施状況	<p>当法人が行っていない障害福祉サービスへの進出として、ケアフル布施を事業譲渡により、令和元年9月1日に開設しました。</p> <p>今後、ケアフル布施の実態把握を行い、川福会の既存訪問介護サービスとケアフル布施のそれぞれのストロングポイントを融合させ、よりよい利用者支援につなげていきたいと考えております。</p> <p>また、川福会では事業として行っていない訪問リハビリについて、箕面市介護老人保健施設の指定管理の公募を検討することと併せて考えましたが、結果として指定管理者への公募は行いませんでした。</p> <p>その他の検討については、本事業報告書の「2-[1]-（3）既存拠点での新規事業（新規加算獲得含）検討」に記載の通りです。</p>
令和2年度 への課題	<p>特別養護老人ホームみのわの里の併設事業として訪問看護を運営していましたが、24時間体制がとれず、利用者ニーズに応えることができなかったため平成27年度に事業を廃止しており、その課題解決に向けても検討する必要があると考えています。</p> <p>既存サービスの見直しとしては、サービスの質の向上に一層注力するため、加算取得を推進し、現在提供しているサービスにさらなる価値を付加したサービスを提供する必要があります。</p> <p>令和元年度に未検討であった訪問看護や訪問リハビリ等のサービスを検討します。</p> <p>課題解決に向けて、他職種・特に医師・看護師・療法士等の医療職が協力・連携をとる必要があるため、介護老人保健施設に併設する方向で検討します。</p>

(2) 全拠点及び事業の業務改善運動の展開

令和元年度 実施状況	<p>業務効率改善については、介護ケア記録システムを平成29年に施設サービスに対して導入しております。</p> <p>また令和元年度では、みのわの里デイサービスにシステム導入、すいれんでは施設内情報共有サーバーの設置、利用者支援においては、ねむりスキャンの導入の検討等を行いました。</p> <p>また、職員の職場環境をよりよくするため、当法人ではフレックス制度を運用してい</p>
---------------	---

	<p>ますが、令和元年度では、その適用対象の職務を拡大しました。</p> <p>また、職員の始業、終業、休憩等の時間管理を含めた労務管理について、法人の管理職会議で理解促進を行い、職員の時間管理ツールの策定を行いました。</p>
令和2年度への課題	<p>業務改善では事務的作業の簡略化や情報伝達の迅速化がさらに必要であると考えており、令和2年度では拠点施設において、インカムの導入、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターで電話ヘッドセットの導入、介護現場と事務所のメール活用による情報共有を検討します。</p> <p>またフレックス制度対象職種を、栄養士、介護長、相談員等に拡大を検討します。</p>

(3) 第三者評価等を通じたサービス提供の改善点の改革と水平展開

令和元年度実施状況	<p>第三者評価等を通じた検討については「1-[1]-(3) 第三者評価の受審とその水平展開による法人全体のガバナンス強化」に記載のとおりです。</p> <p>また、利用者のサービス満足度アンケートを毎年行っており、職種別連絡会にてアンケートを作成、各事業にて実施、職種別連絡会にて報告書を作成し、サービス向上委員会にて結果を共有しています。</p>
令和2年度への課題	<p>利用者処遇向上については、福寿苑・みのわの里・布市福寿苑で受審した第3者評価結果を活用します。</p> <p>第3者評価結果を比較することで、3拠点とも実施できていない項目については優先課題とし、またいずれかの拠点が実施できている項目についてはモデルとし、期日を決めたくて改善計画を策定する必要があると考えています。</p> <p>利用者アンケートの統計結果と第3者評価結果をリンク・分析することで、ダイヤモンドサービスではない真のニーズに焦点をあてた利用者処遇の向上に注力する必要があると考えています。</p> <p>職員アンケートでは、ほとんどの職員が、介護に携われることに喜びと誇りをもって、日々の業務に取り組んでいる結果が出ましたが、一方利用者処遇においては、理想とする良質なサービス提供が行えていないと感じている職員が多くいることもわかりました。</p> <p>利用者処遇の向上を行うためには、職員育成、業務効率の改善、課題の可視化等による課題解決が必要と考えています。</p> <p>またそのアプローチを法人のスケールメリットを活かし、各事業所で共有することが必要と考えています。</p>

(4) 法人全体を通じた介護の現状把握と問題点の抽出及び改善運動の展開

令和元年度実施状況	<p>川福会のサービスが、本当の意味で利用者への個別支援となっているか、時には職員都合にウェイトがおかれ利用者処遇が低下していないか、そしてまた、利用者ニーズに対しての支援となっているかは常に検討する必要があります。</p> <p>利用者の主訴について支援をすることはもちろんですが、川福会の職員は主訴＝ニーズではないということを理解する必要があります。</p>
-----------	---

	<p>主訴のみに対応する事はダイヤモンドサービスとなり、その利用者に本当に必要とされる個別ニーズへの支援がおろそかになることがあります。</p> <p>平成30年度に、みのわの里をモデルにして、本来の個別支援の意味を教務改善プロジェクトチームで業務監督職等にしっかり伝達しました。</p> <p>その考え方を各会議にて川福会全体への伝達を行い、ニーズに添ったサービスの提供に注力することを意識付けしました。</p> <p>また、令和元年度はリスクマネジメントの観点についても、リスクマネジメント方針や実施要綱等を策定し、あらためて、職員教育を実施しました。</p> <p>法人サービス向上委員会では、利用者処遇及びサービスの質、職員の資質向上を目的としてサービス提供状況や職員、事業所の現状把握と課題抽出を目的とし、全職員を対象に2年に1度のアンケートを実施しており、令和元年11月に実施しました。</p> <p>苦情解決報告会（6月・12月）第三者委員への報告、意見聴取、改善取組み、公表を実施しました。</p>
令和2年度への課題	<p>利用者処遇については、特別養護老人ホーム3施設で受審した第三者評価の結果を用いて対応します。</p> <p>第三者評価結果の活用と職員アンケートの活用、職員教育については、「2-〔2〕-（3）第三者評価等を通じたサービス提供の改善点の改革と水平展開」に記載の通りです。</p>

3. 新規事業拡大の成功

〔1〕 地域密着型小規模多機能型居宅&認知症デイサービス事業 {ごりょうの家}

（1）拠点としての黒字化

令和元年度実施状況	<p>大東市御領地域での地域密着型サービス拠点として、広報活動、情報発信、公益的な活動に取り組み、地域や関係機関との関係づくりを積極的に行いました。</p> <p>小規模多機能型居宅介護については、柔軟な機能性を生かし、目標稼働である利用者獲得を行いました。認知症対応型通所介護が目標の稼働を下回りました。</p> <p>認知症医療機関や地域のケアマネジャーに向け、PRを行いました。利用に繋がるケースは少なく、単月黒字化に至っていない状況があります。</p>
令和2年度への課題	<p>在宅で介護されている方々や認知症の高齢者を介護されている方に、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型通所介護の特徴や長所が、まだまだ周知されていません。</p> <p>また利用者ニーズが多様化する中、高齢介護の受け入れのみならず、障がい者の受け入れを行う必要があると考えています。</p> <p>だいたいケアプランセンターを移転し、併設することにより介護相談窓口の機能を</p>

	<p>さらに充実させ、居宅ケアマネジャーと協働で、小規模多機能型居宅介護と認知症対応型通所介護の特色を十分伝える取り組みなど積極的な周知活動が必要と考えます。</p> <p>また、地域密着型の事業所として、地域における公益的な取り組みを継続することにより、令和2年6月には、小規模多機能型居宅介護の利用登録者25名以上、認知症対応型通所介護の稼働率を75%に向上させることにより黒字転換を図りたいと考えています。</p>
--	--

(2) 地域の公益活動の拠点化

令和元年度 実施状況	<p>地域高齢者の介護予防として、大東市内の各地で行われる「元気でまっせ体操」をごりょうの家で継続開催し、また、地域の認知症の方の支援として「認知症カフェ」を定期開催するなど、近隣地域の公益活動の拠点としての取り組みをすすめました。</p> <p>また、ごりょうの家、だいたうケアプランセンターにおいては、社協の「大東市地域貢献委員会」に参画、「御領サロン」への参加、大東市の地域住民に対しての介護イベントである「介護の日ふえすていばる」に出展だけでなく実行委員も担うなど、公益活動に主体的に参加しました。</p>
令和2年度 への課題	<p>地域との関わりやごりょうの家の施設を活用した地域公益活動に取り組みましたが、今後はさらに地域範囲を拡大し、地域拠点化をすすめるため、地域のニーズを抽出することが必要と考えています。</p> <p>他機関主催の地域公益活動の参加についても一層の注力が必要と考えています。</p>

[2] 介護老人保健施設すいれん

(1) 拠点としての黒字化

令和元年度 実施状況	<p>稼働率向上、収支の改善を最優先に取り組みました。</p> <p>施設の周知に注力して、地域や医療機関、その他関係機関への広報活動や施設の情報発信を広報誌の発行やホームページにおいて積極的に行った結果、稼働率も上昇し、単月においては、収支黒字化を達成しました。</p> <p>前年度計画で未実施であった既存施設からの職員異動を行い、外部採用もすすめ、職員の確保を行い、その職員育成に取り組み、サービス提供体制を充実しました。</p> <p>令和2年1月単月で老健稼働率81%に改善、併設されている通所リハビリ、居宅介護支援事業所との合計で、1月単月の事業活動資金収支差額は約550万円と改善がされました。さらに、令和2年3月には稼働を伸ばし老健稼働率約88%へ改善しました。</p>
令和2年度 への課題	<p>稼働率90%以上の軌道に乗せることで通年損益黒字化を実現し、経営基盤を安定させる必要があります。</p> <p>ご利用者の在宅復帰支援をすすめて、7月には、在宅復帰支援加算型の老健へ移行、ご利用者の退所後の医療・介護支援体制を構築し、退所前連携加算所得をしていくこと</p>

	<p>で、拠点経営の安定に注力します。</p> <p>また、利用者の在宅復帰支援と在宅生活継続支援体制の充実をすすめていくことで、在宅復帰支援加算を取得し、さらに、その先に在宅復帰強化型の老健として、鶴見区において地域包括ケアの中核を担う施設として役割を果たしていく必要があると考えております。</p>
--	---

(2) アウトリーチ事業の検討と試行

令和元年度 実施状況	<p>アウトリーチ事業の検討と試行</p> <p>介護老人保健施設については、稼働率の向上を最優先に取り組んだこともあり、在宅復帰支援への取り組みがしっかり行えていない状況がありました。</p> <p>その中で、在宅復帰される利用者に対しては、必要に応じて、居宅介護支援事業所でのケアマネジメントや通所リハビリの利用による支援を行いました。</p> <p>また、地域や医療機関等関係機関との関係づくりにも取り組みましたが、どのようなアウトリーチ事業を行っていくかについては未検討でした。</p>
令和2年度 への課題	<p>今後、利用者の在宅復帰支援に積極的に取り組み、在宅生活支援施設として、地域包括ケアの中核を担う介護老人保健施設の役割を果たす必要があると考えています。</p> <p>在宅復帰支援にしっかり取り組みながら、利用者の在宅生活の継続支援を行うためのニーズの発掘を行う必要があると考えています。</p> <p>在宅復帰された利用者に対して、療法士等の専門職による自宅訪問を実施し、家屋調査、在宅生活継続のための指導等、在宅復帰支援機能を強化する必要があると考えています。</p>

4. 地域医療の連携と地域公益活動の推進

[1] 医療との連携

(1) 2 医療法人との連携

令和元年度 実施状況	<p>枚岡病院・真正会との現場連携については、診療・治療の実施の他、枚岡地域の健康診断の実施・予防接種など協力医療機関としての機能提供が行われています。</p> <p>また、枚岡地区において合同実施している行事（健康まつり）を始め、川福会の各拠点で実施する行事（施設のまつり）へのブース出店、地域行事への協力・支援等々、実務レベルでの協力関係が実施されています。</p> <p>経営連携については、地域連携や地域包括ケアシステムの推進の協議を行いました。</p>
課題	<p>枚岡病院と真正会とは引き続き地域包括ケアシステムの実現に向け努力してゆく必要があります。</p>

	<p>令和元年度では具体的な話にはなっていませんが、今後も経営レベルでの協議を行い、その実施に向けた計画や期日、役割分担等の具体案を取りまとめていく必要があります。まずは地域における活動実施への一歩を踏み出せてゆけるよう注力するとともに、実施計画を策定する必要があると考えています。</p>
--	---

(2) 新規事業地の医療機関との連携の強化と事業の施行

	<p>新規事業地の医療機関との連携の強化と事業の施行</p> <p>大東市においては、協力医療機関である仁泉会病院をはじめ徳洲会病院、協立診療所など、近隣医療機関と連携して利用者支援に取り組みました。</p> <p>大東四条畷医療連携推進協議会にも参画し、地域の医療機関との連携を拡大することに努めました。</p> <p>大阪市鶴見区においては、介護老人保健施設という機能をいかし、近隣医療機関へ積極的な情報提供により連携体制の構築に取り組みました。</p> <p>施設の近隣にある本田病院、和田病院と連携強化を図りつつ、さらに地域範囲を広げ、ご利用者の受け入れや入院を通じて、市内医療機関との連携体制を構築しました。また、近隣のクリニックから産業医を選任しました。</p>
令和元年度 実施状況	
課題	<p>大東市・大阪市鶴見区において、両施設とも近隣の主な病院との連携体制が構築されてきましたが、さらに地域包括システムの強化を図るには、近隣の診療所やクリニックとの連携体制の構築も必要であると考えています</p> <p>また、在宅医療・介護連系の推進のみならず、生活支援体制整備や地域ケア会議、認知症施策の推進が必要であると考えています。</p>

[2] 地域公益活動の推進

(1) 拠点での事業の水平展開と拠点と地域性を生かした事業の深化

令和元年度 実施状況	<p>各拠点の地域公益活動として、サロン、認知症サポーター講座の開催、認知症カフェ、地域への施設備品の貸出し買物ツワー、地域清掃、備蓄品を増やし、子育て支援の拠点として提供等の継続な推進等を実施しました。</p> <p>その実施に際しては、拠点間での情報共有や協力体制の構築にも注力しました。</p>
課題	<p>当法人が事業を展開する地域は、東大阪市、大東市、大阪市鶴見区で、令和2年度については、それぞれの地域性やそのニーズを抽出し、地域公益活動を行っていく必要があると考えています。</p> <p>また、地域公益活動を推進するためには、社会福祉法人の本来の設置趣旨に鑑み、地域の福祉課題や地域の生活課題を発掘し、その解決のために資源を活かし地域住民とともに取り組んでいくことが必要であると考えています。</p>

(2) 法人取り組みの実行

<p>令和元年度 実施状況</p>	<p>法人では、①地域防災②オレンジリング取得推進③認知症高齢者の支援④子育て支援⑤地域の身寄りのない人の支援⑥障害者の支援とケアフル布施との連携による地域公益活動の推進の6項目を軸とした、地域共生3ヵ年計画を策定しました。</p> <p>令和元年度では、地域共生3ヵ年計画の具体的実践における進捗として、オレンジリング取得推進及び子育て支援についての検討まででした。</p>
<p>課題</p>	<p>地域公益活動を推進するためには、社会福祉法人の本来の設置趣旨に鑑み、地域の福祉課題や地域の生活課題を発掘し、その解決のために資源を活かし地域住民とともに取り組んでいくことが必要であると考えています。</p> <p>現状、各拠点の主体的取組が先行しており、今後は法人としての具体策の検討が必要と考えています。</p> <p>令和2年度では、地域共生3ヵ年計画のうち、特に地域防災について注力する必要があると考えています。</p>

(3) 新規事業地域での公益活動への主体的参加

<p>令和元年度 実施状況</p>	<p>すいれんでは、地元自治会集会場にて介護保険の説明に講師派遣、鶴見商業高校への講師派遣など公益活動を実施しました。</p> <p>また「鶴見区民まつり」に介護相談ブースの初出展、地域に向けて「すいれんまつり」を開催するなど、地域公益活動を主体的に実施しました。</p> <p>ごりょうの家は 「3- [1] - (2) 地域の公益活動の拠点化」に記載の通りです。</p>
<p>課題</p>	<p>地域公益活動への主体的な参加は開始しているが、さらに地域との関わりを深め、地域のニーズを抽出し、ニーズに合った提案が的確にできるようになり、施設が主体的に地域と一緒に公益活動を実施する必要があると考えています。</p> <p>自治会協議やサロン活動の際のアンケート等により情報収集や実態把握等にて地域におけるニーズ抽出を行う必要があると考えています。</p> <p>また、療法士、看護師、管理栄養士等の専門職を活用し、公益活動内容のさらなる充実や地域ニーズに沿った介護予防・家族介護教室開催等、新たな公益活動に取り組む必要があると考えています。</p>

付表① 令和元年度 各事業 稼働率一覧表

拠点区分	サービス区分	定員	年度	項目	年間目標	単月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考 (黄色網掛け部分)			
福寿苑	特別養護老人ホーム	50	H31年度	稼働率	96.0 %	単月稼働率	87.5	90.4	91.4	86.5	89.0	89.1	88.2	87.4	89.1	91.2	94.4	89.1				
			平均稼働率			87.5	89.0	89.8	89.0	89.0	88.7	88.9	88.7	89.0	89.5	89.4						
			H30年度			単月稼働率	89.9	91.5	86.6	90.8	92.6	87.5	88.0	92.8	83.4	87.7	84.2	82.5		89.6		
		H29年度	平均稼働率	89.9	90.7	89.4	89.7	90.3	89.9	89.6	90.0	90.4	90.1	89.6	89.0	88.5	91.3	93.0		92.7		
			単月稼働率	91.3	87.2	93.7	93.5	96.6	98.3	96.8	96.4	92.1	86.3	91.3	88.5	92.7	93.0	92.7				
			平均稼働率	91.3	89.2	90.7	91.4	92.5	93.4	93.9	94.2	94.0	93.2	93.0	92.7	93.0	92.7					
		短期入所生活介護	4	H31年度	稼働率	85.0 %	単月稼働率	125.0	113.7	123.3	112.1	149.2	124.7	105.0	154.8	124.2	125.8	119.4		122.4	129.8	
				平均稼働率			125.0	119.3	120.6	118.4	124.7	121.4	126.3	126.0	126.0	125.3	125.1	125.5				
				H30年度			単月稼働率	78.3	78.2	70.0	70.2	93.5	118.3	106.5	95.8	79.8	88.8	87.8		91.6	98.5	
	H29年度		平均稼働率	78.3	78.3	75.5	74.2	78.1	84.7	87.9	88.8	87.8	89.5	71.0	84.8	88.7	86.8					
			単月稼働率	84.2	79.8	85.8	89.5	87.9	96.7	94.4	89.2	89.5	86.8	86.8	86.8	86.8	86.8					
			平均稼働率	84.2	82.0	83.2	84.8	85.5	87.3	88.3	88.4	88.5	86.8	86.8	86.8	86.8						
	H29年度		単月稼働率	69.2	71.4	75.7	78.1	77.3	79.0	74.8	77.7	73.6	73.5	72.3	71.2	71.2	71.2	71.2	71.2			
			平均稼働率	69.2	70.3	72.1	73.6	74.4	75.1	75.1	75.4	75.4	75.0	74.8	74.5	74.5	74.5	74.5				
			H30年度	単月稼働率	71.4	67.6	66.8	66.5	67.0	67.5	61.6	62.5	65.8	64.8	63.3	69.4	66.2	66.2	66.2			
	認知症対応型通所介護	25	H31年度	稼働率	75.0 %	単月稼働率	71.4	69.4	68.5	68.0	67.8	67.8	67.7	66.8	66.3	66.2	66.1	65.9	65.9	66.2		
			平均稼働率			72.3	73.2	74.2	72.3	69.8	75.5	78.6	73.8	77.4	71.2	63.3	65.5					
			H29年度			単月稼働率	72.3	72.8	73.2	73.0	72.3	72.9	73.7	73.7	74.1	73.8	72.9	72.3				
		H29年度	平均稼働率	58.1	63.7	73.2	67.0	63.0	68.4	61.2	62.3	63.2	67.5	72.8	64.6	65.3						
			単月稼働率	58.1	60.9	64.9	65.4	64.9	65.5	64.9	64.5	64.5	64.7	65.4	65.3	65.3						
			H30年度	単月稼働率	49.2	45.6	43.5	31.5	34.8	41.3	39.3	46.2	49.6	54.6	62.1	58.5						
		H29年度	平均稼働率	49.2	47.3	46.0	42.4	40.8	40.9	40.7	41.3	42.2	43.4	45.0	46.1	46.1						
			単月稼働率	51.6	45.6	48.8	51.5	53.3	50.8	46.9	50.4	50.0	47.9	44.8	44.8	44.8						
			平均稼働率	51.6	48.5	48.6	49.3	50.2	50.3	49.8	49.9	49.9	49.7	49.3	48.9							
H29年度	単月稼働率	8.2	9.2	9.2	9.0	8.8	8.9	10.0	10.3	10.8	11.9	11.3	11.0	11.0								
	平均稼働率	8.2	8.7	8.9	8.9	8.9	8.9	9.0	9.2	9.4	9.6	9.8	9.9	9.9								
	H30年度	単月稼働率	8.7	8.6	8.0	8.6	9.5	9.4	9.1	9.1	9.7	10.3	9.4	9.4								
H29年度	平均稼働率	8.7	8.7	8.4	8.5	8.7	8.8	8.9	8.9	9.0	9.1	9.1	9.1	9.1								
	単月稼働率	10.4	10.2	10.5	10.1	10.3	9.9	9.2	8.5	8.2	8.2	8.2	9.0	9.0								
	平均稼働率	10.4	10.3	10.4	10.3	10.3	10.2	10.1	9.9	9.7	9.6	9.4	9.4									
H29年度	単月稼働率	31.0	31.8	31.7	33.2	34.6	35.3	36.0	37.5	37.2	37.6	39.3	40.8	40.8								
	平均稼働率	31.0	31.4	31.5	31.9	32.5	32.9	33.4	33.9	34.3	34.6	35.0	35.5	35.5								
	H30年度	単月稼働率	39.3	38.3	36.8	37.8	36.6	38.4	38.9	39.2	39.5	39.2	40.5	40.8								
H29年度	平均稼働率	39.3	38.8	38.2	38.1	37.8	37.9	38.0	38.2	38.3	38.4	38.6	38.8	38.8								
	単月稼働率	37.9	38.3	38.4	38.9	38.9	38.4	39.9	39.6	38.9	37.8	36.8	37.5	37.5								
	平均稼働率	37.9	38.1	38.2	38.4	38.5	38.5	38.7	38.8	38.8	38.7	38.5	38.5									

みのわの里	特別養護老人ホーム	110	稼働率	H31年度	96.0 %	単月稼働率	94.4	92.3	93.4	96.2	98.4	94.2	97.5	94.5	90.0	93.6	94.1	92.1		
				H30年度		平均稼働率	94.4	93.4	94.1	95.0	94.8	95.2	95.1	94.6	94.5	94.4	94.2			
				H29年度		単月稼働率	89.2	92.7	88.2	92.7	96.2	96.0	95.8	96.2	94.0	93.3	93.4	95.9		
	短期入所生活介護	20	稼働率	H31年度	96.0 %	単月稼働率	92.5	95.3	92.7	90.0	90.1	92.5	93.0	93.0	93.0	89.9	96.0	94.5	89.9	
				H30年度		平均稼働率	92.5	93.9	93.5	92.6	92.1	92.2	92.3	92.4	92.1	92.5	92.7	92.4		
				H29年度		単月稼働率	72.3	86.0	84.0	80.6	84.4	79.0	83.7	89.8	89.2	93.7	96.4	83.7		
	通所介護	35	稼働率	H31年度	90.0 %	単月稼働率	72.3	79.3	80.8	80.8	81.5	81.5	82.5	83.3	84.3	85.4	85.2	85.2	85.2	85.2
				H30年度		平均稼働率	101.0	82.7	92.5	84.7	94.8	90.7	78.9	83.5	90.6	83.4	86.8	76.0		
				H29年度		単月稼働率	101.0	91.7	92.0	90.1	91.1	91.0	89.3	88.5	88.8	88.2	88.1	87.1		
	認知症対応型通所介護	12	稼働率	H31年度	80.0 %	単月稼働率	83.3	91.1	82.0	91.8	98.5	93.2	83.7	98.5	90.5	93.1	96.4	92.6	92.6	
				H30年度		平均稼働率	83.3	87.3	85.5	87.1	89.4	90.1	89.1	90.3	90.3	90.6	91.1	91.2		
				H29年度		単月稼働率	80.0	79.4	86.6	81.9	79.5	82.1	85.1	82.4	84.3	85.6	83.9	78.0		
訪問介護	—	稼働率	H31年度	85.0 %	単月稼働率	80.0	79.7	81.9	81.9	81.4	81.5	82.0	82.1	82.3	82.6	82.7	82.3	82.3		
			H30年度		平均稼働率	79.4	82.5	82.2	81.8	83.1	86.2	82.5	80.4	80.2	79.9	73.6	80.5			
			H29年度		単月稼働率	79.4	81.0	81.4	81.5	81.8	82.5	82.5	82.3	82.0	81.8	81.2	81.1			
居宅介護支援事業所	—	稼働率 常勤1あたり	H31年度	80.0 %	単月稼働率	77.6	83.3	85.8	87.8	88.1	90.1	88.7	83.1	84.9	81.4	81.3	79.7	79.7		
			H30年度		平均稼働率	77.6	80.5	82.3	83.7	84.6	85.5	86.0	85.6	85.5	85.2	84.8	84.4			
			H29年度		単月稼働率	73.1	74.4	69.3	65.7	64.8	59.3	56.2	61.2	71.0	71.2	63.7	60.6			
訪問介護	—	稼働率 1日あたり	H31年度	80.0 %	単月稼働率	73.1	73.7	72.3	70.6	69.4	67.8	66.1	65.5	66.1	66.6	66.3	65.8	65.8		
			H30年度		平均稼働率	75.3	63.6	70.8	85.3	83.3	79.9	84.9	84.6	83.0	74.3	71.2	68.3			
			H29年度		単月稼働率	75.3	69.2	69.8	73.6	75.6	76.3	77.6	78.4	78.9	78.5	77.9	77.1			
訪問介護	—	稼働率 1日あたり	H31年度	80.0 %	単月稼働率	61.7	65.4	68.9	59.9	63.9	67.3	67.6	58.7	59.3	71.5	74.0	75.9			
			H30年度		平均稼働率	61.7	63.6	65.4	64.0	64.0	64.5	65.0	64.2	63.7	64.4	65.2	66.1			
			H29年度		単月稼働率	14.0	13.2	13.7	14.4	13.9	13.6	13.8	13.6	12.9	13.3	14.5	13.5			
訪問介護	—	稼働率 1日あたり	H31年度	15.0 件	平均稼働率	14.0	13.6	13.6	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.7	13.6	13.7	13.7		
			H30年度		単月稼働率	11.6	12.4	13.3	14.5	14.1	13.3	13.4	14.2	13.4	14.7	14.0	15.0			
			H29年度		平均稼働率	11.6	12.0	12.4	13.0	13.2	13.2	13.2	13.3	13.4	13.5	13.5	13.7			
訪問介護	—	稼働率 1日あたり	H31年度	15.0 件	単月稼働率	11.8	11.3	12.5	11.8	12.0	11.7	12.0	12.3	11.7	12.2	11.7	12.1	12.2	11.5	
			H30年度		平均稼働率	11.8	11.6	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9			
			H29年度		単月稼働率	34.2	36.0	36.4	36.7	37.6	33.8	37.3	37.6	38.7	38.7	39.6	39.3			
訪問介護	—	稼働率 1日あたり	H31年度	38.0 件	平均稼働率	34.2	35.1	35.5	35.8	36.2	35.8	36.0	36.5	36.8	37.0	37.2	37.4	37.4		
			H30年度		単月稼働率	31.4	30.7	30.2	30.2	31.7	31.6	33.3	31.8	32.5	34.0	34.4	34.5			
			H29年度		平均稼働率	31.4	31.0	30.7	30.6	30.8	30.9	31.3	31.3	31.5	31.7	31.9	32.2			
訪問入浴	—	稼働率 1日あたり	H31年度	38.0 件	単月稼働率	34.9	30.7	30.7	30.7	30.8	36.7	37.3	37.4	36.7	36.5	37.1	36.0	36.0		
			H30年度		平均稼働率	34.9	32.6	32.0	31.6	31.5	32.2	32.9	33.4	33.7	34.0	34.2	34.4			
			H29年度		単月稼働率	2.9	3.0	3.0	2.4	1.9	2.4	1.7	2.2	2.5	2.6	2.7	3.1			
訪問入浴	—	稼働率 1日あたり	H31年度	4.0 件	平均稼働率	2.9	3.0	3.0	2.8	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5		
			H30年度		単月稼働率	3.0	2.8	3.2	2.8	3.0	3.1	3.5	3.6	3.3	3.7	3.3	3.4			
			H29年度		平均稼働率	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.2			
訪問入浴	—	稼働率 1日あたり	H31年度	5.0 件	単月稼働率	2.6	3.1	3.7	4.1	3.6	4.0	3.9	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2		
			H30年度		平均稼働率	2.6	2.9	3.1	3.4	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5				
			H29年度		単月稼働率	2.6	2.9	3.1	3.4	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5				

拠点区分	サービス区分	定員	年度	項目	年間目標	単月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考		
							稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率		稼働率	稼働率
布市福寿苑	特別養護老人ホーム	80	H31年度	稼働率	95.5 %	単月稼働率	988	950	921	92.3	89.9	90.8	96.3	91.5	89.2	86.8	92.2	96.9			
			平均稼働率			988	96.9	95.3	94.5	93.6	93.1	93.6	93.3	92.9	92.2	92.2	92.6				
			単月稼働率			918	94.2	92.9	94.2	94.8	97.0	95.0	96.1	96.0	97.5	97.1	95.1	95.1			
			平均稼働率			918	93.0	93.0	93.3	93.6	94.2	94.3	94.5	94.7	95.0	95.1	95.1	95.1			
			単月稼働率			950	97.6	97.6	97.1	94.4	91.3	90.7	88.4	87.2	87.0	92.8	92.8	94.0			
			平均稼働率			950	96.3	96.7	96.8	96.3	95.5	94.8	94.0	93.2	92.6	92.6	92.7	69.5			
	短期入所生活介護	20	H31年度	稼働率	84.0 %	単月稼働率	695	78.4	75.3	78.2	91.0	80.0	86.1	83.7	75.5	77.3	80.0	80.0	80.0	69.5	
			平均稼働率			695	74.0	74.5	75.4	78.6	78.8	79.9	80.3	79.8	79.5	79.6	78.7				
			単月稼働率			833	67.1	82.0	78.4	80.5	79.5	84.4	87.3	90.5	85.6	82.7	84.7				
			平均稼働率			833	75.1	77.4	77.6	78.2	78.4	79.3	80.3	81.4	81.8	81.9	82.2				
			単月稼働率			797	82.9	69.7	73.7	82.9	80.8	81.9	87.5	79.4	83.7	88.8	86.8				
			平均稼働率			797	81.3	77.5	76.5	77.8	78.3	78.8	79.9	79.8	80.2	80.9	81.4				
通所介護	35	H31年度	稼働率	86.0 %	単月稼働率	878	83.4	85.6	91.0	87.2	85.7	85.1	83.5	85.3	85.3	81.4	84.0	84.0	76.5		
		平均稼働率			878	85.6	87.0	87.0	87.0	86.8	86.6	86.2	86.1	85.6	85.5	84.7					
		単月稼働率			741	78.6	79.6	83.3	81.1	79.6	80.4	85.1	89.9	86.2	80.5	83.8					
		平均稼働率			741	76.4	77.5	78.9	79.4	79.4	79.6	80.2	81.3	81.7	81.8	81.8					
		単月稼働率			823	82.2	84.9	87.5	77.5	74.4	79.8	77.9	75.1	73.9	69.3	74.7					
		平均稼働率			823	82.3	83.2	84.2	82.8	81.4	81.2	80.8	80.2	79.6	78.7	78.4					
認知症対応型通所介護	10	H31年度	稼働率	60.0 %	単月稼働率	550	57.8	53.6	40.7	42.2	49.2	50.8	53.1	43.2	44.2	44.4	44.4	36.9			
		平均稼働率			550	56.4	55.5	51.7	49.8	49.7	49.8	50.2	49.5	49.0	48.6	47.6					
		単月稼働率			284	27.0	28.5	24.6	30.7	34.6	38.9	45.8	46.8	43.8	42.1	43.5					
		平均稼働率			284	27.7	27.9	27.1	27.9	28.9	30.4	32.3	33.9	34.8	35.4	36.1					
		単月稼働率			224	21.1	25.8	29.6	33.3	32.7	27.7	31.5	29.6	31.3	32.9	32.6					
		平均稼働率			224	21.7	23.1	24.7	26.5	27.5	27.5	28.0	28.2	28.5	28.9	28.2					
訪問介護	-	H31年度	1日あたり	15.0 件	単月稼働率	140	15.0	14.0	13.5	14.4	14.9	14.8	14.7	15.2	14.7	14.9	14.9	11.3			
		平均稼働率			140	14.5	14.3	14.1	14.2	14.3	14.4	14.4	14.5	14.5	14.5	14.3					
		単月稼働率			146	14.1	16.1	15.2	15.3	14.9	16.4	15.1	15.4	14.9	14.8	14.2					
		平均稼働率			146	14.3	14.9	15.0	15.1	15.0	15.2	15.2	15.2	15.2	15.2	15.1					
		単月稼働率			124	12.4	15.3	14.7	15.4	15.0	15.0	14.6	14.8	14.8	15.5	14.0	14.3				
		平均稼働率			124	12.4	13.4	13.7	14.0	14.2	14.3	14.4	14.4	14.4	14.5	14.5	14.5				
居宅介護支援事業所	-	H31年度	常勤1あたり	38.0 件	単月稼働率	364	36.4	35.0	34.5	34.3	36.6	37.1	37.9	39.2	38.7	38.2	38.2	38.4			
		平均稼働率			364	36.4	35.9	35.6	35.3	35.5	35.7	36.0	36.3	36.6	36.7	36.8					
		単月稼働率			392	38.5	38.7	39.2	37.7	39.2	38.5	39.5	38.7	37.4	37.0	31.7					
		平均稼働率			392	38.8	38.8	38.7	38.5	38.6	38.6	38.7	38.7	38.6	38.4	37.8					
		単月稼働率			371	37.9	39.4	38.8	38.6	38.0	39.0	39.3	38.5	37.8	38.0	36.3					
		平均稼働率			371	37.5	38.1	38.3	38.4	38.3	38.4	38.5	38.5	38.4	38.4	38.4					
グループホーム	9	H31年度	稼働率	98.0 %	単月稼働率	978	88.9	92.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
		平均稼働率			978	93.3	93.0	94.8	95.9	96.5	97.0	97.4	97.7	97.9	98.1	98.3					
		単月稼働率			1000	100.0	89.6	100.0	100.0	97.8	98.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
		平均稼働率			1000	100.0	96.6	97.4	98.0	97.9	98.1	98.3	98.5	98.7	98.8	98.9					
		単月稼働率			1000	100.0	100.0	98.6	96.8	100.0	100.0	99.3	88.9	85.3	100.0	100.0					
		平均稼働率			1000	100.0	100.0	99.6	99.1	99.2	99.3	99.3	98.1	96.8	97.1	97.4					

枚岡の里	介護老人保健施設	90	H31年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	95.1	93.2	89.9	90.2	93.8	94.7	94.3	94.2	92.9	90.5	92.6	93.4		
			H30年度		96.0 %	平均稼働率	95.1	94.1	92.7	92.1	92.4	92.8	93.0	93.2	93.1	92.9	92.8	92.9		
			H29年度		94.0 %	単月稼働率	88.0	90.8	92.4	90.1	92.6	94.3	96.3	92.1	89.4	86.3	87.0	91.0		
		介護老人保健施設	99	H31年度	稼働率	95.0 %	平均稼働率	94.9	95.0	95.5	94.6	92.4	90.7	93.0	94.6	91.4	91.0	90.5	88.7	92.7
				H30年度		97.0 %	単月稼働率	94.9	95.0	95.1	95.0	94.5	93.9	93.7	93.8	93.6	93.3	93.1	92.7	
				H29年度		94.0 %	平均稼働率	90.9	89.9	93.5	96.8	94.4	93.7	92.8	89.0	93.6	95.9	96.9	94.6	
	畷田の里	通所リハビリ	30	H31年度	稼働率	85.0 %	単月稼働率	90.9	90.4	91.5	92.8	93.1	93.2	93.2	92.7	92.8	93.1	93.4	93.5	
				H30年度		85.0 %	平均稼働率	93.7	90.8	87.4	91.1	90.3	88.6	91.5	94.7	94.9	93.3	93.8	91.7	
				H29年度		75.0 %	単月稼働率	93.7	92.3	90.6	90.8	90.7	90.3	90.5	91.0	91.4	91.6	91.8	91.8	
			居宅介護支援事業所	一	H31年度	稼働率	38.0 件	平均稼働率	98.1	97.8	94.0	96.1	96.8	96.6	96.6	96.6	96.5	97.3	94.2	95.9
					H30年度		75.0 %	単月稼働率	98.1	97.9	96.6	96.5	96.6	96.6	96.6	96.6	96.4	96.5	96.3	96.3
					H29年度		38.0 件	平均稼働率	83.1	81.1	81.6	78.9	74.6	81.7	78.5	79.0	76.7	75.3	79.3	80.8
ひらおか		軽費老人ホーム	60	H31年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	83.1	82.1	81.9	81.1	79.8	80.1	79.9	79.7	79.4	79.0	79.1	79.2	
				H30年度		95.0 %	平均稼働率	84.3	77.9	80.1	80.9	76.5	78.5	81.9	86.4	81.5	82.6	85.0	83.8	
				H29年度		36.0 件	単月稼働率	84.3	80.9	80.6	80.7	79.8	79.6	80.0	80.8	80.8	81.0	81.4	81.6	
		書里川	通所介護	18	H31年度	稼働率	95.0 %	平均稼働率	72.2	72.1	76.8	75.9	73.1	74.2	73.8	75.9	82.2	78.6	76.3	81.1
					H30年度		94.0 %	単月稼働率	72.2	72.2	73.7	74.3	74.0	74.1	74.0	74.3	75.1	75.5	75.5	76.0
					H29年度		38.0 件	平均稼働率	38.7	41.2	40.7	41.8	39.3	38.2	40.0	40.0	42.2	41.2	39.7	40.7
書里川	軽費老人ホーム	66	H31年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	38.7	39.9	40.2	40.6	40.3	40.0	40.0	40.3	40.4	40.3	40.3	40.3		
			H30年度		95.0 %	平均稼働率	30.5	31.7	33.3	34.2	34.2	35.3	34.7	36.0	35.7	37.2	37.7	37.0		
			H29年度		93.0 %	単月稼働率	30.5	31.1	31.8	32.4	32.8	33.2	33.4	33.7	33.9	34.3	34.6	34.8		
	書里川	通所介護	18	H31年度	稼働率	36.0 件	平均稼働率	40.3	43.0	42.8	40.3	39.5	35.8	24.0	25.0	26.3	27.2	27.7	27.5	
				H30年度		95.0 %	単月稼働率	40.3	41.6	42.0	41.6	41.2	40.3	37.0	35.0	33.8	32.9	32.4	31.9	
				H29年度		95.0 %	平均稼働率	96.6	94.3	91.6	90.0	92.3	92.1	99.9	98.3	99.9	98.4	98.3	100.0	
書里川	軽費老人ホーム	66	H31年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	96.6	95.4	94.2	93.1	93.0	92.8	93.8	94.4	95.0	95.4	95.6	96.0		
			H30年度		95.0 %	平均稼働率	97.9	95.4	93.7	93.3	94.9	96.7	96.5	90.2	94.1	94.1	96.6	97.7		
			H29年度		93.0 %	単月稼働率	97.9	96.6	95.7	95.1	95.0	95.3	95.5	94.8	94.8	94.7	94.9	95.1		
	書里川	通所介護	18	H31年度	稼働率	94.0 %	平均稼働率	91.6	86.8	86.6	88.4	88.0	88.3	90.0	89.9	93.7	95.5	94.6	95.4	
				H30年度		94.0 %	単月稼働率	91.6	89.2	88.3	88.3	88.3	88.5	88.7	89.3	89.9	90.3	90.7		
				H29年度		94.0 %	平均稼働率	93.8	91.2	91.9	93.0	91.4	93.2	95.2	94.7	93.6	92.5	94.7	93.9	
書里川	軽費老人ホーム	66	H31年度	稼働率	94.0 %	単月稼働率	93.8	92.5	92.3	92.5	92.3	92.4	92.8	93.0	93.1	93.0	93.2	93.2		
			H30年度		94.0 %	平均稼働率	91.1	92.1	92.4	92.4	93.7	96.8	97.0	93.2	91.3	95.0	93.6			
			H29年度		91.0 %	単月稼働率	91.1	91.6	91.9	92.0	92.4	93.1	93.6	94.0	93.9	93.6	93.7	93.7		
	書里川	通所介護	18	H31年度	稼働率	91.0 %	平均稼働率	84.8	88.0	89.8	89.4	90.9	92.3	91.0	93.9	94.5	93.7	91.3	89.2	
				H30年度		73.0 %	単月稼働率	84.8	86.5	87.6	88.0	88.6	89.2	89.5	90.0	90.5	90.9	90.9	90.8	
				H29年度		70.0 %	平均稼働率	53.4	56.8	56.2	53.3	44.2	55.1	57.8	63.7	65.8	67.4	68.7	66.9	
書里川	通所介護	18	H31年度	稼働率	80.0 %	単月稼働率	53.4	55.1	55.5	54.9	52.7	53.1	53.8	55.0	56.2	57.2	58.2	58.9		
			H30年度		80.0 %	平均稼働率	67.3	70.6	72.6	74.6	72.2	66.4	72.2	68.6	64.5	57.2	51.2	54.5		
			H29年度		80.0 %	単月稼働率	67.3	69.0	70.2	71.3	71.5	70.7	70.9	70.6	70.0	68.8	67.3	66.2		
						単月稼働率	61.8	65.0	60.5	62.4	63.6	65.8	60.3	65.4	65.0	63.4	69.1			
						平均稼働率	61.8	63.5	62.5	62.4	62.7	63.2	62.8	62.5	62.8	63.0	63.0	63.6		

H29年7月から短時間
通所型サービス開始

こりょうの家	小規模多機能型居宅介護	29	H31年度	稼働率	%	58.6	58.6	58.6	58.6	62.1	65.5	65.5	65.5	65.5	69.0	75.9	79.3
			H30年度	単月稼働率	66.1	58.6	58.6	58.6	59.5	60.7	61.5	62.6	62.9	63.2	63.8	64.9	66.1
				平均稼働率	33.9	31.0	31.0	34.5	34.5	37.9	44.8	44.8	44.8	51.7	51.7	51.7	55.2
		H29年度	単月稼働率	13.8	31.0	31.0	32.8	33.1	33.9	35.5	35.5	36.6	38.3	39.7	40.8	42.0	
			平均稼働率										7.6	13.8	24.1	31.0	
		認知症対応型通所介護	12	H31年度	稼働率	%	36.4	33.0	31.7	31.5	26.2	24.7	33.3	36.9	42.0	36.3	37.8
	H30年度			単月稼働率	55.5	36.4	34.6	33.7	33.1	31.5	30.3	30.8	31.5	32.4	33.3	33.6	34
				平均稼働率	37.6	5.2	14.5	22.2	28.0	27.0	22.8	31.2	36.7	47.5	44.2	39.6	38.1
	H29年度		単月稼働率	15.0	5.2	10.0	14.0	17.5	19.4	19.9	21.6	23.5	26.0	27.8	28.8	29.5	
			平均稼働率										0.0	0.0	0.0	1.7	
	介護老人保健施設		100	H31年度	稼働率	%	51.9	57.7	58.9	59.1	70.8	74.5	74.4	74.3	80.8	87.7	87.4
		H30年度		単月稼働率	78.0	51.9	54.9	56.2	56.9	59.8	62.2	63.9	65.2	66.2	67.7	69.4	70.9
				平均稼働率	43.0		6.4	17.0	24.0	34.4	40.6	39.9	41.4	41.5	41.9	43.4	47.6
		H31年度	単月稼働率	64.0	49.1	51.9	52.8	55.9	58.1	58.1	65.6	65.3	69.2	69.9	67.1	69.6	
			平均稼働率		49.1	50.5	51.2	52.4	53.6	55.5	56.9	56.9	58.4	59.7	60.3	61.2	
		すいれん	30	H30年度	稼働率	%	1.7	1.7	8.2	11.5	16.2	18.8	24.0	33.1	34.0	37.6	44.4
	H31年度			単月稼働率	40.0	1.7	1.7	4.9	7.1	9.4	11.2	13.4	16.2	18.4	20.3	22.6	24.8
				平均稼働率	16.0	20.0	22.0	20.0	23.0	25.0	25.5	27.5	29.0	30.0	31.0	32.5	33.0
	H30年度		単月稼働率	16.0	20.0	21.1	20.7	21.3	22.1	22.7	23.4	24.1	24.8	25.4	26.1	26.7	
			平均稼働率		20.0	4.0	4.0	7.0	9.0	13.0	15.0	19.0	22.0	25.0	28.0	30.0	
	居宅介護支援事業所		—	H31年度	常勤1あたり	件	4.0	4.0	5.5	6.7	8.3	9.6	11.2	12.7	14.3	15.8	17.2
H30年度		常勤1あたり															

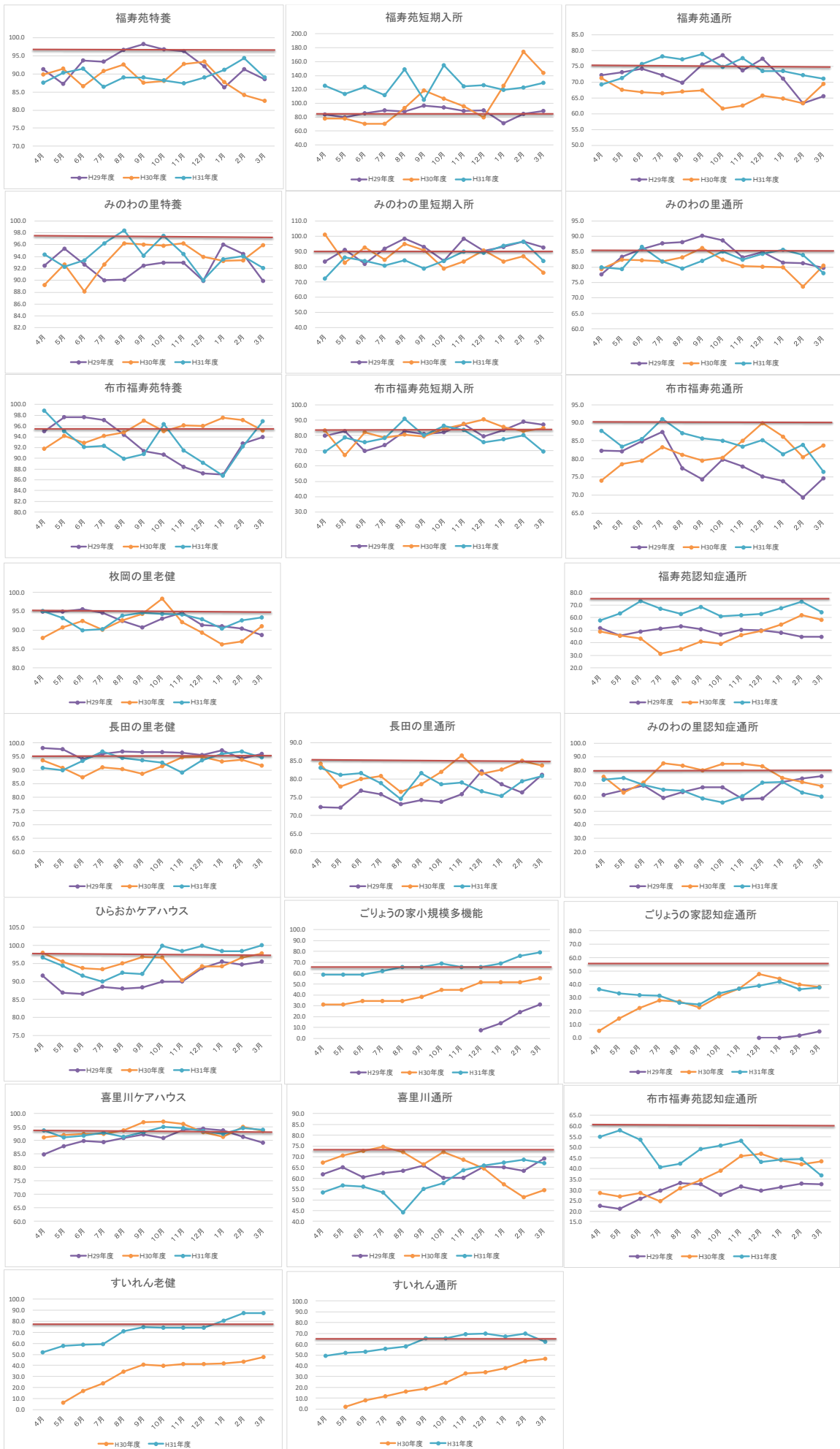
H29年12月18日開設

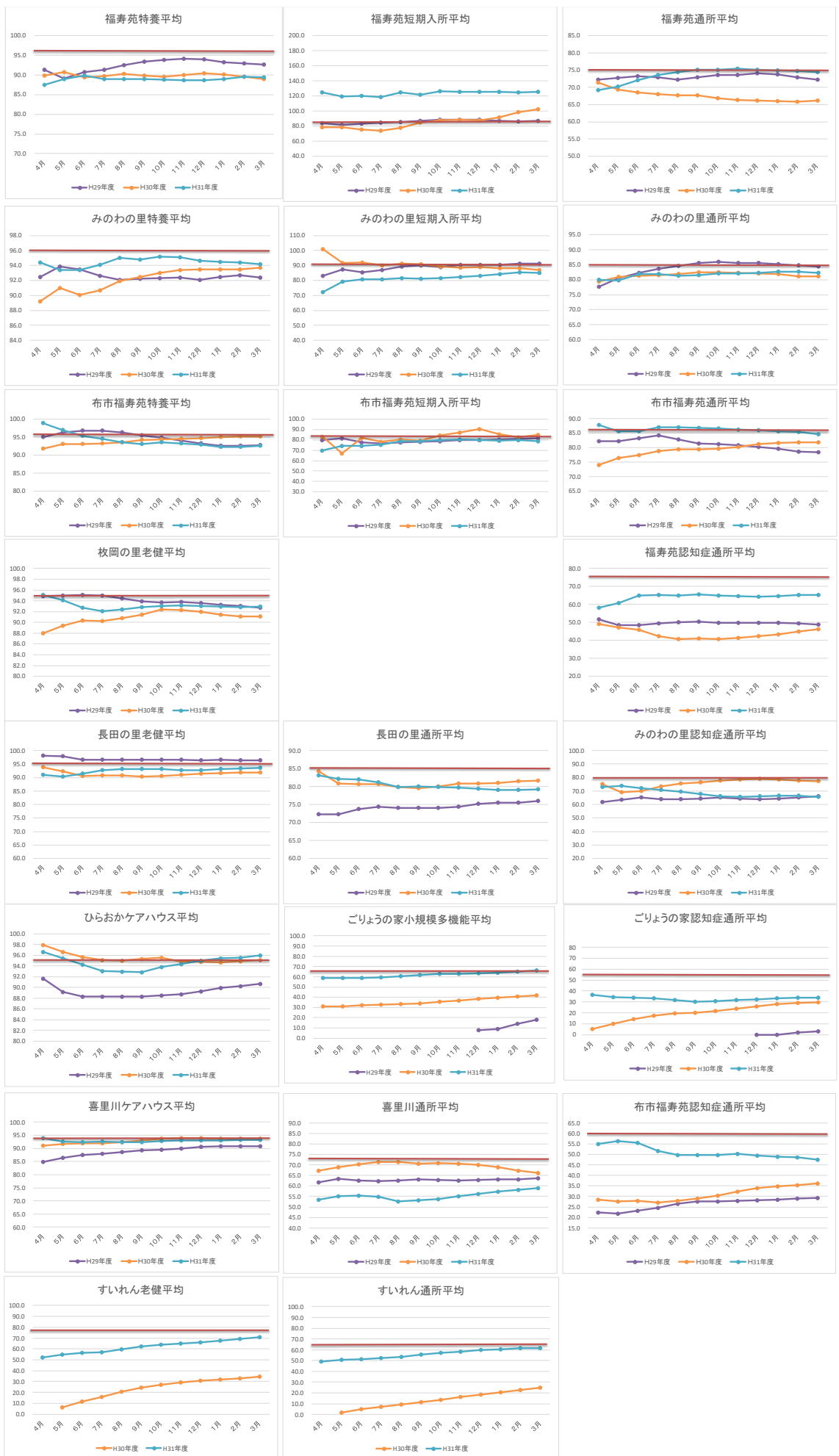
H30年5月1日開設

H30年6月1日開設

ケアフル布施(訪問介護事業所)稼働実績表

		R1年9月	R1年10月	R1年11月	R1年12月	R2年1月	R2年2月	R2年3月
稼働日数		30	31	30	31	31	29	31
常勤換算		14.8	13.8	14.2	13.7	13.2	13.6	12.4
単月	延人数	1,486	1,515	1,379	1,341	1,228	1,209	1,252
	1日あたりの訪問数	50.0	48.8	45.9	43.2	39.6	41.7	40.4
	1日あたりの訪問数(職員1)	3.4	3.4	3.1	3.2	3.0	3.1	3.3
累計	延人数	1,486	3,001	4,380	5,721	6,949	8,158	9,410
	1日あたりの訪問数	50.0	49.2	48.1	46.9	45.4	44.8	44.2
	1日あたりの訪問数(職員1)	3.4	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2
延内訳	介護保険	935	963	846	798	726	726	765
	障害者総合支援	345	356	335	345	318	309	293
	移動支援	166	168	178	173	162	158	170
	自費サービス	40	28	20	25	22	16	24
実人数	介護保険	83	84	82	73	75	72	76
	障害者総合支援	20	22	22	22	21	21	22
	移動支援	27	26	28	27	27	27	25
	自費サービス	12	6	7	8	5	5	8
ケアフル布施介護支援センター(居宅介護支援事業所)								
		R1年9月	R1年10月	R1年11月	R1年12月	R2年1月	R2年2月	R2年3月
常勤換算		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
単月	延人数	66.5	66.5	65.5	66.0	60.0	67.5	69.0
	担当件数平均(職員1)	33.3	33.3	32.8	33.0	30.0	34.0	35.0
累計	延人数	66.5	133.0	198.5	264.5	324.5	392.0	461.0
	担当件数平均(職員1)	33.3	33.3	33.1	33.1	32.5	32.7	32.9
延内訳	介護給付	55	55	55	55	48	56	57
	予防給付(件数×0.5換算)	23	23	21	22	24	23	24
委託	認定調査	7	4	4	3	6	1	5





付表② 令和元年度 地域における公益的な取り組み

実施施設	取組	取組内容	開催時期
特養 ケアハウス	大阪府社会貢献事業	生活困窮者リスクキュー事業として制度の狭間などで生活を抱える方への総合生活相談と緊急支援を行う。	随時
各施設	就労訓練事業 (都道府県認定事業)	自立相談支援機関からの紹介により就労に困難を抱える方を受け入れ、就労の機会の提供と生活面や健康面での支援を行う。	随時
各施設	社会福祉法人減免	生計の困難な方等に介護保険サービスの利用者負担額の軽減を行う事業。	年1回
各施設	職場体験	大阪府社会福祉人材支援センターに登録。 施設の近隣中学の職業体験を受入れる。	随時
各施設	大阪府広域就労支援事業	就労訓練事業と内容は同様(大阪地域職業訓練センターや福祉事務所からの紹介による)	随時
ごりょうの家	大東市地域貢献委員会	総合福祉センターにおいて大東市社協と大東市の各施設による地域貢献を話し合う。	不定期
福寿苑	ぼかぼかサロン	ケアハウス喜里川にて地域の高齢者や住民があつまる場を提供。 低価格でカラオケや茶話会等を開催。	毎月第4土曜日
福寿苑	買い物支援	地域自治会と連携等、地域高齢者に外出支援を実施。 施設の車両で送迎を行い、スーパー等への買い物支援を実施。	随時
みのわの里	ふれあいサロン	みのわの里施設にてカフェ風の雰囲気がかいさい。カラオケ・健康麻雀・創作活動・脳取トレ等を通じて地域住民と地域高齢者の交流の場を提供。	年3回
みのわの里	すまいるカフェ	地域の認知症高齢者、家族、地域住民を対象にカフェを開催し認知症の理解を深めると共に介護者の交流の場を提供。	2ヶ月に1回

布市福寿苑	かわふくくカフェ	施設のルームを開放して、地域住民に低価格提供のカフェを開催。	毎日
布市福寿苑 布市真寿庵	認知症カフェ	布市福寿苑・グループホーム布市真寿庵共同で施設喫茶ルームを開放し地域住民に低価格提供のカフェを開催。	毎月1回
ごりょうの家	認知症カフェ 元気出まっせたいそう	地域交流スペースを開放、地域住民との交流。	年3回 毎週土曜日
ひらおか	ふれあい喫茶	施設の会議室を解放をして地域自治会高齢者と入居者の交流会を開催。	月2回
ごりょうの家	御嶺サロン	御嶺地区の地域住民と、事業所、地域包括、社協等が共同でサロンを運営。	年4回
みのわの里 布市福寿苑 長田の里 福寿苑 枚岡の里 ひらおか 喜里川 すいれん	福祉祭 ファミリ－祭り コミュニティー祭り ひらおか健康祭り (4施設合同) すいれん祭り	職員、各種団体、ボランティア、地域自治会、中学校、高等学校、専門学校、大学との協力で、屋台、子供ゲーム、ビンゴ大会、カラオケ、介護相談等、地域住民との触れ合いの場を提 供。	年1回
ひらおか地区施設	4施設合同夏祭り	福寿苑・枚岡の里・ひらおか・喜里川が入所者向けの合同夏祭りを開催。地域中学校生のボ ランティア参加により入居されている方との交流の実施。	毎年8月
ごりょうの家	大東市介護の日フェステバル	ごりょうの家等、大東市の福祉事業所による市民向け活動。	年1回
各施設	地域交流	保育園・小学校・中学校・高等学校等の生徒が各施設へ訪問、又施設側から学校への訪問 等交流を図る。	随時
各施設	地域の見守り活動	各車両に「こども110番」のステッカーを張り、施設の玄関に「こども110番の家」のぼりを立 て啓発活動を行っている。	随時

各施設	地域清掃	各施設のまわり、公園等の清掃を実施。	随時
各施設	夢の貯金箱	日本財団の社会貢献自動販売機の設置。	随時
各施設	各施設会議室等の活用	地域自治会、婦人会、各種団体施設の会議室等での会議や活動等に場所の提供。 例：ひらおか・小地域ネットワーク推進委員会の会議等。 福寿苑・「生命の貯蓄体操」会場提供。 布市福寿苑・ハッピークラブ、絵手紙クラブ、パッチワーククラブ、子育て支援ニコニコの3世帯交流活動。 ごりよの家・元氣出まっせ体操。	随時
各施設	東大阪市市民ふれあい祭り	介護相談ブースや子供ゲーム、屋台等を展示。	毎年5月
みのわの里	介護予防教室	地域包括支援センター主催でリハビリ体操や3B体操を地域向けに開催。	随時
福寿苑 枚岡の里 ひらおか	地域行事支援	「枚岡秋郷祭」での無償お茶提供、休憩場所の提供。布団太鼓、出雲井、鳥居太鼓台の休憩と交流の場として施設玄関前の開放。	毎年10月
ひらおか	地域自治会	地域行事への施設備品貸出し。	年数回
喜里川	会場提供	地域を担当する地域包括支援センターの様々な取り組みに対する会場提供。	毎月複数回
喜里川	焼いも無償提供	喜里川施設行事として調理した焼いもを地域の方に無償で提供。	11月
みのわの里	ボランティア受入	市社協のボランティア要請講座、認知症サポーターステップアップ研修受講生等のボランティアを受入れている、	年3回
みのわの里	施設見学	市社協のシニア活動実践や民生員の施設見学を行っている。	年3回

みのわの里	加納ふれあい祭り参加	みのわの里が、加納小学校で開催される地域の祭りに協力機関として参加し、介護相談ブース、疑似体験コーナー、福祉用具展示を設置。	年1回
みのわの里	車いす無料貸出し事業	貸出し専用の車いすを3台確保し必要な地域の方に貸与。	随時
布市福寿苑	休憩場所の提供	布市福寿苑、地域布市春日神社祭りだんじりの休憩場所として、駐車場を開放。	毎年10月
長田の里	休憩場所の提供	長田の里、地域秋祭りのだんじりの休憩場所として、施設の開放。	毎年10月
布市福寿苑	公園の花壇植え替え	東石切町公園の花壇の植え替えを実施。	年4回
布市福寿苑	障害者施設へ駐車場提供	障害者施設が耕している畑が施設の近くにある為、その車両駐車場において、職員駐車場の解放。	随時
布市福寿苑	くさかつながる食堂	施設職員、給食委託業者等により、地域の高齢者・障害者・児童を対象にイベントを開催し、食事を提供	随時

付表③

法人内部研修一覧表

月日	研修名	参加者
7/11	令和元年度法人方針説明会	業務監督職
12/5	秋期事業別部門目標発表会	業務監督職

月日	研修名	参加者
4/1	理念・ビジョン・経営方針について	平成 31 年度新卒採用職員
	就業規則について	
	接遇マナーについて	
4/2	認知症サポーター研修	
	事故発生防止について	
	ご利用者体験・グループワーク	
4/3	映画から気づきを学ぶ	
	人権研修	
	絵画から気づき、疎通を学ぶ	
	感染症予防について	
4/4	介護の心得	
	救急救命講習	
4/5	認知症の人とのコミュニケーション	
	介護技術（口腔ケア・誤嚥性肺炎の予防）	
6/15	入職してから今までをふりかえって	平成 29 年度中途採用職員
	接遇マナー	
7/18	理念・ビジョン・経営方針について	平成 30 年度中途採用職員
	認知症研修	
1/10	認知症研修	平成 31 年度新卒採用職員
	入職してから今までをふりかえって	
1/25	人権研修	平成 29 年度中途採用職員
	社会福祉法人の在り方	

役員・本部職員研修参加一覧表

年月日	研修名	研修主催機関	参加者
4/23	社会福祉法人制度改革事務担当者フォローアップセミナー	全国経営協	管理統括部主幹
6/3	労働セミナー	大阪府社協	副本部長
6/14	日本・ベトナム介護セミナー	近畿社会福祉専門学校	副本部長
7/4	第56回社会福祉セミナー	鉄道弘済会	常務理事
7/24	会計実務セミナー	福祉医療機構	管理統括部主幹・主任・副主任事務員
7/25	社会福祉施設経営実務セミナー	福祉医療機構	本部長・副本部長
8/20	会計管理者・担当者研修会	福祉人材支援センター	管理統括部主幹
9/19	秋季研修会	総合福祉研究会	管理統括部主幹・事務員
9/24	第15回権利擁護・虐待防止セミナー	全社協	常務理事
10/2～3	監事専門講座	全国経営協	林監事
10/18	障害者施設経営セミナー	福祉医療機構	常務理事
11/8	介護老人保健施設経営セミナー	福祉医療機構	常務理事・副本部長
11/20～22	全国老人保健施設大会	全老健	常務理事
1/30～31	令和元年度社会福祉法人人事・労務管理講座	全国経営協	総務部次長
2/7	慢性期病院経営セミナー	福祉医療機構	常務理事
2/27	福祉決算セミナー	応研	管理統括部主幹
3/2	会計実務者決算講座	全国経営協	管理統括部主幹

付表④ 第3者評価受審結果一覧表 (特別養護老人ホーム福寿苑・みのわの里・布市福寿苑)

評価基準項目 (評価 a b c)		R1福	H30み	H29布
評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織				
I-1 理念・基本方針				
I-1-1(1)	理念、基本方針が確立・周知されている。	a	a	b
I-2 経営状況の把握				
経営環境の変化等に適切に対応している。				
I-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a	b
I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	a	b
I-3 事業計画の策定				
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。				
I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a	b
I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a	b
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。				
I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b	a
I-3-(2)-②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b	b	c
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組				
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。				
I-4-(1)-①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b	b
I-4-(1)-②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a	b
評価対象Ⅱ 組織の運営管理				
II-1 管理者の責任とリーダーシップ				
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。				
II-1-(1)-①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	a	b
II-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	a	b
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。				
II-1-(2)-①	福祉サービスの質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b	a	b
II-1-(2)-②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	a	b
II-2 福祉人材の確保・育成				
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。				
II-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	a	b
II-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	b	b	b
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。				
II-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b	a	b

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
II-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	b
II-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	a
II-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	b
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
II-2-(4)-①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b
II-3 運営の透明性の確保			
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
II-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	b
II-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	b
II-4 地域との交流、地域貢献			
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
II-4-(1)-①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
II-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
II-4-(2)-①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
II-4-(3)-①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	b	b
II-4-(3)-②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	a

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

III-1 利用者本位の福祉サービス			
III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
III-1-(1)-①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	b
III-1-(1)-②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	b	c
III-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
III-1-(2)-①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	b
III-1-(2)-②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b	b
III-1-(2)-③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b	b
III-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。			
III-1-(3)-①	利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	b
III-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
III-1-(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	b
III-1-(4)-②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	b	b
III-1-(4)-③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	b

III-1-(5)	安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			
III-1-(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	b	b
III-1-(5)-②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	b	b
III-1-(5)-③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	b	b
III-1-(6)	サービスに関する記録の開示を行っている。			
III-1-(6)-①	利用者や家族からの求めに応じ、サービスに関する記録の開示を行っている。	a	b	b
III-1-(7)	入所選考について適切に取り組みられている。			
III-1-(7)-①	施設サービスを受けやすい利用者が高優先的に入所できるよう適切に取り組みられている。	b	a	b
III-2	福祉サービスの質の確保			
III-2-(1)	提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
III-2-(1)-①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	b	b	b
III-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをすすむ仕組みが確立している。	b	b	c
III-2-(2)	適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			
III-2-(2)-①	アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	b	b	b
III-2-(2)-②	定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	b	b	b
III-2-(2)-③	自立を支援するという基本方針の下に、利用者個々のサービス計画が作成され、サービス実施にあたっては利用者の同意が徹底されている。	b	b	b
III-2-(3)	福祉サービスの記録が適切に行われている。			
III-2-(3)-①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	b	b
III-2-(3)-②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	b	b
III-2-(4)	適切なサービス提供が行われている。			
III-2-(4)-①	身体拘束をなくしていくための取組が徹底されている。	a	c	c
III-2-(4)-②	利用者の金銭を預かり管理する場合は、利用者や家族に定期的に報告するなど適切な管理体制が整備されている。	a	b	b
III-2-(4)-③	寝たきり予防については、利用者の意欲と結びつけながら離床対策が計画的に実施されている。	b	b	b

高齢者福祉分野（施設サービス）			
A-1 支援の基本			
A-1-①	利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している	b	b
A-1-②	利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている	b	b
A-2 身体介護			
A-2-①	入浴介助、清拭等を利用者の心身の状況に合わせて行っている	a	b
A-2-②	排せつ介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている	b	b
A-2-③	移乗、移動を利用者の心身の状況に合わせて行っている	b	b
A-2-④	褥瘡の発生予防を行っている	b	b
A-3 食生活			
A-3-①	食事をおいしく食べられるよう工夫している	b	b
A-3-②	食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている	a	b
A-3-③	利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている	b	b
A-4 終末期の対応			
A-4-①	利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立している	c	b
A-5 認知症ケア			
A-5-①	認知症の状態に配慮したケアを行っている	b	b
A-5-②	認知症高齢者が安心・安全に生活できるよう、環境の整備を行っている	b	b
A-6 機能訓練、介護予防			
A-6-①	利用者の心身の状況に合わせて機能訓練や介護予防活動を行っている	b	b
A-7 健康管理、衛生管理			
A-7-①	利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順が確立している	b	b
A-7-②	感染症や食中毒の発生予防を行っている	b	b
A-8 建物・設備			
A-8-①	施設の建物・設備について、利用者の快適性に配慮している	c	b
A-9 家族との連携			
A-9-①	利用者の家族との連携を適切に行っている	a	a
			b

【1】施設運営を振り返って

- (1) 地域包括ケアシステムを深化・推進して参ります。
- (2) 地域との連携・協力体制強化や事業の共同実施など様々な方法にて、更なる公益的取り組みを推進します。
- ・地域包括ケアシステムの構築の為、包括的な支援・サービス提供体制の担い手として、医療と介護施設事業が集約されている当施設の利点を発揮し、地域行事への参加や社会貢献事業などを実施。
 - ・事業所の枠を超えて他事業所等へ水平展開し共に実施して行くことを目指し、地域包括支援センターを中心に活動を展開。
- (3) 資格取得支援等により職員の資質の向上を図ると共に、介護機器の導入などによって労働環境等の改善を図ります。
- ・法人独自の制度である介護福祉士奨学金貸付を実施。
 - ・職員の安全対策及び労働環境改善の為、全車両へのドライブレコーダーを設置。
 - ・在宅部門から特養部門へ事業所内での介護技術研修を実施し、職員のスキル向上を図っております。
 - ・現行システム（ブルーオーシャン）の活用と、オペレーションの見直しによる業務効率向上。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	100.0%	66.8%	22.6%	10.4%	0.2%
	実績	—	96.6%	68.9%	23.8%	9.2%	△1.9%
特養短期	目標 (下段短期)	96.0%	100.0%	63.9%	28.3%	13.5%	△5.7%
		85.0%					
	実績 (下段短期)	89.4%	100.5%	65.6%	30.1%	11.0%	△6.7%
		125.5%					
通所	目標	75.0%	100.0%	51.6%	19.4%	14.9%	14.1%
	実績	74.5%	96.2%	64.1%	17.8%	15.4%	2.7%
通所認知	目標	75.0%	100.0%	65.7%	12.4%	6.5%	15.4%
	実績	65.6%	86.3%	73.3%	12.9%	6.9%	6.9%
訪問介護	目標(月)	440件	100.0%	91.3%	8.0%	1.8%	△1.1%
	実績	254.6件	64.5%	113.8%	12.3%	2.4%	△28.5%

居宅	目標(月)	179 件	100.0%	75.6%	5.1%	1.2%	18.1%
	実績	170.4 件	99.3%	77.1%	5.3%	1.1%	16.5%
介護予 防支援	目標(月)	230 件	100.0%	38.6%	42.6%	—	18.8%
	実績	207.5 件	91.0%	40.7%	42.9%	—	16.4%
地域 包括	目標(月)	79 件	100.0%	106.3%	13.3%	3.4%	△23.0%
	実績	113 件	96.9%	86.5%	14.6%	2.2%	△3.3%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 特別養護老人ホーム

- ・新規入所者や退院者に対する受入体制を向上。特に長期入院者に関し医療機関との調整を密にし、空床の防止に努めています。
- ・福祉サービス第三者評価事業を受審し結果を検証。処遇内容やハード面において改善を実施。
- ・入所者の処遇改善と健康状態維持の為、食事の提供内容を改善。アルブミン値に着目し、食事形態（ムース食）や提供する栄養補助食品等の見直を実施。

(2) 短期入所

- ・各居宅介護支援事業所への積極的通知などにより、定期利用者の増加を進め、稼働率は空床利用を含め100%を超えての稼働となる。

(3) 通所介護（認知症対応型を含む）

- ・稼働向上に向け提供サービスの内容見直しや送迎時間帯など業務改善を実施。
- ・各関係事業所との連携を深めた結果稼働が向上。

(4) 訪問介護

- ・積極的な人材採用を目標とし、職員からの紹介による採用、紹介会社からの採用が実施できたが人員の増加には至らなかった。また、定期的に募集広告の掲載を実施したが採用に至らず。
- ・長期休職、病欠等の職員がいたが、利用者数を減らすことなく稼働を維持することが実践できた。
- ・収入に対する人件費の比率を抑制するため、効率的な職員配置の実施。
- ・利用者宅での防災点検を引き続き実施し、防災意識の啓発を推進。

(5) 居宅介護支援事業

- ・関係職種・機関との連携に努め、ご利用者からのニーズに即対応できるよう運営を実施。
- ・最新の情報を掴んでおけるよう、フレックスタイム制の利点を活かし積極的に外部研修等に参加。

(6) 地域包括支援センター

- ・地域包括ケアシステムの更なる深度を目指して、民生委員とケアマネジャーとの連携

ツールを作成。

- ・共助のまちづくりのため「認知症サポーター養成講座」を小学校、商店・金融機関などでも開催。
- ・担当地域内の総合事業(介護予防・生活支援サービス事業)「通所型つどいサービス事業」の運営サポートを実施。
- ・実施している社会貢献事業でのサロンの支援及び、開催して間もない下記の認知症カフェへの参加者・運営ボランティアの増加を支援。

名称	開催場所	地域
おれんじカフェいこか	旧キューたんステーション	昭和町
トゥモローカフェ	瓢箪山マンション集会室	旭町

【4】施設の課題

(1) 各事業の稼働向上に向けた更なる改善

- ・大規模改修実施以降における当事業所の課題である収益構造改善のためには、各事業の稼働改善が大きな課題となっています。
- ・効率的な人員配置と業務内容の改善により業務の無駄を省き、職員への過度な負荷の軽減に努めると共に、人件費率については定率化を目指す必要があります。

(2) 介護人材の確保

- ・人材の確保は大きな課題であり、職員のモチベーションや離職にも直結してくる内容であるだけに、喫緊の課題となっております。

(3) 職員の資質の向上

- ・職員の資質・スキル向上は施設運営の重要なポイントとして実施しておりますが、人員不足傾向により特に特養職員などについては、外部研修などの機会が減少する結果となっており、課題となっております。

【5】付表

(1) 行事

年間行事実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

月	行事内容
4	お花見として外出し、花園駅～山本駅～池島付近の桜並木や菜の花畑を車両でドライブしました。(4月3日・4日)
5	春の遠足として八尾アリオへ外出し、館内散策・買い物と外食を楽しんで頂きました。(5月22日・29日)
6	5月行事と同様に、遠足として海遊館へ外出し、館内散策と外食を楽しんで頂きました。(6月5日・12日)
	最高年齢入所者(107歳)のお誕生日会として、ケーキとプレゼントを準備し家族様同席でお祝いしました。(6月5日)
7	七夕会として、かき氷とスイカ割りを行い、季節感を感じて頂きました。(7月3日)
8	枚岡の里・ケアハウスひらおか・ケアハウス喜里川と合同による地域交流祭りを実施。(8月3日)
9	敬老祝賀会と称して、若宮子供園児童による催し物と、職員による余興で敬老のお祝いを行いました。(9月11日)
10	秋の外出お食事ツアーとして、好みの食事を召し上がって頂くと共に気分転換しました。(10月2日・23日・30日)
11	秋の遠足として、八尾アリオへ外出し、館内散策・買い物と外食を楽しんで頂きました。(11月6日・13日)
12	クリスマス会をデイホールで実施し、食事の提供と職員からの催し物を楽しんで頂きました。(12月15日)
1	元旦祭として、入所者様と新年のお祝いを致しました。(1月1日)
	初詣の企画として、枚岡神社へ参拝し、おみくじを行いました。(1月24日)
2	節分祭として、職員が鬼や福の神に扮装し、入所者様に無病息災を祈願して頂きました。(2月3日)
	昼食に寄せ鍋を楽しんで頂きました。(2月10日)
3	ひな祭りを実施。職員がお内裏とお雛様に扮装し、甘酒や雛あられを提供致しました。(3月2日)
その他	・誕生日会(毎月)・ホーム喫茶(毎月)・ビデオ観賞会(毎月)・リズム体操(毎月)・歌謡クラブ(毎月)

年間行事実施報告：福寿苑デイサービスセンター

月	行事内容	定期行事
4	お花見ドライブ	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
5	抹茶パフェ作り	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
6	買い物ツアー	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
7	お茶会	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
8	夏祭り	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
9	敬老祝賀会	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
10	買い物ツアー	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
11	焼き芋行事	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
12	クリスマス会・ ミニクリスマス会（認知症対応型限定）	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
1	新年会	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
2	節分祭 ケーキ作り（認知症対応型限定）	音楽療法（毎火）・散髪（月2回） ごちそうの日（月2回）
3	室内運動会	ごちそうの日（月2回）
その他 （毎月実施）	誕生日会・リズム体操・アコーディオン演奏会・ピアノ演奏会 フットマッサージ※3月以降は感染予防の為中止	

(2) 防災訓練

年間防災訓練実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

月日	種別	内容
12月28日	避難訓練	入所者様に火災時の避難方法及び、避難時の手順や注意点の説明を行う。続けて、一部の入所者様と実際に避難誘導を行い、布団搬送方法等を実演しました。
2月28日	通報訓練・避難訓練 (自主訓練式)	隣接する枚岡の里と合同防災訓練を実施。東消防署員立会い予定であったが、感染症警戒中であった為不参加で自主訓練となりました。枚岡の里で夜間を想定した3Fリネン庫からの出火に伴った通報訓練と、避難誘導訓練の総合訓練を実施しました。
1月18日	緊急連絡網訓練	緊急災害時の連絡網伝達訓練を実施しました。

(3) 研修

年間研修実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

	研修内容 (テーマ)	参加職種
4	顧客満足と苦情対応について 法的責任と事故対応について	相談員 事故対策委員
5	法的責任と事故対応について	事故対策委員
6	OJT 面談実施月 感染症に関する研修	幹部職員 看護師
7	理念とビジョンの勉強会	幹部職員
8	身体拘束・虐待に関する研修	身体拘束廃止委員 相談員
9	事故・リスクマネジメントに関する研修	事故対策委員会
10	事故・リスクマネジメントに関する研修 感染症に関する研修	事故対策委員会 感染症対策委員会
11	感染症に関する研修	感染症対策委員会
12	褥瘡に関する研修	看護師
1	認知症ケアに関する研修	介護員
2	嚥下・摂食・口腔ケアに関する研修 高齢者の人権と虐待に関する研修	看護師 介護支援専門員
3	嚥下・摂食・口腔ケアに関する研修	看護師

年間研修実施報告：福寿苑デイサービスセンター

	研修内容（テーマ）	参加職種
4	介護技術研修（立ち上がり・移乗・車椅子の使い方）施設内研修	全職種
5	リスクマネジメント研修（効果が上がる事故防止活動）施設内研修	全職種
6	医療安全対策・褥瘡対策 施設外研修	看護師
	感染症研修（手洗い講習会）施設研修	全職種
8	認知症研修（認知症を抱えた方への排泄ケア）施設外研修・内部伝達研修	全職種
1 1	体験研修（法人内体験研修）	介護員
1	認知症研修（認知症精神疾患研修会）	介護員
2	認知症研修（認知症と高齢発症の精神疾患）内部研修	全職種
3	安全運転研修（安全運転及びマナー）	全職種
	人権研修（高齢者虐待防止法と身体拘束ゼロ推進について）	全職種

年間研修実施報告：福寿苑ヘルプーステーション

	研修内容（テーマ）	参加職種
4	接遇マナー・対人援助技術	全職員
5	認知症ケア	全職員
	訪問介護員新人研修	正職介護員
6	食中毒の基本と予防	全職員
7	熱中症の予防と対策、防災会議	全職員
8	個人情報とプライバシー	全職員
	訪問介護事業者部会	正職介護員
9	救急救命	全職員
1 0	高齢者虐待と人権	全職員
1 1	感染症の基本と対策	全職員
1 2	メンタルヘル～燃え尽き症候群～	全職員
1	介護技術研修	全職員
2	ヒヤリハット・リスクマネジメント	全職員
	高齢者宅で発生する火災予防講習	正職介護員
3	法令順守	全職員

(4) 地域包括支援センター実績集計

地域包括支援センター事業実績報告書																							
平成31年度年間分		支援センター名			福寿苑			今年度新規相談実人員		446													
相談件数		相談者と相談方法				身体状況																	
実態把握加算対象	1359	本人	家族	CM	その他	計	不明	未申請	申請中	自立	要支援		要支援計										
加算対象外件数		229	135	71	924	1359					1	2	464	941									
相談件数合計	1359	訪問				来所	電話	計	総合事業				要介護計										
		1336	22	1	1359	1				2	3	4	5	1	122								
認知症相談件数	200	家族形態				相談内容及び申請代行				要介護度				計									
権利擁護援助件数	29	同居	独居	計	介護保険				介護	福祉サービス	保健医療	家族関係	1				2	464	941				
うち虐待関連件数	25	577	782	1359	相談内容	1145	57	13	22	25	1				2	464	941						
		同居				申請代行				1				2	3	4	5	1	122				
		独居				介護予防				基本フェック	その他	計	1				2	3	4	5	1	122	
		計				相談内容				44	17	244	1567	1				2	3	4	5	1	122
		計				申請代行				1567				1				2	3	4	5	1	122
		計				申請代行				156				1				2	3	4	5	1	122
サービスの状況と利用希望											単位地域ケア会議												
現利用		ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ	会議出席者	介護支援専門員	サービス事業者	医師									
利用希望	59	125	32	2	1	90	2	14	3	医療機関職員		自治会	民生委員										
現利用		配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中		計	校区福祉委員	関係機関	知人								
利用希望	15	83	18	125	15	1	11	3	599	単位地域ケア会議加算対象													
地域ケア支援・生活支援コーディネーター 内訳											認知症支援												
相談方法	個別加算対象				15	地域活動団体				福祉・介護職													
訪問	来所	電話	FAX	計	個別加算対象外	5	自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	居宅介護支援	訪問介護	通所介護										
4		16		20	地域ケア支援個別計	20	3	3	3	2	3	3	2										
					集団加算対象	46	3	3	3	2	3	3	2										
					地域ケア支援加算合計	61	3	3	3	2	3	3	2										
					生活支援集団加算対象	7	3	3	3	2	3	3	2										
相談者	虐待関連相談件数				20	高齢者生活支援等会議				医療機関													
							地域活動団体				福祉・介護職												
							自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	居宅介護支援	訪問介護	通所介護										
							3	3	3	2	3	3	2										
							医療機関				その他												
							医師	歯科医師	薬剤師	その他	計	1				2	3	3	2				
							1	2	3		25	高齢者生活支援等会議加算対象				3							
実施した支援・内容											生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援)				第1層への課題提示								
地域ケア支援(個別・集団)											(担い手支援)・社会資源マップ作成				第1層への課題提示加算対象								
ケアマネジメント支援	ソーシャルワーク援助	情報提供	連携支援	その他	計	担い手種別				マップ計													
個別			1	20	21	助け合い	つどい	計	立ち上げ担い手支援				担い手支援				計						
集団	9	30	4	4	47				1				1										
生活支援コーディネーター活動(集団)											生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援)				第1層への課題提示								
生活支援の担い手の活動状況確認	生活支援の担い手の養成支援	総合事業の制度説明等	取組の事例発表	計		立ち上げ担い手支援				担い手支援				計									
集団	7			7		1				1				1									

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

平成31年度年間分

支援センター名 福寿苑

地域介護予防活動支援

相談・支援件数	
総件数	
うちグループ活動支援	

グループ種別					
老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Cボランティア	その他	計

相談方法				
訪問	来所	電話	その他	計

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室開催件数	48
家族介護教室開催件数	5
終活支援教室開催件数	1

【1】施設運営を振り返って

- (1) 収支について、拠点ベースの収益は黒字でしたが目標予算との乖離が大きく未達成の事業も多かったです。引き続き収支改善のために稼働率、利用数の向上を図るとともに人件費の適正化、事業費、事務費の抑制化により、収支バランスの安定化を図ります。
- (2) 法人理念の理解を深める取り組みとして、少人数での研修を開催し、法人職員としての心構え・基本姿勢、利用者への接遇や処遇向上、地域社会への貢献することを学ぶ機会を設けました。次年度は、法人職員のあるべき姿である、法人理念に沿った行動力とワークエンゲージメントを高めていきます。
- (3) 業務効率の改善、情報共有の円滑化を図るため、介護記録システムの導入準備を進めました。特別養護老人ホームではICT委員会を創設し、課題整理、運用方法について検討し、次年度4月より運用を開始します。又、通所介護事業所でも準備作業を行い、前倒しで今年度2月より運用を開始しました。引き続き各事業で業務改善に向けた取り組みを推進します。
- (4) 地域共生社会の構築に向けて「あおぞら保育園」、「障がい者活動センターわかば」、「社会福祉法人青山会」と新たな交流を開始し、高齢者の方々のみならず、障がい者の方々、児童の方々との関係の作りを行いました。又、地域貢献として車椅子の無料貸出し、会議室の無料開放を行い、徐々に依頼が増えています。その他、地域のお祭りの際の休憩場所や近隣の火災の際の一時的避難場所として施設を活用していただき、今後も身近な地域になくてはならない社会資源（施設）として情報発信します。
- (5) 職員教育、研修参加について、以前は施設側から個々の職員に対して参加の指示を出すことが多かったですが、今年度は、職員が自主的に研修参加を申し出るように啓発しました。研修の受講に対する意識の変化がみられ、他の施設等の職員との関りを持つことで、自身を振り返りができ、新しい発見（視野が広がる）につながる事ができたと考えます。また、その研修を伝達することで、自身の理解を深めるとともに、他の職員の資質向上になりました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	—	65%	23%	5%	7%
	実績		96%	66.6%	23.1%	6.4%	3.9%
特養	目標	96%	—	60%	27%	6%	7%
	実績	94.2%	100%	61%	28.3%	7.5%	3.2%
短期	目標	90%	—	56%	21%	5%	17%
	実績	85.2%	89.2%	60.1%	21.5%	9.8%	8.6%
通所 (障害含)	目標	85%	—	76%	16%	4%	3%
	実績	82.3%	97.5%	76.9%	13.8%	5.8%	3.5%
通所 (認知症型)	目標	80%	—	62%	12%	2%	24%
	実績	65.8%	81.7%	58.4%	15.9%	2.8%	22.9%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

訪問入浴	目標	1032	—	100%	3%	7%	△11%
		4					
	実績	653	65.1%	148.4%	6.5%	11.1%	△66%
		2.5					
訪問介護	目標	4224	—	92%	1%	1%	5%
		3.7					
	実績	4246	95.6%	104.8%	3%	1.4%	△9.2%
		3.3					

※訪問入浴の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と1日あたりの訪問件数（下段）

※訪問介護の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

居宅介護	目標	2508	—	70%	11%	1%	18%
		38					
	実績	2468	98.6%	69.9%	2.5%	0.5%	27.1%
		37.4					
介護予防	目標	1980	—	59%	31%	0%	10%
		30					
	実績	2137	111%	59.9%	44.1%	0%	△4%
		35.6					

※担当件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

地域包括	目標	150	—	95%	6%	1%	△2%
	実績	157	90.9%	98.1%	7%	2.7%	△7.8%

※開催件数は介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・生活支援コーディネーター活動（集団）の合計件数

【3】事業計画の実施状況

(1) 特別養護老人ホーム

- ① 職員、個々の意識と感覚を養います。(介護部門)
 - ・全職員対象に接遇の研修を行いました。理解はしていても改めて研修で学ぶと再確認できました。継続して意識していくために、研修を継続する必要があります。
 - ・利用者の変化に気付くために、ヒヤリハットの普及啓発を行いました。
 - ・人権研修及びユマニチュードの外部研修を受講し、理念にある『人権の尊重』『安心と生きがい』について自分自身が考え行動できるようにしました。
- ② 施設の透明性を図るため、ご家族またケアマネジャーに向けて懇談会を行います。
 - ・5月：ご家族様に向けての懇談会を実施しました。
 - ・11月：ご家族様と外部事業所のケアマネジャーに向けての懇談会を実施しました。
 - ・日頃施設の食に対する思いを管理栄養士より説明を行い、様々な取り組みをお伝えする良い機会になったと思います。参加人数が読めないため、参加可否の確認方法に工夫が必要です。
 - ・職員・家族・ケアマネと顔の見える関係性の構築を行いました。
- ③ 機能訓練体制の整備を行います。(全部門)
 - ・理学療法士による機能訓練は行っていますが、個別機能訓練計画の充実化に向けてはまだ取り組めておりません。
- ④ 安全な食事の提供と内容の充実を図ります。(栄養士部門)
 - ・食事の検品作業、食器の確認により衛生管理を徹底しました。異物混入が11件あり、都度再発防止に向けた作業の見直し・共有の徹底を行いました。しかし昨年度よりも増加している為、引き続き、危機管理の徹底により0件を目指します。
 - ・御利用者及び給食委員会を通じて食に関する意見を聴取し、楽しい・美味しいと感じてもらえる食事の提供を行いました。特養では行事クラブ推進委員会と連携し、好まれる物を提供し、デイサービスでは担当職員と相談をし、季節に合った食事の提供をしました。クッキングでは、季節やよりニーズに合わせたおやつを提供を行いました。
 - ・高齢感染症委員会での内部研修にて食中毒についての研修を行いました。地域包括主催の「すまいるカフェ」にてお手軽レシピについての講義を行いました。
- ⑤ ご利用者、ご家族の要望に応えるため、個別支援の充実を図ります。(特養部門)

- ・外出・外泊時の送迎の相談があった際には、日程の調整を行い送迎サービスを行いました。
 - ・近くのスーパーへの買い物や外食の付添いを行いました。
 - ・急遽の場合には対応ができない時がありますが、できるだけ対応出来るように取り組みました。今後も継続していきます。
- ⑥ ICT委員会を立ち上げ、業務効率化を図ります。(特養部門・看護部門)
- ・ICT委員会でブルーオーシャン(介護記録システム)の運用方法について検討を重ねてきました。
 - ・介護記録システムを実際に運用している施設の視察に行き、運用の方向性の確認を行いました。
 - ・令和2年4月より介護記録システムの運用を開始します。
- ⑦ 外国人採用に向けて、職場環境を整えます。(全部門)
- ・外国人留学生を迎え入れるにあたり、単に労働力ではなく、介護後進国である国の為に、介護の技術を伝えその国に寄与することが目的であることを周知しました。
 - ・迎え入れるにあたり特色等を会議で伝達し迎え入れる体制を整えました。
- ⑧ 看取り介護の充実化を図ります。(看護部門)
- ・看取り介護研修を2回実施しました。
 - ・ご家族と穏やかに最期を迎えて頂くための環境整備を実施しました。
 - ・職員一人ひとりが自分にできることを考え、都度振り返りのカンファレンス開催、生活歴の確認、慣れ親しんだ人・物・事を知る、声掛けや身だしなみを整えるなど、できることを行っています。ご家族には最期まで施設で過ごせてよかったとご意見を頂いており、今後も継続して行っています。

(2) 短期入所生活介護

- ① 特別な医療行為のある方や、緊急な依頼にも迅速に対応し、積極的に受け入れを行い、選ばれる施設を目指します。
- ・現場、医務と密に連携を図り、緊急ショートを受け入れを年15件行いました。又、特別な医療行為のある方の受け入れも年61件行いました。幅広い方に利用頂けるよう今後も各部署と連携を強化します。
- ② 営業活動を行い、利用のない事業所にも認知してもらいます。
- ・営業活動はほとんど行えていません。次年度は時間を作り、毎月営業活動を行っていきます。
- ③ 特養相談員・現場の職員とも連携を図り、入院者ベッドや空床ベッドを利用し、積極的に受け入れを行います。
- ・各部署と連携を図り、入院者・空床ベッドを利用し、柔軟に対応を行います。

した。今後も連携を図り、積極的に受け入れを行います。

- ④ ご家族やケアマネジャー向けに、食事会や試食会を行います。
 - ・11月に特養と合同で食事会（試食会）を行い、ご家族、ケアマネジャーから多数ご意見を頂くことで、食事サービスの質の向上に活かすことができました。今後も特養と合同で定期的に関催したいと思います。
- ⑤ 機能訓練体制の整備を行います。
 - ・今年度は体制整備に取り組みませんでした。次年度は理学療法士と連携し体制整備を図り、機能訓練加算の取得に取り組みます。
- ⑥ 職員、個々の意識と感覚を養います。
 - ・特別養護老人ホーム①参照

(3) 通所介護・認知症対応型通所介護・身体障害デイサービス

- ① 業務効率の改善を図ります。
 - ・ブルーオーシャンシステムの導入により、ケア記録業務の転記作業が減り・資料のコピー回数も減ったことにより用紙の省力化ができ、業務効率の向上に繋がりました。職員数は退職に伴い減少しましたが、看護師が記録業務で当日分の残業する事はなくなりました。
 - ・ご利用者の情報を居宅・地域包括への報告を日々メールですること、月末に集約された業務が減り、月末に残業することなく、業務効率を改善できました。
- ② 残業を減らし有給休暇取得率5割を目指します。
 - ・個人の業務を業務内に時間管理が出来るように役割分担を見える化したことで、業務内容が明確になりました。
- ③ 栄養改善サービスを実施します。
 - ・他施設に情報収集のため、見学も行ったが、準備段階で知識不足と取り組む内容に労力がかかる事を認識しました。管理栄養士と連携し、話し合いましたが、具体的には加算取得には事業として計画不足と人員確保が出来ず、取り組みませんでした。引き続きサービス実施に向けて体制づくりに取り組みます。
- ④ 職員のメンタルヘルスケアと、人材育成に取り組みます。
 - ・外国人労働者の受け入れについて事業所で研修を行い、アンケート収集することで、言語や文化の違いをまず知ることが課題と理解できました。
 - ・OJTを活用し、日々の思っている事を聞きながら目標を設定した事で、新たに心身の不調者は出ませんでした。新たな事に取り組んでいるかは、個人差があり課題です。
- ⑤ 地域包括と連携し、地域密着型サービスの充実を図れるよう、地域の行事に参加します。

- ・地域包括と連携し、地域密着型サービスの充実を図れるよう、地域の行事に認知症対応型のスタッフが3回参加できました。

⑥ デイサービスに求められる家族支援について事業所として考え取り組みます。

- ・日々の連絡ノートや送迎時などお声掛けする事で介護負担を知り、ケアマネジャー等に情報提供しました。地域包括からの情報もお伝えするよう取り組みました。

(4) 訪問入浴

① 新規利用者獲得のため積極的に営業活動を行います。

- ・実績報告と合わせて各事業所に空き状況のお知らせなどを配布し、年10件の新規獲得に繋がりました。
- ・東大阪市事業者連絡会等に積極的に参加し、訪問入浴のメリットや効果について情報発信しました。
- ・無料体験サービスを年10件受け入れました。引き続き依頼があれば積極的に受け入れます。

② ご利用者の状況に合わせて、柔軟にサービス提供を行います。

- ・体調不良による振替利用、週の複数回利用・空き曜日のスポット利用などの依頼に対し柔軟に対応しました。
- ・ターミナルケアのご利用者を積極的に受け入れました。

(5) 訪問介護

① ヘルパーの採用を促進します。

- ・求人媒体や自施設の求人ラックでは問い合わせがなかったが、地域に配布したヘルパー募集のチラシにより、5月よりパート職員1名採用できました。又、ハローワーク主催の就職フェアにより7月よりサービス提供責任者1名採用できました。

② 新規利用者獲得に努めます。

- ・毎月3名の目標は達成できませんでしたが、月平均にすると1名の新規利用者を獲得できました。入院からの在宅復帰でサービス再開となるケースが多く、入院中にスケジュールを空けるかたちになる。その間の新規受け入れが難しいのが課題です。

③ 要介護利用者、特に身体介護を増やします。

- ・身体介護40%の目標は達成できず平均すると23%程でした。自費サービスについては訪問介護事業所連絡会で議題に上がり検討したが、料金等の設定で最終決定しておらず、開始できていません。次年度中には開始できるようにします。

(6) 居宅介護支援事業所

- ① 定期的な会議や研修の参加、困難事例などの対応を行い専門職として質の高いケアマネジメントを提供します。
 - ・年間 35 件の外部研修や事例検討会に参加しました。医療との連携や困難事例など伝達研修を行いました。次年度も外部研修や事例検討会に積極的に参加し専門性の強化を図ります。
- ② 地域の人材育成に取り組むと共に地域の身近な社会資源として貢献します。
 - ・介護支援専門員実務研修見学実習の希望者がいませんでした。次年度も積極的に受け入れ行います。
 - ・他法人との合同研修を 2 回行い事例検討と地域の情報共有を行いました。次年度も引き続き他法人との情報共有を行っていきます。
- ③ 業務効率を改善し残業時間ゼロを目指しフレックスタイムの推進に努めます。
 - ・タブレット端末の導入は難しく、定例文の作成なども行えませんでした。ケアプラン作成時に文例集を活用し書類作成の時間短縮を行いました。次年度は業務を行いやすい環境を作り業務効率化を図ります。

(7) 地域包括支援センター

- ① 地域包括支援
 - ・高齢者生活支援等会議では認知高齢者の支援についての地域課題解決の一環として北宮校区住民を対象にあんしん声掛け訓練の実施、また加納校区福祉委員会、民生委員、老人クラブを対象に認知症サポーター養成講座、認知症勉強会を実施しました。次年度は地域資源マップの作成に取り組めます。
 - ・地域住民と専門職の顔の見える関係作り、普及啓発活動をテーマに 2 ヶ月に 1 回話し合いを行い多職種連携研修会主催で体操イベント、防災研修会を開催しました。また地域の介護、医療の専門職の顔の見える関係作りを目的に事業交流会を開催しました。
 - ・加納小学校 3 年生を対象にキッズサポーター養成講座を開催しました。次年度もキッズサポーター養成講座の開催を予定しています。認知症カフェについては 2 ヶ月に 1 回開催して毎回 20 名の方に参加いただきました。
 - ・アメリカマンションの高齢者向けの予防教室、高齢者住宅かわだの家の協力のもと、予防教室を立ち上げ 2 教室とも自主グループ化に繋がりました。
- ② 介護予防支援
 - ・新規相談で要支援認定が出た方について極力担当するようにしましたが、目標とする委託率 40%は達成できず 48%でした。

- ・今まで交流のなかった自治会、老人クラブの集いの場に出向くことでインフォーマル資源の把握に努めました。

(8) 事業全体で取り組むべき事項

- ① 各事業で継続的に業務改善に取り組みます。
 - ・(特養) 次年度ブルーオーシャン導入に向けて、毎月 ICT 委員会を開催し課題整理、具体的な運用について話し合い、又、操作方法の研修会や先駆的に取り組んでいる施設見学を行い、積極的に導入準備に取り組みました。
 - ・(デイ) ブルーオーシャン導入に向けて、事業所内で課題整理、具体的な運用について話し合い、又、操作方法の研修会や先駆的に取り組んでいる施設見学を行い、前倒しで2月より運用を開始しました。
その他、「喫茶の領収書を利用料の請求書に組み入れる」「居宅・包括への特記事項を随時メール配信する」「内部研修をポイント絞って30分以内に行い定時内に行う」「喫茶と座席表の様式を統合して転記作業を短縮する」など多岐に渡り業務改善に取り組みました。
 - ・(居宅) ワイズマンの文例集を活用しケアプラン作成時の業務負担を改善しました。
- ② BCP（緊急時事業継続計画）に基づく災害訓練を実施します。
 - ・防災営繕委員会を開催し「東大阪市で起こりうる災害及びその対策」について情報伝達し、地震の基礎知識、発生状況等について共有しました。又、BCPに基づき、初動期対応、備蓄及び常備品、緊急連絡網等の確認を行いました。次年度は初動期対応の訓練実施、備蓄及び常備品の見直し、地域との連携について検討します。
- ③ 外国人労働者の受け入れに向けた体制づくりに取り組みます。
 - ・外国人採用の目的・主旨について共有し、課題抽出及び課題に対する対応策をまとめました。
 - ・法人秋勉強会で外国人雇用研修に参加し各事業で内部研修等を行いました。
 - ・受け入れ担当者の方で法人内部の外国人雇用における説明、打合せに参加し、入国後の対応や受け入れ時の留意点等について共有しました。
 - ・次年度は実際に外国人労働者の受け入れが始まるので、介護現場におけるコミュニケーション、指導方法の統一化等に取り組み、仕事以外での生活サポートにも取り組みます。

【4】施設の課題

<施設運営の安定化>

拠点ベースで黒字になりましたが目標予算との乖離が大きく未達成の事業も多い状況

です。引き続き収支改善のために稼働率、利用数の向上を図るとともに人件費の適正化、事業費、事務費の抑制化により、収支バランスの安定化を図ります。次年度は、とりわけ新たな加算の取得、既存加算の実働化、入所者の介護度の適正な見直し、入院率・空床率の低減化、居宅・包括との連携強化、効率的な営業活動に注力し、施設運営の安定化を目指します。

<残業時間の短縮>

職員の健康維持、適正な賃金の支払い等を目的に新たな勤怠管理が開始となり、仕事に対する ON・OFF が徐々に定着しつつありますが、勤務体制が十分に取れない等により残業時間の短縮化に繋がっていません。次年度も勤怠管理の適正化を図りつつ業務効率の改善にも取り組み、残業時間の短縮化に努めます。

<業務効率の改善>

業務効率の改善、情報共有の円滑化を目的に特養とデイで介護記録システムの導入準備を進めてきました。次年度より運用開始となりますが、様々な課題が生じる可能性があり、引き続き ICT 委員会を中心となり課題解決、フォローアップ体制等に取り組みます。又、それ以外の業務改善についても各事業で継続的に取り組み、削減した時間を有効活用します。

<接遇のブラッシュアップ>

これまで「利用者の接遇」を中心に接遇マナー研修や個別指導を行ってきましたが、昨今、様々な場面で接遇が広く取り上げられており、次年度は、働きやすい職場環境の一環として「職員の接遇」、又、様々な関係者と円滑に関わるべく「外部の接遇」に着目し接遇をブラッシュアップします。2020年6月に施行されるパワハラ防止法についても理解を深め、職場におけるハラスメント防止を推進します。

<外国人労働者の受入れ>

外国人採用の目的・主旨について共有し、課題抽出及び課題に対する対応策をまとめました。又、外国人雇用研修に参加し内部研修等を行いました。次年度は実際に外国人労働者の受け入れが始まるので、介護現場におけるコミュニケーション、指導方法の統一化等に取り組み、仕事以外での生活サポートにも取り組みます。

<BCPに基づく活動>

BCP 会議を行い初動期対応、備蓄及び常備品、緊急連絡網等の確認を行いました。訓練形式では行っていないので次年度は初動期対応の訓練を実施します。又、地域の防災活動について自治会等と協議を行い地域防災にも取り組みます。

【5】付表

(1) 年間行事実施報告書：特別養護老人ホームみのわの里

月	行事内容		
		委員会等	広報委員会 4回/年開催
4	屋台行事 各フロアで開催		防災営繕委員会 4回/年
			給食委員会 月1回開催
5	ふれあい祭花火見学実施 5/11		施設介護計画委員会 毎月
			特養事故防止対策委員会 毎月
6	あおぞら保育園交流会 6/12 外出ドライブ実施 6/16		入所選考委員会 毎月
			特養感染症予防対策委員会 毎月
7	スイカ祭バイキング 7/28 北宮小学校 七夕訪問 7/4		環境美化委員会 4回/年
			身体拘束防止委員会 毎月
8	盆踊り大会 8/25		特養研修推進委員会 2回/年
			安全衛生委員会 1回/月
9	敬老祝賀会 9/11 愛保育園児訪問 9/11		痰の吸引等安全対策委員会 1回/月開催
			行事クラブ推進委員会 1回/月
10	秋祭りだんじり見物 10/19 ハローウィン行事 10/31 みのわの里 福祉祭 10/6		特養看取り介護委員会 1回/月
			ICT推進委員会(新) 3回/月

1 1	秋のドライブ 11/30	クラブ活動等	クッキングクラブ (定期) 1回/月
	北宮小学校 文化交流 11/21		折紙クラブ 1回/月実施 (1月と8月を除く毎月)
1 2	クリスマス会 12/14		習字クラブ 1回/月実施 (1月と8月を除く毎月)
	年末もちつき見学 12/27		カラオケ (定期)
1	元旦祭 1/1		法話会 (毎月) ※ただし1月は除く
2	節分祭 2/3		いきいき歌体操 (毎月実施) ※ただし1月は除く
3	憩いのお茶会 3/20		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会 (月1回実施) ・ホーム喫茶 (毎月) 未実施 ・希望食 (不定期) 未実施 ・外食・お寿司行事 1/20 1/27 1/28 実施		

年間行事実施報告：みのわの里デイサービスセンター

月	行事内容
4	花見
5	令和祝い弁当・作業療法 (タッセルストラップ)
6	クッキング (水まんじゅう)
7	七夕交流会 (北宮小)
8	作業療法 (サマーリース) ・ クッキング (水まんじゅう)
9	クッキング (さつまいもモンブラン) ・ 敬老祝賀会
10	だんじり見学・秋祭り・クッキング (スイートポテト)
11	北宮小交流会・行楽弁当
12	クリスマス会・もちつき大会・作業療法 (しめ縄)
1	書初め・作業療法 (絵馬づくり) ・クッキング (きなこ団子)
2	お寿司・クッキング (ミルクフラン) ・節分祭
3	お花見弁当・作業療法 (サシェ)

(2) 年間防災訓練実施報告：特別養護老人ホームみのわの里

月	種別	内容
10	日中訓練	職員とご入居者を対象とした通報、消火、避難訓練
3	夜間訓練	夜間並びに日祝日を想定しての夜勤者と宿直者による職員への通報、消火、避難訓練

(3) 年間研修実施報告：特別養護老人ホームみのわの里

月	研修内容 (テーマ)
4	新卒研修 (法人全体) OJT 面談 口腔ケア講習
5	特定給食講習 ユマニチュード入門研修 口腔ケア講習
6	事故予防研修 対人援助技術『利用者の力を引き出すコミュニケーション』 感染症に関する研修 (新卒) (内部研修) 介護保険施設集団指導 虐待防止研修 食中毒予防対策講習会 接遇研修 日本における人権課題 看取りに関する施設見学 口腔ケア講習
7	栄養士・調理師研修会 (外部研修) 人事評価制度 実務研修会 看取り研修 接遇研修 口腔ケア講習

8	身体拘束についての研修 接遇研修 特別養護老人ホーム経営セミナー 口腔ケア講習
9	ユマニチュード実践者育成研修 褥瘡予防についての研修 接遇研修 管理職認定研修 口腔ケア講習
10	障がい福祉サービス経営者セミナー 接遇研修 口腔ケア講習
11	ノロウィルス講習会 口腔ケア講習 身体拘束・高齢者虐待防止研修 介護技術指導者養成研修 感染症に関する研修
12	東大阪市集団給食研究会 栄養士研修会 外国人介護員の雇用についての研修会 口腔ケア講習
1	人事労務管理講座 他法人施設視察（ICT化に向けて） 口腔ケア講習
2	看取りケア研修 事故予防研修 口腔ケア講習
3	口腔ケア講習

年間研修実施報告：みのわの里デイサービスセンター

月	研修内容（テーマ）
4	外国人労働について(内部)
5	食中毒対策研修(内部)・ユマニチュード入門(外部)
6	臥位と座位の姿勢管理(外部・内部)・手洗いチェッカー研修(内部)
7	介護職の感染症知識研修(外部)・ユマニチュード入門(内部)
8	介護報酬改定について研修(内部)・福祉送迎車両研修(外部)
9	感染症(インフルエンザ)研修(内部)
10	身体拘束（代表的な身体拘束について）研修(内部) 介護現場におけるリスクマネジメント研修(外部)
11	緊急時の対応事例検討研修(内部) 認知症における医療介護連携(外部・内部) ノロウイルス研修(内部) ホワイトミーティング・ケース会議セミナー研修(外部)
12	介護看護従事者の為のセルフケアセミナー研修(法人・内部) VR 認知症プロジェクト研修(外部・内部)
1	機能訓練見学(外部) 認知症を抱えた方への排泄ケア研修(外部・内部)
2	人権研修・倫理・法令順守について研修(内部)
3	接遇マナー研修(内部)

年間研修実施報告：みのわの里訪問入浴

月	研修内容（テーマ）
4	老人保健福祉の基本的な制度についての理解
5	介護サービス従事者の基本姿勢
6	老化や障がいの与える心理的影響
7	在宅介護の特徴と基本的対応についての理解
8	訪問入浴介護サービスの役割と意義
9	入浴が身体と心理に与える影響
10	入浴のリスクと効果
11	障害形態別入浴介護技術苦情・相談への心構えと対応
12	在宅で行われる医療処置の理解
1	訪問入浴サービスにおける感染症の予防
2	入浴における周辺介護技術
3	苦情・相談への心構えと対応障害形態別入浴介護技術

年間研修実施報告：みのわの里ヘルパーステーション

月	研修内容（テーマ）
4	ホームヘルパーの基本接遇マナー
5	個人情報保護
6	高齢者虐待
7	事例から考えるあいまいゾーン
8	プライバシー保護
9	認知症の人へのシーン別介助ポイント
10	事故発生時緊急時対応
11	ビジネスマナーの必要性
12	コミュニケーション技術
1	ハラスメント対策研修
2	感染症予防研修
3	倫理・法令遵守について

年間研修実施報告：みのわの里居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
4	中地域委託先介護支援専門員研修会
5	介護保険事業者集団指導
6	ヒューマンスキル研修 地域他法人合同事例検討会
7	東大阪市との介護支援専門員の意見交換会 後見人制度研修 中地域委託先介護支援専門員研修会
8	居宅介護支援事業所部会研修
9	介護保険住宅改修研修
10	ヒューマンスキル研修 中地域委託先介護支援専門員研修会
11	居宅介護支援事業所部会研修 防災講習会 地域他法人合同事例検討会 中地域委託先介護支援専門員研修会
12	東大阪市認定調査員現任研修
1	東大阪市との介護支援専門員の意見交換会 医療法人専門職との交流会

	中地域委託先介護支援専門員研修会
2	多職種連携交流会
3	—
内部研修（随時）	地域福祉研修・災害研修・人権研修・スーパーバイザー研修 対人援助技術研修・リスクマネジメント研修

年間研修実施報告：地域包括支援センターみのわの里

月	研修内容（テーマ）	
4	C S W養成研修	社会福祉士
5	C S W養成研修	社会福祉士
6	法テラスの業務について 職員接遇研修 高齢者虐待対応研修 社会的孤立と伴奏型支援について	社会福祉士 ケアマネジャー 主任ケアマネジャー 主任ケアマネジャー
7	生活支援コーディネーター研修 大阪しあわせネットワークについて 高齢者宅で発生する火災予防の講習	保健師 主任ケアマネジャー 主任ケアマネジャー
8	障害児者の相談支援体制と連携について	ケアマネジャー
9	東大阪市オレンジチームとの意見交換会	社会福祉士
10	C S W養成研修	主任ケアマネジャー
11	社会福祉士実習指導者講習会 災害時におけるトイレ問題研修会 C S W養成研修 メンタルヘルス研修	社会福祉士 主任ケアマネジャー 主任ケアマネジャー 主任ケアマネジャー
12	認定調査員現任研修会 支援者のリスクマネジメント研修	主任ケアマネジャー 主任ケアマネジャー
1	生活支援コーディネーター研修	主任ケアマネジャー
2	東大阪市有料・サ高住向け高齢虐待研修	社会福祉士
3	—	

地域包括支援センター事業実績報告書															
令和元年度年間分		支援センター名				みのわの里				今年度新規相談実人員		408			
相談件数		相談者と相談方法				身体状況									
実態把握加算対象	1392	本人	家族	CM	その他	計	不明	未申請	申請中	自立	要支援		要支援計		
加算対象外件数	3	337	201	85	772	1395					1	2			
相談件数合計	1395						3	250	62	14	361	352	713		
		訪問	来所	電話	計		総合事業				要介護度		要介護計		
		1379	14	2	1395		1	2	3	4	5	4	61		
認知症相談件数	123	家族形態					47	36	12	4	5	4	61		
権利擁護援助件数	37	同居				独居	計	相談内容及び申請代行							
うち虐待関連件数	29	821	574	1395			介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係				
							相談内容	1390	1369	14	54	103			
							申請代行	125							
							介護予防	16	基本チェック	5	42	2993			
							相談内容								
							申請代行						125		
サービスの状況と利用希望															
		ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ	単位地域ケア会議				
現利用											会議出席者	介護支援専門員	サービス事業者	医師	
利用希望	36	97	23	10	1	99	8	28	8			医療機関職員	自治会	民生委員	
		配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中		計	校区福祉委員	関係機関	知人
現利用													単位地域ケア会議加算対象		
利用希望	5	78	16	112		1		5	6	533					
地域ケア支援・生活支援コーディネーター 内訳															
相談方法		個別加算対象				6		認知症支援							
訪問		個別加算対象外				1		認知症力	認知症カフェ(その他)	認知症本人	認知症あんしん声かけ	計			
来所		地域ケア支援個別計				7		フェ(主催)	(他カフェ)	活動支援					
電話		集団加算対象				50		6	2			8			
FAX		地域ケア支援加算合計				56		高齢者生活支援等会議							
計		生活支援集団加算対象				4		地域活動団体						福祉・介護職	
12								自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	居宅介護支援	訪問介護	通所介護	
4								3	3	3	3	3	3		
4								医療機関							
									医師	歯科医師	薬剤師	その他	計		
									3	3	3	3	30		
								高齢者生活支援等会議加算対象							
								3							
実施した支援・内容															
地域ケア支援(個別・集団)						生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援)						第1層への課題提示			
ケアマネジメント支援						担い手種別						第1層への課題提示加算対象			
ソーシャルワーク援助						マップ計									
情報提供						助け合い						つどい			
連携支援						計									
その他						立ち上げ担い手支援						担い手支援			
計						計									
個別	1	7	6	6	20										
集団	3	15	3	29	50										
生活支援コーディネーター活動(集団)															
生活支援の担い手状況確認						取組の事例発表						計			
生活支援の担い手養成支援						計									
総合事業の制度説明等						計									
3						1						4			

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和元年度年間分

支援センター名

みのわの里

地域介護予防活動支援

相談・支援件数		グループ種別					
総件数		老人 クラブ	校区福祉 委員会	自治会	老人C ボランティア	その他	計
	うちグループ 活動支援	14	2	1		4	21
21	20						
相談方法							
		訪問	来所	電話	その他	計	
		21				21	

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室 開催件数	40
家族介護教室開催 件数	
終活支援教室開催 件数	1

【1】施設運営を振り返って

- ① 毎月、サービス事業所の責任者を対象とした会議を開催し、単月ごとの収支や稼働状況、サービス活動等について事業計画に挙げている内容に沿ったものになっているかを分析、対応の確認を行い、数値目標以上の利益率を達成いたしました。また、生活機能向上連携加算等の取得により、ご利用者へのサービスの向上をいたしました。
- ② 今まで取り組んできた地域公益活動に加えて、新たに地域の子育て支援グループや自閉症、引きこもりの児童を支援するグループと“くさかつながる食堂”や“大工塾”の合同の活動をいたしました。
- ③ 施設を開設して18年が経ち、今年度の修繕はデイサービスの浴室天井等の修繕をいたしました。〔その他大型費用〕
 - ・デイ車両 1,291,878 円
 - ・ショックフリーザー 982,800 円
 - ・ワイズマンシステムキー追加 999,972 円
- ④ 社会福祉法人に求められる職員像として「人間力」を高めるために職場研修の体系の構築と、実施方法としてOJT、Off-JT、SDS実践いたしました。その結果、Off-JTは計画以上に実践し、目標達成はしましたが、OJT、SDSが事業によって推進と停滞がございました。来年度の課題として職場研修担当者の増員と運営を推進いたします。
- ⑤ ・今年度も腰痛予防の為の正しい介護技術（移動介助動作）を学ぶために外部から講師をお招きして1回/3ヶ月（年4回）開催いたしました。
 - ・仕事と育児の両立支援については3人の育児休暇明けの職員が復職いたします。
 - ・地域包括支援センターと居宅介護支援事業所が大阪府から“おおさか介護かがやき表彰”を受賞いたしました。

【2】各事業の数値目標

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標		97.7%	65.3%	26.0%	6.9%	1.8%
	実績			66.0%	24.9%	4.0%	4.9%
特別養護老人ホーム	目標	95.5%	97.6%	59.6%	31.8%	6.0%	2.6%
	実績	92.4%		58.4%	29.6%	5.8%	6.1%

短期入所生活介護	目標	84.0%	95.4%	56.4%	21.5%	1.3%	20.8%
	実績	78.7%		54.6%	23.1%	1.4%	20.7%
通所介護	目標	86.0%	101.6%	59.7%	19.8%	2.7%	17.8%
	実績	84.7%		63.1%	18.3%	2.7%	15.7%
認知症対応型通所介護	目標	60.0%	79.8%	79.2%	14.3%	0.08%	6.4%
	実績	47.6%		104.9%	16.8%	0.1%	△ 21.8%
グループホーム	目標	98.0%	100.8%	81.2%	24.2%	3.3%	△8.7%
	実績	98.3%		78.9%	25.5%	3.2%	△7.8%
訪問介護	目標	4710 件	102.3%	111.2%	9.6%	1.1%	△ 21.9%
		3.3 人					
	延べ	4,418 件		115.3%	10.7%	1.1%	△ 27.2%
		1 人 1 日 3.0 人					

※訪問介護の訪問件数は年間延べ利用者数と職員常勤1の1日あたりの訪問件数

居宅介護	目標	1884 件	94.6%	86.3%	7.2%	1.6%	4.9%
		38 人					
	延べ	1,724 件		86.6%	6.9%	1.7%	4.6%
		1 人 1 月 36.8 人					
介護予防	目標	2800 件	103.5%	40.7%	45.4%	5.1%	8.8%
		40 人					
	延べ	3120 件		33.7%	46.2%	2.5%	17.4%
		1 人 1 月 43.3 人					

※担当件数は年間延べ利用者数と職員常勤1の1か月あたりの担当件数

地域包括	目標	10.0 件	103.2%	104.5%	16.1%	0.9%	△ 21.5%
	教室等	17.8 件		118.2%	12.4%	0.9%	△ 31.6%

※開催件数は、介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・生活支援コーディネーター活動(集団)の合計件数

介護予防支援業務	委託なし	委託あり	合計
	1574	1546	3120

【3】拠点各事業の計画

(1) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①・夜間対応可能な必要医師の配置や体制等の整備が取れなかったため、加算取得に至りませんでした。
 - ・肺炎による入院者が多く延べ入院者は昨年より増え、延べ1568名となりましたがインフルエンザ等感染症による入院者は0名でした。
 - ・入所待機者に半年に1回状態確認を行い、ケアマネージャーとも連携を取り状況把握に努めました。下半期はさらに職員不足による体制が整わなかったため、入所への働きかけが遅れたことにより、退所後平均して2週間以内の入所を進めることはできませんでした。空床利用等、短期入所と連携を取り、情報を共有しながら進めるよう努めました。一方で入院者の面会や電話連絡での状態確認を行いスムーズに退院調整を行いました。
- ②上半期から職員の減少が下半期でも解消できなかったため、腰痛予防の講習会等の取り組みを行ったが参加することができない状況も多く、結果サービスの向上には至らず、ご利用者の生活をより良いものにするには結びつきませんでした。
- ③・高齢者人権、高齢者虐待・身体拘束に対する内部研修を年2回実施、行動制限（センサーベッドの在り方について）アンケートを行いました。
 - ・外部研修にも参加し、高齢者虐待・身体拘束について理解を深めました。
 - ・毎月身体拘束廃止に向けて情報共有、検討会議を実施し、H31年3月18日以降から身体拘束ゼロとなりました。

(2) 短期入所生活介護

- ①・毎月の事業所への営業活動を行い、ご利用者様の利用状況の説明や要望などを聞き取り、相談しやすい関係づくりに取り組みました。新規事業所への訪問なども行い新規利用者獲得に努め、年間新規利用者数82名。月平均6.8名となりました。毎月10名の新規利用に至りませんでした。新規営業先2事業所から依頼ありましたが今後も継続した営業活動を行っています。
 - ・家族からの急な依頼や、延長利用の依頼に対して、特養空きベッド等も活用し、出来るかぎりスムーズに受け入れが行えるよう調整を行いました。
 - ・利用中の余暇時間の提供として、ショートレクの回数を増やすことを検討していましたが、今年度も回数を増やすことは出来ませんでした。今後も回数増加の検討と開催内容の検討を行っていきます。
- ②特養との連携を図り、空床ベッドや入院ベッドを活用し、一時的な状態低下や家族の体調不良で在宅での生活が難しくなった方、台風などの災害時に独居での生活に不安がある方などの受け入れを積極的に行い、多くの方に利用して頂きました。また、短期入所のご利用者から特養入所へ11名、グループホーム入所へ1名つなげる事が出来ました。

(3) 通所介護

- ①機能訓練士が利用者宅に訪問して、利用者家族の目標に合わせた個別機能訓練計画を作成実施し、3ヶ月評価も利用者宅に訪問して、見直しを行い利用者の心身機能向上に役立つことが出来ました。来年度も他事業所との連携により生活機能向上連携加算取得するとともに、利用者のADL維持向上に努めます。
- ②研修には毎月のペースで参加できており、他の職員に伝達する事で、職員のスキルアップにもつながる事ができました。令和2年に入り感染症予防の為、研修は参加できなかったため、来年度は引き続き、計画的に研修参加行います。
- ③毎月、居宅支援事業者や地域包括支援センターに営業や実績報告に出向き、要介護3以上の利用者の受け入れを行ってきましたが、全体の20～25%と中重度加算の取得ができませんでした。来年度も取得に向けて営業を行います。

(4) 認知症対応型通所介護

- ①地域密着型として、ご利用者様・ご家族様の困りごと、又は出来る事等を気軽に相談出来るよう常に認デイが窓口になれたと思います。地域行事等は積極的に参加出来ませんでした。子供(園児等)と触れ合う事とても楽しみにされているので、他保育園にもお声掛けしている所です。
- ②日常生活自立度Ⅲ以上のご利用者様は全体の40%程です。積極的に受け入れは行っていますが取得できていないのが現状です。今後も介護支援事業所に出向く際に受け入れ可能をアピールしていきます。
- ③個別機能訓練加算についてはご案内のほか送迎時に家族様へお勧めしています。ご本人様にも体験して頂いています。全体の40%しか取得していないので認デイ全体が行えるように周知していきます。

(5) 訪問介護

- ①訪問介護(身体介護)の人数が増となるように積極的に受け入れを行って行き要支援：要介護の割合が4：6から、5：5の割合となりました。
- ②各ケアマネジャーに報告・相談・連絡を常時行い、サービス内容・サービス時間の見直しに努めました。
- ③空き時間を利用し各ヘルパーにサービス提供責任者が同行訪問し、利用者のニーズに添った曜日変更・組み入れ援助に対応出来る体制づくりに努めました。

(6) 居宅介護支援事業所

- ①上半期は事業所へ毎月提供票を渡すために訪問し、利用者様の情報を共有するなど密に連携を図りました。下半期より、業務の効率化のために提供票を郵送することになり、引き続き関係性作りを維持するため、電話連絡や担当者会議時などしっかりと情報共有するように努めました。

- ②毎月一人は外部研修に参加し、研修で学んだ内容を事業所内で共有しました。他部署にも関係する内容は、施設内で内部研修を開催し、情報共有を図りました。
- ③地域包括支援センターや地域の医療機関からの依頼をいつでも受けられるように、各ケアマネの担当件数を把握し、新規依頼を受ける体制作りにも努めました。また、近隣の住民の方からの直接の相談にも対応し、地域包括ケアシステムの強化に努めました。
- ④フレックスタイム活用するよう各自が努力し、業務の効率化についても定期的に事業所内会議で話し合い、時短短縮や効率良く事務作業が進むよう書類整理や提供票の郵送など実施して来ました。数字としての残業時間に大きな変化は見られなかったですが、業務を効率良く進められた結果が、新規受け入れ数や下半期の平均件数増加に繋がりました。

(7) 地域包括支援センター

①地域包括支援

- ・今年度も第2層協議体会議である高齢者生活支援等会議を3回開催し、第2層生活支援コーディネーターとして地域の課題抽出に取り組みました。閉じこもり・居場所作りに焦点をあてて社会資源マップを作成。各委員の方の意見も踏まえ、修正を繰り返し、完成となりました。来年度、地域の高齢者世帯や各病院・薬局などに作成したマップを配布する予定です。今後も地域活動団体・医療介護専門職の方々と連携し、課題解決、高齢者支援の体制づくりなどに取り組んでいきます。
- ・各関係機関の会合等に参加し、顔の見える関係作りに取り組みました。民生委員方や関係機関から、地域で気になる高齢者の方の情報共有を行い、支援に繋げることも出来ました。また、今年度も多職種連携研修会を2回開催し、医療と介護の連携を図りました。地域包括主催の地域のケアマネージャーの方との勉強会も3ヶ月に1回定期的に開催し、後方支援することが出来ました。
- ・地域の会館をお借りし、介護予防教室・家族介護教室など開催して介護予防に取り組みました。また、地域のサロンやグループ活動の後方支援を行ったり、地域住民向けの勉強会、様々な年代に向けての認知症サポーター養成講座、認知症カフェを開催するなど多岐に渡って取り組み、今年度、初めて高齢者疑似体験を石切東小学校で実施することが出来ました。疑似体験をきっかけに来年度認知症きつずサポーター養成講座に繋がるよう取り組んでいきます。

②介護予防支援

- ・今年度も事業計画通り実施できました。計画目標数値も超えることができ、引き続き介護予防サービスや介護予防・生活支援サービスなど自立支援に向けて必要なサービス調整を行っていきます。

(8) グループホーム真寿庵

- ①入居者、職員共に地域の一員としてかかわりを深めるため、あおぞら保育園園児と交流や地域の公民館で開催される敬老会、子育て支援グループ主催の大工塾や「くさかつながる食堂」にも世代を超えての活動の場に出席しました。グループホーム運営推進会議での協議より他施設の行事へ参加し、職員と入居者ともに施設間交流の機会を増やすことができました。また布市真寿庵職員で構成されたオカリナサークルでイベント発表会を行うなど、事業計画にそって地域に貢献できる活動に取り組むことができました。
- ②知識習得の研修について介護人材不足、育成における問題から外国人介護人材採用、育成等の研修や認知症介護実践者研修への参加をすることで認知症に対する知識と理解を深め、提供するサービスがより質の高いものとなるように努めました。クラブ活動は認知症状の進行を緩やかにするため、脳トレ体操、図工クラブ、音楽クラブ、おやつクラブを実施しました。活動内容もひと月4クラブに増やしたことにより入居者自身の活動する機会が増え、生活の中での役割と日々の生きがいにつながる支援が出来ました。
- ③事業の安定したサービス提供維持のため、職員体制の整備とチームワークを意識して業務改善に努めました。決定事項や伝達内容は速やかにおこなうよう取り組んだ。業務改善は業務手順の見直し、就業規則の周知等、職員が働きやすい環境づくりを目指し周知することで、働き方を見直し入居者生活が生きがいのあるサービスの提供となるよう業務改善に努めました。職員の離職者は計画のとおりといかず1名の退職者がありました。職員体制整備については求人情報の発信と職員間で募集状況を共有し、募集広告や職員間の紹介などにも努めました。

【4】施設の課題について

- ① 事業計画に挙げていた利益率は達成していますが、予算収益達成率は97.6%になり未達に終わりました。下半期の稼働率の低下等の要因もありますが、収入単価が低いことが原因と分析しております。来年度は収入単価を高くするためにサービスの見直しを行い、必要な加算取得を実施して、ご入居者やご利用者へサービスの向上を実現いたします。
- ② ①で挙げたことを実現するためにも人材確保と育成が必要です。深刻な人員不足を改善するためにも拠点だけではなく法人内と第2統括部と連携、協力のもと、採用から育成まで職員一同取り組んで参ります。
- ③ 拠点周辺の地域について自治会活動等は活発ですが、活動されている方の高齢化が進んでいます。一方で若い世代の自治会活動等の脆弱さが目立っております。20年先の地域活動を見据え、今の子育て世代の方々の地域活動を布市福

寿苑が共に活動や支援を行うことで未来の地域共生社会の実現を構築いたします。

【5】付表

(1) 防災訓練

月	日	種別	内容
4	17	部分訓練	職員と職員3階ご利用者を対象とした避難・誘導訓練
5	15	部分訓練	職員と5階ご利用者を対象とした避難誘導訓練
6	19	基礎訓練	職員とご利用者を対象とした消化器の取り扱い、消火活動訓練
7	17	部分訓練	職員と4階ご利用者を対象とした避難誘導訓練
8	21	部分訓練	職員と5階ご利用者を対象とした避難誘導訓練
9	25	夜間訓練	夜間並びに日祝日を想定しての通報訓練
10	30	総合訓練	夜間を想定しての総合訓練
11	20	総合訓練	夜間を想定しての総合訓練
12	18	総合訓練	夜間を想定しての総合訓練
1	28	予備訓練	防災の心得（ビデオ鑑賞）
2		夜間訓練	職員体制整わず、実施出来ませんでした。
3		総合訓練	消防署立会いによる職員とご利用者を対象とした通報・消火・避難訓練を予定していましたが、コロナウイルス感染予防対策に伴い、実施を見合わせました。

(2) 施設行事

特養

月	行事内容
4	日新高校桜まつり、花見ドライブ（3月31日）
5	春の遠足（5月29日） 母の日（5月12日）
6	父の日（6月16日）
7	花火大会 中止
8	夏祭り（8月4日）
9	敬老祝賀会（9月23日）
10	秋の遠足（10月23日 30日）
11	ファミリー祭り（11月10日）
12	ゆず湯（12月26日 27日） クリスマス会（12月11日）
1	元旦祭（1月1日）、初詣 中止
2	節分祭（2月5日）
3	ひな祭り（3月4日）
毎月開催	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会・ホーム喫茶 ・家庭科クラブ（週1回） ・ヨガクラブ（月1回） ・カラオケクラブ（月1回） ・化粧クラブ（毎月） ・誕生日会（毎月） ・法話会（毎月） ・訪問販売（毎月） ・喫茶（毎月1フロアずつ） ・傾聴ボランティア（月2回） ・メロンクラブ慰問（毎月） ・ショートレクリエーション（月1回）

布市福寿苑デイサービスセンター

月	年間行事	定期行事
4	買い物ツアー	音楽療法・散髪（月3回）
5	一銭焼き	体操&音楽療法・散髪（月3回）
6	運動会	音楽療法・散髪（月3回）
7	ビアガーデン	体操&音楽療法・散髪（月3回）
8	夏祭り	音楽療法・散髪（月3回） 南京玉すだれ
9	敬老会 保育園と交流	体操&音楽療法・散髪（月3回）
10	石切り参道買い物ツアー	音楽療法・散髪（月3回） 琴演奏
11	焼き芋	体操&音楽療法・散髪（月3回）
12	クリスマス会	音楽療法・散髪（月3回） 琴演奏
1	ぜんざい	体操&音楽療法・散髪（月3回） パン訪問販売
2	たこ焼き	音楽療法・散髪（月3回） パン訪問販売・ハーモニカ演奏
3	甘酒	パン訪問販売
毎月の 行事	誕生日会・季節食・カラオケ大会・お楽しみ会	

グループホーム布市真寿庵

月	内容
4	日新高校花見祭り、ドッグセラピー、おやつクラブ、ヨガ教室、メロンコーラス、地域清掃、桜のお花見（花園公園）、脳トレクラブ、図工クラブ、音楽クラブ 美容 ワックス
5	ドッグセラピー、ヨガ教室、美容 個別支援、脳トレ体操、おやつクラブ、図工クラブ、音楽クラブ 傾聴ボランティア
6	ドッグセラピー、おやつクラブ、ヨガ教室、個別支援 傾聴ボランティア 運動会、脳トレクラブ、図工クラブ、音楽クラブ 美容
7	ドッグセラピー、アイガード慰労会、ヨガ教室、個別支援、夏の外出（四條畷イオン）、脳トレクラブ、おやつクラブ、図工クラブ、音楽クラブ メロンクラブ、誕生日会、美容、傾聴ボランティア
8	ドッグセラピー、GH 夏祭り、地域清掃、美容、ヨガ教室、脳トレ体操、おやつクラブ、図工クラブ、音楽クラブ、傾聴ボランティア、誕生日会、ワックス、他施設夏祭り
9	個別支援、ヨガ教室、認知症カフェ、敬老会（GH）、コーラス（メロンクラブ）、ドッグセラピー、傾聴ボランティア、敬老会（日下公民館）、認知症カフェ、大正琴、脳トレ体操、おやつクラブ、音楽クラブ、図工クラブ、あおぞら保育所交流会、美容
10	美容、焼き芋、傾聴ボランティア、化粧クラブ、ドッグセラピー、脳トレ体操、図工クラブ、おやつクラブ、音楽クラブ、子供食堂、ヨガ教室、地域清掃
11	美容、ワックス、秋の外出（深北緑地公園）、脳トレ体操、図工クラブ、おやつクラブ、音楽クラブ、布市ファミリー祭り、傾聴ボランティア、大工塾、地域清掃
12	あおぞら保育園交流会（中止）、脳トレ体操、図工クラブ、おやつクラブ、音楽クラブ、誕生日会、傾聴ボランティア、ヨガ教室、クリスマス会、地域清掃、美容
1	初詣（石切神社）、元旦祭、傾聴ボランティア、脳トレ体操、おやつクラブ、音楽クラブ、図工クラブ、ドッグセラピー、ヨガ教室、誕生日会、美容
2	節分祭、脳トレ体操、おやつクラブ、図工クラブ、音楽クラブ、ドッグセラピー（中止）、地域清掃（中止）、ヨガ教室（中止）、誕生日会、傾聴ボランティア
3	ひな祭り・脳トレ体操・おやつクラブ・図工クラブ・音楽クラブ・誕生日会

(3) 年間研修報告

特養

月	研修内容 (種類)	
4	同一労働同一賃金対策研修	(OFF-JT)
	コミュニティソーシャルワーカー養成研修会	(OFF-JT)
	新入職員の為のサービスマナー研修	(OFF-JT)
5	コミュニティソーシャルワーカー養成研修会	(OFF-JT)
	食中毒の予防についての研修	(OFF-JT)
	感染症についての研修	(OFF-JT)
	高齢者虐待・身体拘束についての研修	(OFF-JT)
6	対人援助技術 利用者の力を引き出すコミュニケーション	(OFF-JT)
	ヒューマンスキルアップ研修会	(OFF-JT)
	スーパーバイザー養成基礎研修	(OFF-JT)
	介護保険施設集団指導	(OFF-JT)
	認知症ケア研修会 基礎編	(OFF-JT)
	感染症・食中毒予防対策講習会	(OFF-JT)
7	実践型リスクマネジメント力	(OFF-JT)
	特別養護老人ホーム経営セミナー	(OFF-JT)
	感染予防知識について	(OFF-JT)
	第一回福祉職員研修 「チームリーダー」	(OFF-JT)
	栄養士研修会	(OFF-JT)
8	介護ロボットセミナー	(OFF-JT)
	外国人材 採用 育成 セミナー	(OFF-JT)
	施設部会 経営セミナー	(OFF-JT)
	福祉分野における生産性向上セミナー	(OFF-JT)
9	離職者を出さない施設の取り組み	(OFF-JT)
	現場スタッフが働きやすい環境を造る	(OFF-JT)
	会計簿記研修	(OFF-JT)
	褥瘡についての研修	(OFF-JT)
	2020年日本の食事摂取の研修	(OFF-JT)
10	会計簿記研修	(OFF-JT)
	感染症についての研修	(OFF-JT)
11	リスクマネジメント研修	(OFF-JT)
	ノロウイルス講習会	(OFF-JT)
	第2回 外国人労働者雇用啓発セミナー	(OFF-JT)
	特定給食講習会	(OFF-JT)

1 2	外国人雇用に関して	(OFF-JT)
	初級リスクマネジメント研修	(OFF-JT)
	第21回 全国抑制廃止研究会	(OFF-JT)
	外国人雇用促進セミナー	(OFF-JT)
1	事故予防についての研修	(OFF-JT)
2	医療・介護・保育分野の職業紹介事業	(OFF-JT)
	高齢者の車椅子シーティングと移乗・座位修正技術	(OFF-JT)
3	高齢者の人権についての研修	(OFF-JT)
	事故予防についての研修	(OFF-JT)

布市福寿苑ヘルパーステーション

月	研修内容 (種類)	
4	接遇・マナー研修	(OFF-JT)
	防災非常対策	(OFF-JT)
5	食中毒予防研修	(OFF-JT)
	R1年度指定居宅サービス事業者等 集団指導	(OFF-JT)
	急変時対応について	(OFF-JT)
	腰痛予防研修 (5月・8月・11月・R・2月)	(OFF-JT)
6	熱中症の対策・対応について	(OFF-JT)
	食中毒の予防について	(OFF-JT)
7	事故発生時緊急時対応について	(OFF-JT)
	介護職が知っておくべき感染予防知識について	(SDS)
	令和元年度第1回東大阪市訪問事業者部会	(OFF-JT)
	CSW研修	(OFF-JT)
	障がい者ホームヘルパー知識習得 (居宅介護職員初任者)	(SDS)
	研修 (7月～10月・10回)	(OFF-JT)
8	コミュニケーション技術	(OFF-JT)
	褥瘡予防ケアと用具の選び方・使い方	(SDS)
	認定調査員現認研修	(OFF-JT)
	展示会で学ぶ福祉用具の基礎	(OFF-JT)
9	R1年10月～介護保険改定について	(OFF-JT)
	職場スタッフが働きやすい環境をつくる	(SDS)
10	ヒヤリハット・リスクマネジメント	(OFF-JT)
	ACP (人生会議) に関する研修	(OFF-JT)
11	感染症予防研修	(OFF-JT)
	メンタルヘルス研修	(OFF-JT)
12	高齢者虐待について	(OFF-JT)
	アンガーマネジメント	(OFF-JT)
	ノロウイルスについて	(OFF-JT)
1	アンガーマネジメント研修	(OFF-JT)
2	認知症について	(OFF-JT)
3	法令順守について	(OFF-JT)

居宅介護支援事業所

月	研修内容（種類）	
4	同一労働同一賃金対策研修	(OFF-JT)
	2019 コミュニティソーシャルワーカー養成研修会	(OFF-JT)
	法人間 事例検討研修会	(SDS)
5	2019 コミュニティソーシャルワーカー養成研修会	(OFF-JT)
	訪問型助け合いサービス集いサービスの方との交流会	(SDS)
	展示場で学ぶ福祉用具の基礎	(SDS)
	大阪府介護支援専門員更新研修 専門研修 I	(SDS)
6	平成 31 年度 労働セミナー	(OFF-JT)
	大阪府介護支援専門員更新研修 専門研修 I	(SDS)
	ヒューマンスキルアップ研修	(SDS)
7	相談援助のためのプランニングの実際	(SDS)
	展示場で学ぶ福祉用具の基礎	(SDS)
	人事評価制度設計実務研修会	(OFF-JT)
	東大阪市と介護支援専門員との意見交換会	(SDS)
	後見人 司法書士が実例を用いて説明	(SDS)
	特別養護老人ホーム経営セミナー	(OFF-JT)
	枚岡医師会との交流会	(OFF-JT)
	枚岡医師会との意見交換会	(OFF-JT)
	坂道発信の会	(SDS)
	東大阪市と介護支援専門員との意見交換会	(OFF-JT)
	第一回居宅介護支援事業者部会	(OFF-JT)
	法人間 事例検討研修会	(SDS)
8	人事評価制度設計実務研修	(OFF-JT)
	福祉分野における生産性向上セミナー	(OFF-JT)
	介護ロボット体験セミナー	(SDS)
	「ACP に関する研修」	(SDS)
9	会計簿記研修	(OFF-JT)
	介護保険福祉用具・住宅改修研修会	(OFF-JT)
10	会計簿記研修	(OFF-JT)
	坂道発信の会	(SDS)
	ヒューマンスキルアップ研修	(SDS)
	法人間 事例検討研修会	(SDS)
11	会計簿記研修	(OFF-JT)
	自立を支援するケアプランの考え方	(SDS)

1 2	東大阪市介護保険事業者連絡協議会交流会	(OFF-JT)
	認定調査員現認研修	(OFF-JT)
	東大阪市コミュニティソーシャルワーカー連絡会	(OFF-JT)
1	東大阪市と介護支援専門員との意見交換会	(OFF-JT)
	東大阪市介護予防ケアマネジメント研修	(OFF-JT)
	他職種連携研修会「地域包括ケア病棟と看護多機能施設について」	(SDS)
	入退院調整に係る専門職との交流会	(SDS)
	「後見人」司法書士が実例を用いて解説	(SDS)
	法人間 事例検討研修会	(SDS)
2	災害に備えるトイレの衛生環境	(SDS)
	地域福祉ネットワーク推進会議、発達障害の见えない特性を知る	(SDS)
	高齢者宅で発生する火災予防の講習	(SDS)
3		

布市福寿苑デイサービスセンター

月	研修内容（種類）	
4	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
5	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	東大阪市指定居宅サービス事業者集団指導	(SDS)
	認知症ケア研修会	(OFF-JT)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
6	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	認知症の方に対するリハと予防の為の暮らしの工夫	(OFF-JT)
	平成29年度中途採用研修	(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	介護現場におけるリスクマネジメント	(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
7	認知症の人から私たちのケアについて学ぼう	(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修	(SDS)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	安全運転管理者講習会	(SDS)
	平成30年度中途採用職員研修	(OFF-JT)
	通所介護・通所リハビリテーション事業者部会	
8	みのわの里デイサービス研修	(OFF-JT)
	介護支援専門員実務研修	(SDS)
	大阪府認知症介護実践研修	(OFF-JT)
	介護支援専門員実務研修	(SDS)
	介護支援専門員実務研修	(SDS)
9	介護支援専門員実務研修	(SDS)
10	高齢者施設結核基礎知識講習会	(OFF-JT)
12	東大阪市介護保険事業者連絡協議会交流会	(SDS)

グループホーム布市真寿庵

6	入職して今までの振り返りの研修	(OFF-JT)
	接遇マナー研修	(OFF-JT)
7	社会福祉法人経営者研修会	(OFF-JT)
	第一回居住系 地域密着型サービス事業者部会	(OFF-JT)
8	外国人人材採用・育成セミナー	(OFF-JT)
	老人施設部会経営者セミナー	(OFF-JT)
10	福祉職員の心のケアを考える講座	(OFF-JT)
11	認知症介護実践者研修	(SDS)
12	認知症介護実践者研修	(SDS)
	外国人介護人材セミナー	(OFF-JT)
1	認知症介護実践者研修	(OFF-JT)
	社会福祉法人の在り方研修 人権研修	(OFF-JT)
	小規模多機能ホーム研修	(OFF-JT)
	とろみ研修会	(OFF-JT)

※令和2年2月開催予定であった認知症疾患医療センター研修会については、新型コロナウイルス感染症の対応により開催されず未参加となる。

地域包括支援センター布市福寿苑

月	研 修 内 容
5	多職種連携研修会意見交換会 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 1日目 (OFF-JT) 法人内地域包括職員研修 (介護予防教室・サロン等について) (OJT)
6	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 2日目 (OFF-JT) 大阪府高齢者虐待対応研修 (基礎研修) (OFF-JT) 東大阪市地域包括支援センター担当職員研修 (OFF-JT) 地域包括支援センター職員基礎研修 (OFF-JT)
7	東大阪市と介護支援専門員との意見交換会 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 3日目 (OFF-JT) 社会福祉施設経営実務セミナー (OFF-JT) 第1回東大阪市生活支援コーディネーター研修会 (OFF-JT) 法人内地域包括職員研修 (災害について) (OJT)
8	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 4日目 (OFF-JT) 養護者による高齢者虐待対応現任者研修 (OFF-JT) 大阪府在宅医療・介護連携推進事業研修会 (OFF-JT) 「チームオレンジ」に関する全国ブロック別説明会 (OFF-JT) 第1回東大阪市CSW研修会 (OFF-JT)
9	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 5日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅱ 1日目 (OFF-JT) 東大阪市認定調査員新規研修会 (OFF-JT) 東大阪市高齢者地域ケア会議全体研修会 (OFF-JT) 介護保険福祉用具・住宅改修研修会 (OFF-JT) 東大阪市地域包括支援センター担当職員研修 (OFF-JT) 地域共生社会研修 (OFF-JT) 法人内地域包括職員研修 (消費者被害について) (OJT)
10	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 6日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅰ 7日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅱ 2日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程Ⅱ 3日目 (OFF-JT) 枚岡在宅医療フォーラム (OFF-JT) 経営改善基礎講座 1日目 (OFF-JT) 経営改善基礎講座 2日目 (OFF-JT)

1 1	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 I 8 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 I 9 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 II 4 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 II 5 日目 (OFF-JT) 経営改善基礎講座 3 日目 (OFF-JT) 経営改善基礎講座 4 日目 (OFF-JT) 法人内地域包括職員研修 (フレイル予防について) (OJT)
1 2	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 I 10 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 II 6 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 II 7 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 II 8 日目 (OFF-JT) 経営改善基礎講座 5 日目 (OFF-JT) 経営改善基礎講座 6 日目 (OFF-JT) 第 2 回東大阪市CSW研修会 (OFF-JT) 東大阪市認定調査員現任研修会 (OFF-JT) 東大阪市地域包括支援センター担当職員研修 (OFF-JT)
1	大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 I 11 日目 (OFF-JT) 大阪府介護支援専門員更新研修専門研修課程 I 12 日目 (OFF-JT) 東大阪市と介護支援専門員との意見交換会 (OFF-JT) 介護予防ケアマネジメント研修会 (OFF-JT) 入退院における専門職との交流会 (OFF-JT) 第 2 回東大阪市生活支援コーディネーター研修会 (OFF-JT) 法人内地域包括職員研修 (外国人雇用について) (OJT)
2	東大阪市虐待防止研修会 (OFF-JT) 東大阪市地域包括支援センター担当職員研修 (OFF-JT) 東大阪市多職種連携全体研修会 17.8(OFF-JT) 2019年度関西福祉科学大学 福祉・保育実習セミナー(OFF-JT)

地域包括支援センター事業実績報告書												提出日	年	月	日				
令和元年度年間分	支援センター名 布市福寿苑					今年度新規相談 実人員					577								
相談件数	相談者と相談方法					身体状況													
実態把握加算対象	1728	本人	家族	CM	その他	計	不明	未申請	申請中	自立	要支援		要支援計						
加算対象外件数		326	330	62	1010	1728					1	2							
相談件数合計	1728											249	81	26	517	373	890		
		訪問	来所	電話	計	総合事業					要介護度								
		1655	70	3	1728						1	2	3	4	5	要介護計			
認知症相談件数	203											275	71	26	17	4	11	129	
		家族形態					相談内容及び申請代行					計							
権利擁護援助 件数	28																		
うち虐待関連件数	19	同居	独居	計	介護保険					介護	福祉サービス	保健医療	家族関係						
		1159	569	1728	相談内容	1468	59	18	56	44									
							申請代行	226	1										
							介護予防	50	基本チェック	34	その他	435	計	2164					
							相談内容	50	34	435	2164								
							申請代行	227											
サービスの状況と利用希望												単位地域ケア会議							
		ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ	会議出席者		介護支援 専門員		サービス 事業者	医師			
現利用											会議出席者	自治会		民生委員					
利用希望	68	177	13	20	3	114	7	21	14	医療機関 職員		自治会		民生委員					
		配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中		計	福祉委員		関係機関				
現利用													福祉委員		関係機関				
利用希望	8	77	26	156	1	1		18	4	728		福祉委員		関係機関					
地域ケア支援・生活支援コーディネーター 内訳												単位地域ケア 会議加算対象							
相談方法	個別加算対象					43	認知症支援												
	個別加算対象外					3	認知症力 フェ(主催)	認知症カフェ(その他 (他カフェ))	認知症本人 活動支援	認知症あん しん声かけ 訓練	計								
訪問	来所	電話	FAX	計	地域ケア支援個別計	46	11	5			16								
	8	5	29	42	集団加算対象	87													
		虐待関 連相談 件数	18	地域ケア支援加算合計					130										
相談者	生活支援集団加算対象					52	高齢者生活支援等会議												
	介護支援 専門員	サービス 事業者	主治医	医療機 関職員	関係機関	知人	NPO法人	地域活動団体					福祉・介護職						
地域ケア(個別)	25	3		2	16			自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラ ブ	居宅介護 支援	訪問介護	通所介護					
地域ケア(集団)	3	19	1	2				3	3	3	2	3	3	2					
生活支援(集団)	1							医療機関					計						
	ボランティ ア	自治会	校区福 祉委員	民生委 員	老人クラ ブ	その他	計	医師					歯科医師	薬剤師	その他	計			
地域ケア(個別)							46						2	3	3	2	29		
地域ケア(集団)			3				87						高齢者生活支援等会 議加算対象						
生活支援(集団)							51	52						3					
実施した支援・内容												生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援) (担い手支援・社会資源マップ作成)				第1層への課題提示			
地域ケア支援(個別・集団)							担い手種別					マップ計							
ケアマネジ メント支援	ソーシャル ワーク 援助	情報提 供	連携支 援	その他	計	助け合い					つどい	計	第1層への課題 提示加算対象						
個別	9	2	17	5	20														
集団	11		73	1	2														
生活支援コーディネーター活動(集団)												立ち上げ担い手支援				担い手支援			
生活支援の 担い手の活 動状況確認	生活支援 の担い手 養成支援	総合事 業の制 度説明 等	取組の 事例発 表	計															
集団	45	5	2	52															

提出日 年 月 日

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和元年度年間分	支援センター名	布市福寿苑
	担当者名	石原、近藤、塩路、宮本、木村、川口、紀

地域介護予防活動支援

相談・支援件数		グループ種別					
総件数		老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Cボランティア	その他	計
	うちグループ活動支援					8	8
8	8						
相談方法							
		訪問	来所	電話	その他	計	
		8				8	

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室開催件数	44
家族介護教室開催件数	4
終活支援教室開催件数	1

【1】施設運営を振り返って

地域における介護老人保健施設としての役割、機能を果たすため、地域包括ケアシステムの担い手の一つとして施設入所サービス、短期入所療養介護の事業を行いました。ご利用者やご家族への尊厳の気持ちを大切に寄り添った介護を実現し、意向に沿ったサービスを提供することに努めました。また中間施設と位置付けられる介護老人保健施設として、医療機関をはじめとする関連事業所との連携に努めました。地域においては、住民に向けた介護予防教室や勉強会の開催、祭りや介護体験への参加協力を行い、介護の予防と発展、交流に努めて参りました。

【2】数値目標と実績 (%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
老健	目標	95%	100%	60.9%	26.7%	11.4%	1.0%
	実績	92.9%	101.1%	56.0%	24.8%	11.1%	8.1%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

- (1) 在宅復帰への支援を強化するため、職員の意識改革、システムの見直しと強化、新たな取り組みの考えの基、取り組みを行い、在宅復帰・在宅療養支援機能加算Ⅰを取得しました。
- (2) 介護老人保健施設として各専門職が持つ知識や技術を、地域の介護予防に活かして頂けるように三カ月に一度、介護予防教室や勉強会を開催しました。
- (3) 将来を見据えた体制作りが急務であり、職員の人材確保に努めました。また育成についてはOJTを実施し、目標管理に努めました。
- (4) 職員がご利用者やご家族への尊厳の気持ちを欠かさないように、定期的には人権・高齢者虐待をテーマにした研修を行い、啓発に努めました。
- (5) セクション内で能力向上、情報共有の強化、体制の見直しを行い、他職種で連携し、事故の予防に努めました。
- (6) 自然災害時の対応に備え、マニュアルや関連機関緊急連絡先の整備を行いました。
- (7) タイムスケジュールや配置を見直し、ご利用者処遇の改善に努めました。

【4】施設の課題

- (1) 介護老人保健施設として在宅復帰率は低値であり、意識や知識、体制等を強化する余地が十分にある。自立支援と日常生活リハビリに注力しなければなりません。
- (2) ご利用者へのサービス拡充のためには、各専門職が知識を深め、熟考、検討の上、新たな加算を取得する必要があります。

- (3) 安定した運営且つサービスを提供するためには、引き続き人材確保に努め、育成と定着が急務である。業務改善を行い、安定したOJTの実施と研修参加機会の増加を図らなければなりません。
- (4) 社会資源、地域包括ケアシステムの担い手の一つとして認知されるためには、情報発信や新たな取り組みを行わなければなりません。
- (5) 地震、台風、土砂等の災害時において、早期に介護サービスを提供するには事業継続計画を整備する必要があり、災害時に必要とされる備品の購入が求められます。

【5】付表

年間行事

月	行事内容
4	花見行事・ドライブ行事 誕生日会・歌謡クラブ・里喫茶
5	端午の節句・菖蒲湯・誕生日会 歌謡クラブ・里喫茶・ひらおか健康祭り
6	フラメンコ行事・誕生日会 歌謡クラブ・里喫茶
7	七夕行事・誕生日会 歌謡クラブ・里喫茶
8	夏祭り・誕生日会・里喫茶
9	敬老祝賀会・歌謡クラブ・里喫茶・誕生日会
10	ハロウィンパーティー・誕生日会 歌謡クラブ・里喫茶
11	ドライブ行事・歌謡クラブ・誕生日会 里喫茶・焼き芋
12	クリスマス会・誕生日会 歌謡クラブ・里喫茶
1	元旦祭・誕生日会・里喫茶
2	節分祭・誕生日会・里喫茶・鍋の会
3	ひな祭り・誕生日会 里喫茶・歌謡クラブ

年間防災訓練実績

防災訓練

月	訓練内容
6	消化訓練
9	日勤帯想定防災訓練（避難訓練）
2	夜間帯想定3施設合同防災訓練（通報訓練・避難訓練）

年間研修実績

施設内研修

月	研修内容
5	食中毒研修会
6	身体拘束廃止研修会
7	苦情対策研修会
9	身体拘束廃止研修会
10	感染症（インフルエンザ）研修会 身体拘束廃止新人研修会・接遇マナー研修
11	感染症（ノロウイルス）研修会・感染症基礎研修
12	感染症基礎研修・身体拘束廃止新人研修会・褥瘡研修 リスクマネジメント研修
1	報連相に関する研修会
3	認知症サポーター養成講座・身体拘束廃止新人研修会

施設外研修

月	外部研修内容
5	特定給食講習会
6	メディカルケアサポートセミナー
6	対人援助技術
6	介護老人保健施設 実地研修
6	接遇マナー研修
7	大老協懇話会
8	現場スタッフが働きやすい環境作り
8	身体拘束ゼロ推進員養成講座
9	栄養士研修会
9	大阪府認知症介護基礎研修
10	高齢者施設感染症・結核基礎知識講習会
11	自立支援に向けたプランニング研修

1 1	セルフケアセミナー
1 1	ノロウイルス講習会
1	認知症講習会
2	職場研修担当者研修会
2	法人ブランディング・広報PRセミナー

【1】施設運営を振り返って

「人材育成」「安定した経営」「機能強化」「包括ケアの構築」を4つの柱とし、施設運営を行ってまいりました。

「人材育成」においては、各部署で人員配置の見直しを行い、体制強化を図るとともに主任・副主任などの役職者の役割を明確にするなど意識改革に取り組みました。自身の役割を明確化することで、自覚が生まれ、役職者自身が成長するのはもちろん、大きな役割である「部下・後輩の育成」へも今まで以上に注力して行えるようになりました。

「安定した経営」「機能強化」においては、介護老人保健施設が有する医療と介護の専門性を最大限活かせることを目標に努めてまいりました。より多くの医療・介護が必要とされている方にご利用いただけるように、円滑な入所までのシステムの構築・ショートステイの有効活用などに取組むとともに在宅復帰への支援にも注力してまいりました。

「包括ケアの構築」においては、運営する3つの事業である介護老人保健施設・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所の連携を強化し、住み慣れた地域で生活できるように、様々なニーズに柔軟に対応できるように努めました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	—	62.0%	23.8%	4.6%	9.6%
	実績	—	102.2%	62.2%	24.4%	4.5%	8.9%
老健	目標	95.0%	—	60.9%	26.3%	5.3%	7.5%
	実績	93.5%	104.3%	60.6%	26.7%	5.2%	7.6%
通所	目標	85.0%	—	60.3%	15.5%	1.9%	22.3%
	実績	79.2%	90.1%	66.0%	17.4%	2.1%	14.6%
居宅	目標	38件 /1人	—	91.7%	3.3%	0.8%	4.2%
	実績	40.2件 /1人	107.3%	82.3%	1.7%	0.4%	15.7%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 介護老人保健施設

- ①介護老人保健施設の機能と特色を活かし、在宅復帰に向けての支援を強化します。(目標：在宅復帰率18%)

実施状況

在宅復帰に向けてご自宅訪問やご本人・ご家族への助言・指導を積極的に行うとともに、多職種間の情報を密に共有し、日常生活場面での実用性を重視した介護・リハビリテーションの実施を心がけました。

結果、在宅復帰率13.4%と目標には届きませんでした。前年度8.0%を上回ることができました。また、令和元年9月より在宅療養復帰支援加算の算定に至るなど在宅復帰強化型へ向けての基盤づくりの一年となりました。

- ②地域で介護・リハビリを必要とされているより多くの方に、継続的且つ公益的にサービスの提供を行えるように努めます。

実施状況

より多くの支援を必要とされる方へご利用いただけるように、迅速な入所受入れと積極的なショートステイの提案を実施していきました。

迅速な入所受入れについては、目標としていた稼働率95%は達成できませんでした。しかしながら、稼働率93.5%、延べ入所受入れ者数100名とともに前年度を上回る結果となりました。

また、ショートステイでは、延べ使用者数312名と前年度の65名を大幅に上回り多くの方にご利用していただきました。

- ③入所者の健康管理に努めます。

実施状況

年間入院者数72名と目標の36名を大きく超える結果となりました。

- ④地域福祉の拠点となるような包括的なサービスの提供に努めます。

実施状況

併設の居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションとの連携強化を図り、ご利用者が入所の必要性が生じた場合に円滑に受入れできるように努めました。

また、看取りサービスの提供の準備として、主たる職員の研修への派遣を行いました。

- ⑤ご利用者の安心安全に施設生活を過ごしていただけるように生活環境を整えていきます。

実施状況

テレビ、携帯電話、タブレット等の携帯端末をご利用いただける環境を整え、ご利用者のQOL向上を図りました。

また、ご利用者と一緒に行う調理レクを月に1回程度実施いたしました。

⑥安全で快適な食事の提供に努めます。

実施状況

快適な食事の時間を過ごしていただけるように、月に1度委託給食会社との会議を開催しています。その中で、異物混入ゼロに向けての取組みや季節にちなんだメニューなどを検討してきました。

⑦施設職員の職務能力の向上と意識改革を行い、ご利用者の意向に寄り添ったサービスを提供します。

実施状況

職員のスキルアップのため、月1回の施設内研修を実施してまいりました。また、面談を通じた目標管理を行うことで、専門職としてのスキルアップはもちろん人間力の向上を図りました。

(2) 通所リハビリテーション

①心身機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法・作業療法、その他必要なりハビリを提供し介護・看護・療法士など多職種でご利用者の生活を支援していきます。

実施状況

多職種での情報共有を常に意識し、ご利用者の支援に当たりました。それぞれの専門の立場から必要と判断するサービス（支援）とご利用者が希望される支援について、ケース会議で検討を行い、総合的なサービス提供を心がけてきました。

また原点に戻り、自立支援をテーマに残存機能を活かした支援に注力いたしました。ご利用者ごとに生活目標を設置し、ご利用者・事業所が同じ目標に向かって取組めるようになりました。

②職員のスキルアップ及び人材育成に取り組めます。

実施状況

月1回の全体会議で研修や療法士と合同で勉強会を実施するなどスキルアップを図りました。

職員面談を通じた目標管理も実施していきましたが、計画通りに実施することができませんでした。

③居宅介護支援事業所、その他保健医療福祉サービス提供者及び関係市町村と密接な連携を図り、ご利用者が地域において総合的なサービスを受ける事ができるように努めます。

実施状況

稼働率79.2%と目標の85%を達成することができませんでした。今年度の新たな取り組みとして、10月に新しい広報誌を作成や11月に居宅介護支援事業所のケアマネジャーとご利用者家族様を対象にした見学会を開催いたしました。

た。地域に向けて、当事業所の取組みを発信し、より多くの方にサービスをご利用いただけるように努めました。

(3) 居宅介護支援事業所

①地域の諸機関との繋がりを深めます。

実施状況

地域包括支援センターとの連携はもちろん、近隣の居宅介護支援事業所との連携強化に注力しました。定期的な勉強会を実施することで、同じケアマネジャーとしてスキルアップや課題共有また、地域で抱える課題の発掘などが行えました。

②業務の効率化を図り、質の高いケアの提供を目指します。

実施状況

総合事業対象者も含め、年間平均ケアマネジャー1人当たり担当40.2件でした。多くの方を担当させていただき上で、お一人お一人への支援の質が落ちることが決してないように努めてまいりました。

まずは、ご利用者台帳の整備を進めてまいりました。日々変化するご利用者の状態をしっかりと記録することで、適切かつ最善の支援を提案・提供できるようにしてまいりました。

また、フレックス勤務を活用した業務の効率化や時間に対する柔軟な対応を心がけてまいりました。これにより、仕事をされているご家族の方への訪問時間の調整や事務作業に重点を置いた時間作りなどが実現しました。

【4】施設の課題

運営する3事業のうち、介護老人保健施設と通所リハビリテーションで目標とする稼働率・収入を達成することはできませんでした。

来年度、これらの目標を達成するためには、長田の里が地域で本当に必要とされる社会資源として認知されることであると考えます。

そのためには、介護老人保健施設としてさらなる機能強化を図り、ご利用者・ご家族そして地域のニーズに柔軟に対応できるようにすることが大きな課題と考えます。

【5】付表

(1) 行事

介護老人保健施設

月	行事名
4	コミュニティー祭り・買い物・誕生日会
5	端午の節句・買い物・誕生日会
6	バイキング・喫茶・買い物・誕生日会
7	七夕祭り・買い物・誕生日会
8	夏祭り・買い物・誕生日会
9	敬老祝賀会・保育園児訪問・買い物・誕生日会
10	地車訪問・ハロウィン・買い物・誕生日
11	バイキング・買い物・誕生日
12	クリスマス会・買い物・誕生日会
1	元旦祭・買い物・鍋の日・誕生日会
2	節分・買い物・誕生日会
3	買い物・誕生日会

通所リハビリテーション

月	行事名
4	お花見・誕生日会
5	端午の節句・誕生日会
6	おやつ行事・誕生日会
7	七夕祭・誕生日会
8	夏祭り・誕生日会
9	敬老祝賀会・誕生日会
10	スポーツ大会・誕生日会
11	焼き芋大会・誕生日会
12	クリスマス会・誕生日会
1	初詣・誕生日会
2	節分・鍋行事・誕生日会
3	ひな祭り・誕生日会

(2) 防災訓練

月	種 別	内 容
6	消火器訓練	水消火器を使用して、火災発見から消火活動までの一連の流れを習得する訓練
10	総合訓練	夜間を想定した通報訓練・消化訓練・避難誘導訓練（消防署立会い）
12	地震訓練	大地震を想定して、利用者の安全を確保するための訓練
3	緊急連絡訓練	緊急時、全職員への通報訓練及び緊急動員を要請する訓練

(3) 研修

月	内部研修	外部研修
4	新人研修	
5	褥瘡予防研修	
6	人権・接遇マナー研修	食中毒予防対策講習会
7	食中毒対策	
8	災害時の対応	
9	事故防止・再発防止・緊急対応	看護実務者研修（身体拘束廃止）
10	実施なし	大阪府認知症介護基礎研修 リスクマネジメント研修会 褥瘡排泄ケア研修会
11	感染症予防	認知症介護実践者研修 感染症予防対策研修 高齢者施設結核基礎知識講習会 全国老人保健施設協会実施研修
12	倫理法遵守	介護リーダーに必要な現場の問題 解決力アップセミナー
1	認知症ケア	
2	事故防止・再発防止・緊急対応	
3	褥瘡予防研修	

【1】施設運営を振り返って

(1) 施設運営で方向性を明確化した。

- ① 入所者支援では、「自立支援」を基本に健康で明るく安心した暮らしを生活の位置付け生きがいのある生活ができるよう環境維持に努めた。
- ② 入居者のニーズに対しての生きがいとして、引続きピアノ・アコーディオン・おやつ会・買物ツアー・地域貢献活動の公益的な取組として自治会の高齢者との交流会等、気分転換を図り、近隣住民との親睦を図った。
- ③ 職員に対して元年度 OJT の実施各人の目標管理の推進に努めた。

【2】数値目標と実績 (%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	95%	99%	34%	56%	10%	0%
	実績	96%	98%	39%	57%	12%	△2%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

令和元年度結果累積入居者数は、21,078人（入居率96.0%）前年度（入居率95.1%）と数値目標は少しの増となった、要因として、入居者、退居者をスムーズな受け入れが進めることで、目標加増率の維持ができた、入院率は、前年度より-2.1となるも入院率の低下を目指し令和2年度に向け健康管理の対策が努力目標課題となる。

【3】事業計画の実施状況

- ① 地域に開かれた施設として施設の開放、地域自治会イベントの参加、地域のサービスの拠点としての施設の在り方等、快適な生活を維持できるように努め、施設の改修工事においても環境整備を計画的に図り、引続き快適な生活の環境維持に努めた。
- ② 法人の理念である地域への生活支援の拠点として頂けるよう、居住型施設と福祉施設の役割を併せ持つ特徴を発揮していけるよう努めた。
- ③ 入居者に対しての定期的な健康維持、各種サービスへの結び付けによる、継続安心・安全な生活維持管理を確保し地域行事参加の推進等、施設運営に努めた。

【4】施設の課題

- ① 入居者は、身体的介護は必要としないが、様々な事情で居宅での生活が困難な生活をされている入居者も多くなってきており、多様化するニーズに対しての情報収集し利用者の良質の生活を提供できるように努めた。
- ② 入居者が要支援より要介護になられた方に対しては、スムーズに医療機関や介護サービスの提供機関に入居者の身体状況の共有に努め、継続安心・安全な生活維持に向けた取り組みに努めた。

- ③ 施設の老朽化の為、引続き施設の総点検を実施し利用者に継続して、生活をして頂けるよう環境整備を図り引続き快適な生活環境の維持に努めた。
- ④ 職員に対してのOJTの推進による目標管理へ努めた。

【5】 付表

(1) 行事

月	施設内定例行事
4	花見会（ドライブ）感染症の為中止・誕生日会
5	端午の節句（菖蒲湯）・誕生日会・枚岡健康祭り施設合同
6	おやつ会・誕生日会
7	七夕祭り・誕生日会・おやつ会
8	夏祭り（4施設合同）・おやつ会・誕生日会
9	敬老祝賀会・誕生日会・
10	枚岡神社秋祭・太鼓台訪問（地域住民慰問）・誕生日会・おやつ会
11	鍋の会・誕生日会・おやつ会
12	クリスマス会・ゆず湯・誕生日会
1	元旦祝賀会・鍋の会・誕生日会・おでんバイキング
2	節分祭（豆まき）・鍋の会・誕生日会・おやつ会
3	ひな祭り・誕生日会・鍋の会

※地域自治会高齢者と入居者との交流会月2回開催

(2) 防災訓練

月	種別	内容
6	基礎訓練	防災監視盤・非常通報装置・非常用放送設備などの確認及び使用方法を学ぶ基礎訓練、通報、初期消火、入居者の避難誘導。職員6名入居者21名
1	基礎訓練 消防署立会 感染症で立会中止	非常用放送設備を作動させ全館火災放送を流し入居者の避難誘導を行った。 職員6名入居者21名

(2) 研修

月	内容	場所	職種
5	食中毒の予防・受動喫煙対策	東大阪市保健所	栄養士
6	感染症・食中毒予防対策	クレオ大阪中央	介護士
7	災害時の給食を継続するためには	東大阪市保健所	栄養士

1 1	感染症予防対策講習会 ノロウイルスの基礎 個人情報保護法（基礎編） 介護従事者のセルフケア・セミナー	クレオ大阪中央 東大阪市文化創造館 社会福祉指導センター ひらおか会議室	生活相談員 栄養士 介護士 介護士
1 2	施設における栄養管理 個人情報保護法の（応用編）	市立住吉区民センター 社会福祉会館	栄養士 介護士
2	職場研修担当者研修会	中央福祉学院（湘南）	生活相談員

【1】施設運営を振り返って

ケアハウス : 目標に掲げていました稼働率目標については、夫婦部屋の活用がうまくいかなかったことなどもあり、若干目標稼働率には届かなかったものの、おおむね達成となりました。但し、入居者との意見交換の場を設ける、地域への働きかけの2点については達成できず課題の残る結果となりました。

地域密着型デイ : 稼働率の向上を最重要課題として掲げてまいりましたが、達成には至りませんでした。下半期にある程度の稼働率を残すことはできましたが、上半期の稼働率低下が大きく影響し、年間の稼働率は大幅に目標値を下回る結果となりました。

短時間デイ : 稼働率の向上を最重要課題として取り組んでまいりましたが、年間を通じて稼働率は伸び悩み、結果的には目標値に遠く及ばない数値で終わりました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標			45%	45%	7%	3%
	実績		96.9%	49.1%	44.3%	6.5%	0.1%
ケアハウス	目標	94%		37%	54%	8%	1%
	実績	93.2%	94.3%	40.2%	52.0%	7.8%	0%
地域密着型通所	目標	73%		76%	21%	2%	1%
	実績	58%	106.4%	78.9%	18.7%	2.3%	0.1%
短時間デイ	目標	50%	——	——	——	——	——
	実績	36.5%	——	——	——	——	——

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) ケアハウス

ケアハウスでは①高稼働率の維持、②施設と入居者並びにその家族との関係性向上、③地域との関係性の構築、の3点を計画目標に掲げ事業を進めてまいりました。①高稼働率の維持については、入居待機者を積極的に確保する事で、入退去をスムーズに進行し、おおむね計画通りの数字を残す事が出来ました。一方、②入居者並びにその家族との関係性向上と③地域との関係性構築の2点は、具体策の検討並びに実施が進められず、達成には至りませんでした。

(2) 地域密着型デイサービス

最重要課題として、稼働率の向上を目指してきたが、年度当初から人員体制が整わなかった事や計画達成に向けた具体的な施策の実施ができていなかったこともあり、上半期の稼働率は低下。下半期には人員体制も整い、本格的な営業活動の再開や広報紙、営業資料の見直し、のぼりの設置等を並行して行う事で若干の改善傾向は見られたものの、年間を通じての稼働率目標には到達できませんでした。また、併に掲げていた「不適切ケア」の排除については、事業所内での研修開催や職員間で注意を促すなど、「不適切ケア」に対する意識を高めることで、一定程度の効果があったと考えます。

(3) 短時間デイ

稼働率の向上を目指し、地域包括支援センター等へのPR活動については、営業資料の内容見直しを行うと共に営業活動の継続を図ってまいりました。また、地域の他職種連携研修会において事業説明を行う機会をいただき、短時間デイの事業に関する説明を行うなどの活動も行いましたが、稼働率の好転には至らず、計画達成とはなりませんでした。

【4】施設の課題

ケアハウスでは、今後も稼働率の維持が継続した課題になると共に、前年度で計画達成に至らなかった、『地域とのつながりを深める』事と、『入居者との対話機会を設け、サービスの質の向上を図っていく』事の2点が大きな課題となります。地域密着型デイでは、例年同様、稼働率の向上が最重要課題であり、併せて提供するサービス内容のマンネリ化防止と職員の育成を念頭に置いた職員の自由な発想と自主的な行動を促す労働環境の整備について、新たな課題と位置付けてまいります。

短時間デイでは、稼働率の減少が継続しており、これを改善する事が最大の課題となります。特にサービス利用に至ってない事業対象者に対する周知とサービス内容の見直しについては、緊急性の高い課題であると考えます。また、現在行っている事業形態（週1回半日のみ開催）についても、稼働率停滞の一因になっている可能性があり、今後は、この部分についても検討が必要であると考えます。

【5】付表

(1) 行事

(ケアハウス)

月	行事名
4	花見会
5	菖蒲湯、衣類訪問販売
6	外出行事
7	夕涼み会
8	4施設合同夏祭り
9	敬老祝賀会
10	外出行事
11	文化祭、焼き芋大会
12	クリスマス会
1	元旦祭、鏡開き
2	節分祭
3	おやつレク

(地域密着型デイ)

月	行事名
4	花見ドライブ
5	菖蒲湯、
6	買い物ツアー
7	夏祭り
8	射的大会
9	喜里川オリンピック (運動会)
10	買い物ツアー
11	文化祭
12	大忘年会
1	喜里川映画祭
2	節分祭、焼き芋大会
3	花見ドライブ

(2) 防災訓練

月	訓練内容
5	消防署立ち合いによる総合訓練（夜間想定）
10	防災啓発訓練
12	消火訓練、避難誘導訓練（夜間想定）
3	緊急連絡網を使用した通報訓練

(3) 研修

月	研修内容
4	サービスマナー研修
5	医療研修（熱中症について）
6	高齢期の特徴に関する勉強会
8	感染症研修会（食中毒予防について）
	見取りに関する勉強会
9	感染症研修会（結核について）
10	感染症研修会（インフルエンザについて）
11	身体拘束研修会（スピーチロックについて）
12	人権研修（高齢者虐待について）
1	医療研修（拘縮と褥瘡に関する理解）
3	事故対策勉強会（過去事例を基に）

【1】施設運営を振り返って

大東市を中心に関連機関とのネットワークを広げていく取り組みを行った。営業活動を通じて新しく関わった事業も増加したが、介護プランの実績は目標を達成することができなかった。予防プランについては大東市の認証ケアマネジャーを取得して大東市からの予防プランの受け入れを開始しており目標件数を達成した。収支差額としてはマイナスとなっており、介護プランの件数が伸びなかったことが原因である。

【2】数値目標と実績

(%)

		稼働率等		稼働率等	
居宅介護	目標	450 件	介護予防	目標	360 件
	1人1月	25 件		1人1月	20 件
	実績	275 件		実績	376 件
	1人1月	15 件		1人1月	25 件
	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
目標		112.8%	33.0%	0%	△45.8%
実績	76.1%	160.5%	42.4%	0%	△102.9%

【3】事業計画の実施状況

(1) 居宅介護支援事業所

大東市を拠点に関連機関との連携を図り、地域に根付いた事業展開に努めた。大東市ケアマネジメント研究会、大東市地域ケア会議等へ参加し、地域の関係機関との連携を深める取り組みを行った。介護の日フェスティバルなど地域の行事等に参加し、新たに関わった事業所も増加した。ごりょうの家の小規模多機能ホームと認知症対応型デイサービスとの連携、新規利用者の獲得に努めた。

【4】施設の課題

現在、1.5名体制であり、介護プランの件数が目標件数に達成しなかったため収支がマイナスとなっている。今後、介護プランの増加、人員の増加及び事業所加算の取得を目指していくことが課題である。また、令和2年6月頃にごりょうの家の敷地内に移転を予定しており、連携の強化と相乗効果によるサービス提供の確保、新規利用者の獲得に努めていくことも課題である。

【5】 付表

- (1) 行事 令和元年11月3日 介護の日フェスティバルに参加。
- (2) 防災訓練 令和元年9月23日 防災マニュアル・緊急連絡について。
- (3) 研修 主に法定外研修、大東市ケアマネ研究会主催の研修会等、介護支援専門員の専門性の向上を目的とした研修に参加した。

月	
4	指定居宅サービス事業者等集団指導
5	自立支援研修
6	大東市自立支援研修 北河内圏域地域リハビリテーション関係者会研修 自立支援マネジメント研修
8	アンガーマネジメント研修
9	終末期医療 アドバンス・ケア・プランニングから考える 障害者の権利擁護 自立支援マネジメント研修
10	対人援助の専門職におけるコミュニケーション力について アンガーマネジメント研修
11	介護予防について メンタルヘルス・セルフケアセミナー
1	認知症について
2	自立支援マネジメント研修

【1】施設運営を振り返って

「ごりょうの家」を地域の社会資源の一部として認識していただけるように、御領自治会、校区福祉委員会、大東市社会福祉協議会、自治会、地域包括支援センター、地域の事業所等と積極的に連携、協力することができました。

収支の黒字化を達成する為に、昨年以上に営業や広報活動等に努め稼働率を向上させることができました。また人員の配置転換、介護区分の見直しにも努めました。

人材育成（OJT）では、正社員を中心に積極的に進めることができ、全員ではありませんが、パートタイム職員にも実施する事ができました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	60.7%	87.7%	97%	13%	19.8%	△11%
	実績	50.1%		119%	19%	22.4%	△28%
小規模多機能	目標	66.1%	100%	106%	15%	19.8%	△20%
	実績	66.3%		108%	17%	19.6%	△21%
認知症デイ	目標	55.4%	64.4%	88%	12%	19.7%	△2%
	実績	33.9%		151%	24%	30.5%	△43%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 小規模多機能型居宅介護

・中重度、訪問体制の強化

結果的に中重度の要介護者は少なかったですが、身体的な介護技術や、認知症の接遇の強化には努め、受け入れ態勢はある程度整いました。は、訪問介護経験者を中心に研修等で訪問体制の強化に努めました。ただ訪問に対するニーズが比較的少なく、訪問の件数はあまり増えませんでした。

・受入時間の拡充、充実

「通い」の提供時間である7：00～21：00の受け入れ態勢を整えました。結果、通常のデイサービスでは対応できない、夕食後までの利用者のニーズに答えることができた為、新規獲得につなげることができました。

(2) 認知症対応型通所介護

・「デイサービス ごりょうの家」としてのPR活動

「デイサービス ごりょうの家」をさらに認知して頂けるようPR活動の範囲を広げました（東大阪市、門真市）。認知症の重度からではなく、軽～中度の認知症の方が利

用して頂けるように認知症対応が早い方がより緩やかに進行して自分らしさを維持できることを伝え、地域包括支センターや居宅介護支援事業所にPR活動しており、実際に要支援の方（軽～中度の認知症）がご利用されました。物忘れ外来のある病院にはソーシャルワーカーに広報誌を渡し連携に努めています。

・受け入れ時間帯の拡充

実際に短時間（3～4時間対応）からの受け入れをしており、送迎時間についてもニーズに応じていますが、実績の安定や増加はなかなか難しく、新規受け入れと同じくらいに入所などで利用中止者もありました。8月から土曜日も営業したが、予想以上に新規受け入れは少なく、組み入れしながら対応するも実績増にはあまり結びつきませんでした。

・人材育成の強化

人材育成体制を整え、面談を中心に職員一人一人の目標を掲げ、実施出来ています。また、外部研修などによっても指導方法などを学び、より良いサービスが提供できるように職員一人一人の資質の底上げを図りました。

【4】施設の課題

収益の安定化、収支の黒字化を達成できなかったことが一番の課題である。特に認知症対応型通所介護は8月から土曜日の営業を開始し、当初見込まれていた利用者が入院などで受入できなかったことが大きい。小規模多機能は、稼働率は計画通りだったものの、要介護度が1.9と予想より低かったこと、看護師の体制が整わず加算を取得できなかったことが要因である。両サービス共通としては後半稼働率が上がったものの2月、3月は新型コロナウイルスの影響で利用自粛者の増加が原因の一つとして挙げられる。当面の間は新型コロナウイルスの影響は避けられないが、広報誌やホームページでのPRは行っていく。その後は、外部に向けての営業はもちろん、家族会や認知症カフェ等を利用しての内覧会等でもPRしていく。看護体制加算等の加算取得も目指し、収益向上に努めていく。

【5】付表

(1) 行事

月	内容（小規模多機能）	内容（認知症対応型通所）
4	花見	花見ドライブ
5	春の外出	昼食レクリエーション
6	おにぎりバイキング	買物ツアー
7	七夕祭り	流しそうめん

8	夏祭り（デイと合同）	夏祭り（小多機と合同）
9	敬老祝賀会	敬老祝賀会
10	秋の大運動会	室内運動会
11	焼き芋	紅葉ツアー
12	クリスマス会	クリスマス会
1	鏡開き・温泉	初詣
2	節分祭	節分祭
3	ひな祭り	ひな祭り
該当月	○利用者様お誕生会	○利用者様お誕生会

※2月以降新型コロナウイルス関連でボランティア、地域活動等では中止する

※月1回 ドッグセラピー

※御領お楽しみサロン

※大東市介護者家族の会（サルビアの会）

※不定期 演芸ボランティア（マジックショー、歌謡ショー）

（2）防災訓練

月	内 容	
5	消火訓練、避難訓練	2階キッチンからの火災を想定した避難訓練。初期消火の大切さや初期消火の限界を知って頂いた上で避難訓練を実施。職員二人を利用者役にして、避難誘導する。避難時の通路の確保やその時の利用者の誘導の順番など色々と質問あり。非常階段の近くには物を置かず、避難通路は車椅子が通れるように指導する。
6	総合訓練 (消防署員立ち合い)	小規模多機能（1F）、認知症型通所介護（2F）の利用者が最も多い時間帯の火事を想定する。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導方法を身に着ける。

8	消火訓練、避難訓練 (夜間帯想定)	小規模多機能(1F)の夜勤帯の火災を想定した訓練。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導方法を身に着ける。 (特に夜勤職員)
10	消火訓練、避難訓練 (地震)	震度5以上を想定した地震時の避難訓練。利用者様の安全確保、避難経路を確認して安全に1階玄関まで避難誘導する。また、地震後台所で火災発生したとの想定で消火訓練も実施。大東市のハザードマップを中心に地震についてと避難場所を確認する。車の駐車位置が前回と変わっており、ぎりぎり車椅子が通れるスペースであった。今後、車椅子が通れるスペースをしっかりと確保して駐車するよう施設全体で実施していく。
12	防災訓練 (緊急連絡網)	非常災害時を想定した職員の緊急連絡網の訓練を行った。

(3) 研修

月	内 容
4	平成30年度インシデント・事故報告の振り返り(内部研修)
5	フェイシャルマッサージの実技研修(内部研修)
6	排泄ケアについて(外部研修) 認知症介護基礎研修(外部研修) 接遇マナー研修(外部研修) 食中毒予防について(内部研修)
7	脱水予防について(内部研修)
8	熱中症予防について(内部研修) 認知症サポーター養成講座(派遣講師にて内部研修) 便秘予防について(内部研修)
11	看護・介護職従事者のためのセルフケアセミナー(外部研修)
12	人権研修(外部研修) 看護・介護職従事者のためのセルフケアセミナー(内部研修)
2	職員研修担当者研修会(外部研修)

- ※3月に外部研修の予定あったが、新型コロナウイルスの為中止となる
- ※認知症介護実践リーダー研修（12/6～3/13、計10日間と自施設実習）
- ※介護支援専門員更新研修（7/22～1/31、計10日間と自施設実習）
- ※認知症ケア各種療法（8つの療法）の本を各職員に回し読みする
- ※小規模多機能計画作成担当者研修（2/26・3/2）

【1】施設運営を振り返って

「地域包括ケア」を担えるよう介護老人保健施設すいれん・通所リハビリテーションすいれん・居宅介護支援事業所ケアプランセンターすいれんが共に情報を共有し利用者・入所者の方々に切れ目のない支援が行えるよう体制づくりを行い、実施して参りました。

「地域包括ケア」において、重要な中間施設に位置付けられている介護老人保健施設を運営するに辺り収支の安定化や人員体制・人員配置の整備はもちろん職員教育体系の基盤づくりを行い、より良いサービスの提供を心掛けました。そうした事で地域の方々や関連施設とも少しずつではありますが、相談件数も増加し全事業所の稼働向上にも繋がりました。

鶴見区民祭りへの出店や、すいれん祭りの開催を行い地域の方々により親しんで頂く為の新たな活動も行いました。

施設内情報共有システムの構築の為、NASの導入を行い業務改善につながる様取り組みを行っております。現状の業務内容を見直し、今後業務改善を行う上で活かしていくように努めてまいります。

【2】数値目標と実績

(%)

介護老人保健施設 すいれん		稼働 率等	収入 達成率	人件 费率	経费率	償却 费率	利益率
拠点	目標	—	—	71.8%	36.5%	14.6%	△22.9%
	実績	—	97.4%	69.3%	30.7%	18.0%	△18.1%
老健	目標	78%	100%	71.8%	37.7%	14.6%	△20.8%
	実績	70.9%	98.0%	67.0%	32.0%	18.0%	△17.0%
通所	目標	64%	100%	79.8%	30.1%	14.4%	△24.3%
	実績	61.2%	90.7%	72.4%	23.6%	18.4%	△14.4%
居宅	目標	491件	100%	230.4%	18.8%	14.1%	△163.4%
	実績	623件	126.9%	186.8%	12.4%	14.5%	△113.8%

※償却费率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

介護老人保健施設につきましては、上半期までは順調に入所を受け入れる事が出来ました。年末にかけて在宅復帰及び他施設への入所や体調不良による入院等により、一時、稼働向上が伸び悩み計画未達となりましたが、12月から短期入所の依頼も多くあり少しずつではありますが、稼働が向上しています。短期入所の割合が多いため、今後は入所の割合を増やす事で稼働をより安定させていきます。

通所リハビリテーションにつきましては、積極的に新規の受け入れを行う事により稼働率は向上する事が出来ましたが、計画は未達となっております。現状要支援の方のニーズと短時間利用のニーズもあり、今後サービス内容の見直しを随時行い新規受け入れによる稼働向上及び、利用時間を延長して頂ける様な態勢づくりを行ってまいります。

居宅介護支援事業所につきましては、地域包括支援センターからのご紹介を中心に各機関や利用者、ご家族からも相談を頂けており、計画は達成しておりますが、要介護の方の件数が伸び悩んでいる為、今後も安心してご相談がいただける様な体制づくりを務めてまいります。

人件費率につきましては、人材確保が計画通りに行う事が出来ておりません。今後も積極的な人材確保を行い、育成に努めてまいります。

経費率につきましては、稼働率が未達になった事による減少と、本入所の受け入れを行った結果、医療費や薬に関する費用が多くなっている為、今後見直しを行ってまいります。その他の費用につきましてもコスト削減に努めてまいります。

【3】事業計画の実施状況

(1) 施設拠点について

地域の方々へのPR活動を兼ねて、体操居室への参加、各関係機関への研修・会議への積極的な参加を行い、区民祭りへの出店や、地域の方々に向けてのすいれん祭りの開催を行いました。地域の秋祭りのだんじりも施設への訪問を行って頂きました。近隣の高等学校への特別授業の講師としての派遣も行う機会も頂ける等、地域貢献活動も行う事が出来ました。

(2) 介護老人保健施設

①安定した運営に向けての取り組みとご利用者の在宅復帰を目指しました。

稼働につきましては少しずつではありますが、稼働は向上しています。在宅復帰についても年間復帰率23%となっています。しかし、計画的な在宅復帰支援はできておらず、家族様主導で在宅復帰される事が多く介護老人保健施設としての役割を担えるほどではありませんので、今後の課題となっています。

②介護老人保健施設の『在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価』の基準に基づき、安定した評価点数取得の為に仕組みづくりに努めました。

入退所前後訪問や退所前連携等を実施した事で安定した評価点数を取得できており、基本型老健の維持はもちろん在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得も可能な状況となっています。

③人材不足が予想されるため、積極的に人員配置の整備を行いました。

外国人雇用の受け入れにも力をいれ、研修への参加や施設職員を対象に勉強会の参加を行い外国人の方を雇用するようになった場合でもサポートできる体制づくりを構築しました。また、職員教育にも力を入れ法人研修への参加や業務内容の組み立てを随時実施し未経験の方でも安心して働ける育成体系づくりを心掛けて取り組んでまいり

ましたが、退職者も多くあり職員の定着率向上となりませんでした。

④社会福祉法人の施設として地域との関係づくりに取り組みました。

区民祭りや自施設での祭りを通して介護相談ブースを設置し、地域の方々への介護に関わる助言を行う機会を設けました。その結果、すいれんの周知も徐々に増え、相談件数も増えてきました。

(2) 通所リハビリテーション

①定期的に居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等への訪問を行いPR活動に努め、ご利用者様のご紹介も頂けました。

②ご利用者様のリハビリの状況や現在の身体状況が見える化し、定期的に関係機関へ情報提供を行い、情報の共有を行う事でサービスの質の向上に努めました。

③外部研修への派遣及び内部研修の実施を行い、職員の質の向上を行い、各種レクリエーションや行事の質の向上に取り組んでまいりました。

④加算取得につきましては、職員体制の要件が満たせず取得には至りませんでした。が、体制の構築を行い令和2年4月より『中重度ケア体制加算』『サービス提供体勢強化加算』を取得しております。

(3) ケアプランセンター

①地域住民の方とは体操居室への参加、各関係機関に関しても研修・会議への積極的な参加と、必要書類については、可能な限り持参する事で顔の見える関係づくりが行えました。

②利用者・家族・各機関からの相談を頂いた際は、4月より介護支援専門員の増員に伴い、迅速に対応する事を心がけその後もご紹介を頂く事が出来ました。現状は男性2名の職員体制で、今後、異性や複数の職員配置にする事で個々のニーズに合った迅速な対応が図れるように努めます。

③入所相談から施設退所、在宅復帰までの支援方法を整備する事により、利用者・家族が安心して施設入所から在宅復帰ができる様な体制づくりを行う為に、本体施設との連携を図り、質のいいサービス提供ができるように努めました。

【4】施設の課題

施設の課題としましては、人材確保が十分に行えていない事や育成体系の構築がまだ不十分である事。今後稼働向上から安定を目指す為にも、計画的な入退所を行う事が大きな課題となっております。その為にも今後業務改善を通じて、様々な環境の仕組み作りを行い、施設運営の安定化及びサービスの質の向上を行ってまいります。

【5】付表

(1) 年間行事

老人保健施設

月	内容
4	お花見
5	春の遠足
6	ギョーザパーティー
7	七夕祭り
8	夏祭り
9	敬老祝賀会
10	運動会
11	すいれん祭り
12	クリスマス会
1	元旦祭
2	節分
3	ひな祭り

通所リハビリテーション

月	内容
4	誕生会
5	誕生会
6	誕生会
7	夏祭り 誕生会
8	誕生会
9	敬老祝賀会 誕生会
10	ミニ運動会 誕生会
11	誕生会
12	クリスマス会 誕生会
1	誕生会
2	節分 誕生会
3	誕生会

(2) 防災訓練

月	種別	内容
5	基礎訓練	新人職員を対象とした、施設の防災機器・器具の場所及び取り扱い方法等を周知行う。
9	消火訓練 合同防災訓練	消防署職員立会の元、水消火器を用いた防災訓練と、夜間想定消防訓練を実施。火災時の対応等についての訓練を行った。
2	避難訓練	施設で火災が発生した際の避難方法の周知を各部署で行う。

(3) 研修

介護老人保健施設

月	内部研修内容
4	・新職員研修
5	・機能訓練研修、認知症ケア研修
6	・食中毒について ・リスクマネジメント研修 ・人権、高齢者虐待研修
7	・食中毒について ・ノロウイルス対策研修
8	・リスクマネジメント研修 ・身体拘束ゼロ対策研修
10	・救急搬送研修
11	・救急搬送研修
12	・褥瘡予防研修
1	・身体拘束ゼロ対策研修
2	・事例検討研修
3	・認知症ケア研修

月	外部研修内容
5	鶴見区介護保険事業者連絡会 総会
6	・「在宅復帰、在宅支援」実地研修プログラム ・リスクマネジメント研修・接遇、苦情対応の研修
7	・大老健懇話会 ・認知症高齢者看護ケア研修会 ・感染症予防知識 ・福祉職員のメンタルヘルス研修 ・求人、広報力の向上研修
8	・相談面接の技術 ・褥瘡予防ケアと用具の選び方、使い方 ・住宅改修と住環境整備の基礎知識 ・社会福祉施設における防災、減災の取り組みについて
9	・鶴見区内老健・特養栄養士連絡会 ・外国人雇用セミナー
10	・職員接遇研修 ・介護老人保健施設における感染症予防について
11	・特定給食講演会

通所リハビリテーション

月	内部研修内容
4	総合研修
5	総合研修
6	感染症（食中毒）予防研修
7	人権・高齢者虐待・身体拘束研修
8	認知症基礎講座
9	事故防止リスクマネジメント研修
10	感染症予防研修
11	接遇マナー研修
12	介護技術向上研修
1	事故防止リスクマネジメント研修
2	褥瘡予防研修
3	救急対応（地震災害時）研修

月	外部研修内容
9	法人内体験研修
10	法人内体験研修

居宅介護支援事業所

月	外部研修内容
5	・第1回鶴見区介護保険事業者連絡会研修会
6	・令和元年度 介護事業者等集団指導 ・第1回 鶴見区ケアマネット総会 ・第2回ヒューマンスキルアップ研修会（法人内）
9	・ケアマネスキルアップ事業
10	・第2回 鶴見区ケアマネット研修会「アサーション」
11	・メンタルヘルス セルフケア セミナー（法人内） ・第2回鶴見区介護保険事業者連絡会研修会
12	・第3回 鶴見区ケアマネット研修会
1	・ケアマネスキルアップ事業

ケアフル布施 令和元年度 事業報告

【1】施設運営を振り返って

令和元年9月1日に株式会社日本技術センターより事業譲渡を受け、新たに介護保険における訪問介護、居宅介護支援事業所、障害福祉における居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援の6事業を開始しました。

新規事業に係わる指定申請をはじめ各種届出、就業規則・給与規定の制定等を行い、又、職員に対する事業譲渡に関する説明会、雇用契約の手続き等も順調に終え、退職者を出さずにスムーズに移行することができました。

今年度は、現在、各事業が抱える課題抽出のため、総合的に実態把握を行い、課題整理、改善計画の策定まで完了しました。解決すべき課題の内、業務分担の明確化や定例会議の再構築など、いくつか取り組んだ内容もありますが、残された課題については次年度以降に取り組みます。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	—	94.8%	22.8%	—	△17.6%
	実績	—	91.5%	99.5%	24.6%	0.8%	△24.9%
訪問介護	目標	6848	—	126.2%	24.9%	—	△51.1%
		3.4					
	実績	5933	86.9%	135.9%	33.7%	1.3%	△70.9%
		2.9					
障害福祉	目標	2582	—	56.8%	19.6%	—	23.6%
		2.7					
	実績	2301	89.7%	59.5%	12.8%	0.1%	27.6%
		2.4					

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

※訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

居宅介護	目標	420	—	119.8%	27.9%	—	△47.7%
		461					
	実績	30.0	121.6%	111.0%	33.1%	1.1%	△45.2%
		32.9					

※担当件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1か月あたりの担当件数（下段）

【3】事業計画の実施状況

(1) 訪問介護

- ①営業活動や関係機関との連携により月平均2～3件新規獲得できました。
- ②11月より介護職員処遇改善加算Ⅰ、令和2年3月より介護職員等特定処遇改善加算Ⅱの算定を開始しました。
- ③登録ヘルパーに対し2ヶ月に1回研修会を開催しサービスの質の向上に取り組みました。
- ④担当エリアの地域包括支援センターが主催する高齢者生活支援等会議に参加し地域の課題解決に取り組みました。
- ⑤法人訪問介護連絡会に参加し、情報共有・意見交換等を行いました。

(2) 居宅介護支援事業所

- ①地域包括支援センターや各事業所への定期訪問を行い、関係づくりに努めました。
- ②ターミナルケアについて医療機関と連携し多職種連携によるチームアプローチを実施しました。
- ③外部研修。内部研修を通じてスキルアップに努めました。

【4】施設の課題

(1) 訪問介護

- ①昨年11月以降、入院・入所等が相次ぎ、訪問介護（要介護）の稼働率が大幅に低下し、収入についても事業開始当初と比べると13%減少しました。安定した収入を確保するため、特定事業所加算Ⅱ及び介護職員等特定処遇改善加算Ⅰの取得を進めるとともに営業活動の促進により毎月6名の新規獲得を目指します。
- ②ヘルパーの人材不足によりサービス提供責任者が現場に出る機会が多く負担増となっています。引き続き、募集チラシや求人媒体等の活用をはじめ、繋がりのある事業所への声掛けも含めてヘルパーの採用を促進します。併せて業務効率の改善によりサービス提供責任者の負担軽減及び残業、休日出勤の減少に取り組みます。
- ③月2回登録ヘルパーに対する研修会を継続しており、今後も研修会、個別指導を充実させ、サービスの品質向上に努めます。

(2) 居宅介護支援事業所

- ①現在ケアマネ2名とも主任ケアマネの資格がありません。主任ケアマネの管理者要件が経過措置により6年後に延長されましたが、次期管理者を新たに配置する場合、主任ケアマネの資格が必要となります。次年度は次期管理者候補の方で主任ケアマネの研修を受講します。

②現在、利用者宅訪問時に聴取した内容を一旦ノートに記入し、事務所に戻ってからシステムの支援経過記録に入力しており、所謂、二重記録となっています。次年度はタブレット等の導入により二重記録を廃止し業務効率を改善します。

【5】付表

(1) ケアフル布施登録ヘルパー研修実績報告

月	研修内容 (テーマ)	参加人数
10	緊急時の対応について・倫理及び法令遵守について	15名
2	認知症及び認知症ケアについて・虐待防止について	18名

【1】令和元年度総括

法人理念・ビジョン・経営方針を実現・実践するための法人組織を構築するため、職員の成長支援やモチベーション向上に向けた制度設計・仕組みづくりの検討を行うことを目的とし、それぞれの職務において法人の求める人材像・目標項目・基準を明確にした目標管理制度の導入、等級制度をもとにした賃金体系案の策定、それぞれの職務における職務内容の明確化等、人事制度の根幹をなす制度設計に注力しました。

【2】検討内容

(1) 給与規程改定(案)の検討

処遇改善加算の支給方法・住宅手当の見直し、試用期間の給与形態、介護福祉士・社会福祉士・保健師の等級自動昇格要件を検討

(2) 人事考課導入の検討

人事考課の建付けの整理、人事考課規程の策定、評価ツールの策定

(3) 各等級の概念の検討

職務、任用要件をあらためて明確化し、2等級から5等級までの等級要件を整理

(4) 賞与基準の検討

事業加算金を定額から定率へ変更、加算金はマイナス算定を検討。

(5) 試用期間の給与形態の検討

(6) 介護職員処遇改善加算の支給方法の検討

支給グループの定義、支給金額を検討

(7) 管理者の勤怠管理責任と職員の時間管理

労使それぞれの義務・時間管理の考え方(始業・終業・休憩・残業等)を明確化し、時間管理ツールを策定

【3】令和2年度の課題

(1) 目標管理から人事考課への移行

法人では平成28年度より目標管理制度を導入し、職員が目標を設定し、その目標に向けて自主的、主体的に行動する事で、職員の成長、モチベーション向上につながるよう制度を運用してきました。

一方、その目標到達のための方向付けにおいて、職員の自主性、主体性を重視しながら目標管理実施途中における組織の関与や行動プロセスを制度的に組み込む必要があり、令和2年度からは目標管理の要素を含んだ人事考課の開始が必要です。

(2) それぞれの職務の専門性の追求

法人には多くの専門職が在籍し協働する事で、利用者・地域支援を行っています。

一方で、多くの専門職がダイヤモンドサービスのみならず、利用者や地域等に存在するニーズを適切にとらえ、真に必要な事を支援する必要があります。

人財育成委員会と連携し、職務専門性追求による職員育成を行う必要があります。

(3) 等級概念・キャリアパスの見直し

目標管理から人事考課への移行もあり、より適正で公正な人事考課を行うために、また、職員の意欲向上や人財の開発、育成を行うためには、当法人の人事制度が常に改善される必要があります、法人のキャリアパスにおいて、等級概念、職能要件を見直す必要があると考えています。

(4) 職員処遇（賃金体系）の更なる検討

平成26年度からは等級号俸制を導入、資格手当・職務手当の改善を行い、また平成28年には、経験加算の整合性、昇格における昇給矛盾の是正、退職金基礎値の改善等の改定を行い、また、パート職員についても、平成29年度に職務に応じた時給の改善を行いました。

一方で、時勢を鑑みて、職務資格の整合性、職務職責に応じた更なる賃金体系の整備が必要と考えています。

【1】令和元年度総括

各拠点の地域公益活動として提供等の継続的な取り組みとして、サロン、認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェ、地域への施設備品の貸出し、買物ツアー、地域清掃、備蓄品を増やし地域へ、子育て支援の拠点として会場提供の推進及び子供食堂（くさかつながる食堂）の新たな取組等、実施に際しては、拠点間の情報共有や協力体制の構築に注力しました、法人としてそれぞれの地域性や地域生活課題等に応じた支援体制の整備、各施設の災害時の備蓄品の数量も増やし、創意工夫のもとに地域共生委員会において推し進めた。

【2】検討内容

法人では、地域防災・オレンジリング取得推進・認知症高齢者の支援・子育て支援・地域の身寄りのない人の支援・障害者の支援とケアフル布施との連携による地域公益活動の推進の6項目を検討、地域共生3ヵ年計画の具体的な実践な進捗として、オレンジリング取得や子育て支援についての検討をした。

【3】令和2年度への課題

当法人が事業を展開する地域は、東大阪市、大東市、大阪市鶴見区でそれぞれの地域性やそのニーズを抽出し、地域公益活動を行っていく必要があると考えています。現状、各拠点の主体的取組が先行しており、今後は、法人としての具体策の検討が必要と考えており令和2年度では、地域共生3ヵ年計画のうち、特に地域防災について注力する必要があり検討課題として考えています。法人全体の取組としては、各拠点における地域防災取組の可能性を議論、検討可能なものから活動を実施し、各拠点がどこまでが対応が可能か不可能かを災害の種別により異なることも考慮し可能な取組課題を検討実施していく。

令和元年度 人財育成委員会 活動報告書

【1】令和元年度総括

令和元年度の活動計画に基づいて委員会の活動を行いました。主な取り組みとしては、『川福会キャリアパス』の内容の見直し、外国人雇用に関する受け入れについて、各連絡会の年間研修及び、職場研修担当者会の進捗確認、法人研修の見直し、各学校等とタイアップした育成講座等の検討等を中心に話し合い検討を行ってまいりました。

令和2年度から人事考課を開始するにあたり制度の基盤となる川福会のキャリアパスの見直しを行い再度、策定いたしました。

外国人雇用に関する受け入れについて、各施設の業務監督職の職員に対して法人理事の講義や外部講師を招いての研修を行う事と、布市福寿苑が作成したパワーポイントの資料を活用して各専門職連絡会にて研修の実施をいたしました。

【2】検討内容

(1) 『川福会キャリアパス』の内容の見直し

現行のキャリアパスの職務職責、職能及び必要教育の見直し、修正をいたしました。

(2) 次世代管理職候補の育成

キャリアパスの明確化と、業務監督職の勉強会において外国人雇用の研修会を設け、各施設の受け入れ態勢の為の基盤づくりを行ってまいりました。各施設目標管理の進捗状況の確認や育成環境の推進に務めてまいりました。

(3) 職員能力の開発

今年度も各専門職連絡会年間研修計画の策定及び実施、報告事項を取りまとめてまいりました。新たに、施設介護支援専門員・療法士の育成計画の作成、研修や見学の企画、実施いたしました。今後、専門職連絡会の設置に向けての基盤づくりをいたします。

(4) 外国人雇用に関する受け入れ準備に関する教育

外国人雇用を行う上で注意する点や、必要な知識等を業務監督職に対する勉強会の実施や、採用だけではなく如何に教育と共に生活の支援が必要かを社会福祉法人池田さつき会へ訪問させていただき、受け入れへの心構えから生活への関わり方、相談支援の在り方を学び、共有、知識を深めてまいりました。

【3】令和2年度の課題

現在、川福会の人財育成の大きな課題として、採用から育成にかけての一貫した体制が十分とは言えない状況であり、職員の採用から育成を包括的に計画の策定と制度が必要でございます。その事を踏まえて次年度より人財育成委員会を人財採用育成会議とし、採用から育成の計画の策定と制度の構築いたします。

令和元年度 サービス向上委員会 活動報告書

【1】令和元年度委員会の総括

法人理念に沿い、ご利用者にとって安心・満足のサービスとは何かを常に考え、自分たちがとらえているご利用者像とニーズが、本当に現在の日本の高齢者のニーズにかなったものか、そして法人の現在のサービスの質がそれを担えているかを検証し、問題提議と提案をすることを目的としてまいりました。

より良いサービスの提供が継続できるように、法人内の各拠点における課題事項など情報を収集・把握を行い、拠点間で広く連携していくことで「サービスの質の向上」「ご利用者満足」「職員の資質向上」に努めてまいりました。

ご利用者個々に生活の背景や状態の違いがある中で、川福会のサービスに満足していただけるよう、定期的な効果測定や都度の振返りを行ってまいりました。

【2】検討内容

サービス向上委員会ではご利用者に満足していただけるサービス提供の為、次のような内容の取り組みを行っております。

(1) 「ご利用者満足度アンケートの実施」

取り組み	実施評価
サービス内容の見直しとご利用者様の満足度を把握するため、ご利用者様に満足度アンケートを各施設・事業所種別ごとに連絡会をとおして実施し、集計・開示を行い、そこで浮き上がった課題点とその傾向等について各施設事業に提供し、各施設事業のサービスの改善と向上に向けて取り組んでおります。	令和元年度ご利用者満足度アンケートは法人連絡会を通じて全事業対象に実施をしました。実施した時期は10月より順次開始を行い、結果の開示は改善策を検討したものを令和2年1月以降に事業所ごとにご利用者、家族へ向け施設内掲示等の方法を取り開示を行いました。

(2) 「職員アンケートの実施と振り返り」

取り組み	実施評価
職員が日々考えているサービスの質や、施設、事業所の状況把握を行い、現状を見直しすることで改善点を把握し、職員の資質と処遇及びサービスの向上をめざしております。	令和元年度は、2年に1度行っています職員アンケートを各拠点にて実施いたしました。 アンケート結果をデータ化することで、職員や施設の課題が見えてきました

	来年度はサービス向上に向けて、それらの課題解決に取り組んでまいります。
--	-------------------------------------

(3) 「スローガン作成」

取り組み	実施評価
<p>法人理念の周知だけでなく、法人全体が一体となり、サービス向上に取り組んでいくことを目的として半期ごとにスローガンを掲げております。</p> <p>最初は、全施設事業にスローガンの募集を行い、そのすべての思いを集め、創業者の思いと合わせて『私たちの思い』としてパンフレット化し、教育の機会ごとに私たちの原点として確認しております。さらに、職員がより身近に感じるものとなるよう、現場の思いを掲げることに焦点をあて、当委員会だけのスローガン作成ではなく、法人内の多職種の思いが一つになるよう、法人の各職種連絡会に半期ごとに作成を依頼することにしました。上半期及び下半期スローガンは短いフレーズとするとともに、各拠点に掲示し、身近なものになるようにしております。</p>	<p>令和元年度上半期、当委員会で「挨拶と笑顔でつながる心の輪」を作成。下半期は小規模多機能ホームごりょうの家で「より添う気持ち 形にできるお手伝い」を作成しました。上半期・下半期共に各拠点では掲示を行うとともに理念とあわせて唱和を行うなどし、周知を図りました。</p> <p>昨年度をもって、全ての連絡会での作成終了したことを受けて、上半期は当委員会で、下半期は新規事業の一つであるごりょうの家で作成しました。</p> <p>今後につきましては、もう一つの新規事業である介護老人保健施設 すいれんでの作成を進めていくと共に、より多くの職員が作成に関わることができるよう検討してまいります。</p>

(4) 「表彰・顕彰制度の実施」

取り組み	実施評価
<p>サービス提供内容の把握及び情報の共有、法人内での事業所の優れた取り組み内容を連携するため、半期ごと「表彰顕彰制度」を実施し、平成30年度に第9回を数えます。</p> <p>職員同士の働きがいや喜びの共有、新たな取り組みへ意欲の向上をめざし実施しているものです。</p>	<p>令和元年度は第10回の節目の開催ということもあり、より多くの職員が発表の場に参加できるように取り組んでまいりました。</p> <p>7月の法人方針説明会の場で開催することで、これまでで最多の22作品の応募とおよそ50名の職員が参加することができました。</p>

	終了後は、事業所間で発表された取組みについての情報交換等が行われるなどとても有意義な発表の場になりました。
--	---

(5) 「他施設見学の実施」

取組み	実施評価
新しいものに触れ、既存のサービス提供の形にとらわれず、より良いサービスの提供を行えるようにすることを目的とし取組みました。	<p>令和元年度は、社会福祉法人淳風会が開催しています事例発表会へ参加してまいりました。</p> <p>外部からファシリテータを招いてのディスカッション形式の事例発表で、テーマは「地域貢献」、当法人としても参考になる取組みがいくつもありました。</p> <p>またディカッション形式で、事例発表の場としてもとても参考になりました。</p>

【3】令和2年度の課題

①令和元年度に取組んでまいりました【2】の5項目について、一段とブラッシュアップしていく必要性があると考えます。

(1) ご利用者さま満足度アンケートについて

継続して実施していきます。ただし漫然と実施しても意味のないものになってしまう。このアンケートを、「振り返り」「ニーズ把握」「業務改善」などにしっかりと役立てられるようにしていく必要があります。そのためにも各連絡会との連携をより一段と深めていく必要があります。

(2) 職員アンケートについて

2年ごとに実施しています。令和元年度に実施したアンケート結果から、見えてきた課題がいくつかあります。職員からの貴重な意見・要望をしっかりと受け止め、より良い施設作りを行うことがサービス向上に繋がっていくと考え、課題解決に取り組んでいくことが必要です。

(3) スローガン作成について

法人理念をより分かりやすく、より身近に感じてもらえるように半期ごとに、各連絡会で作成を依頼しています。各施設で提示の協力を得るなどして、浸透はしています。

しかしながら、長年実施している中で職員の入替わりがあり、当初の目的が薄れてきているのも事実です。また、限られた職員で作成するのではなく、少しでも多くの職員が作成に関われるような形で作成していくことが必要と考えます。

(4) 表彰顕彰制度について

令和元年度に節目の第10回を開催いたしました。これまでで最多の応募数・参加職員数を得ることができ、とても有意義な発表の場になりました。

10回目を終了したことで、今後どのような形で開催していくかを検討し、実施していくことが大きな課題です。

(5) 他施設見学について

平成29年度から開始しております。自法人・自施設との違いなど直接感じることができ、とても刺激になり有意義なものとなっております。

来年度も引き続き継続していきたいと考えていますが、新型コロナウイルスの終息が見えないため、見学・訪問の計画が立てにくい状況にあります。

これまでと違った形での、情報収集及び発信方法を検討していく必要があると考えます。

②更なるサービスの向上に向けて、上記5項目以外に新しい活動を検討する必要があると考えます。

その一つとして、「苦情解決報告会」について、サービス向上の観点からのアプローチを検討・実施していきたいと考えています。

【1】令和元年度総括

職員処遇を向上するため、働きやすい職場づくりを意識してまいりました。そこには、行事の企画や実行はもとより、施設間の距離を感じさせない職員間のコミュニケーションをサポートする同好会の会則や補助金の支給方法を見直してまいりました。その中でも、本年のバスツアーは一時気候が悪かったのにも関わらず、多くのスタッフが参加され高評価を頂きました。

職員の健康については、法人の健康を図る指針になり得ることから、人間ドッグや市町村がん検診を多くのスタッフが受診できるようアナウンスしてまいりました。

【2】検討内容

(1) 新人歓迎ボーリング大会の開催

4月10日に開催し、新人職員を含め総勢91名の参加となりました。内ボーリング大会は55名とレーンをすべて使用するほどの参加率で、新人職員はもちろんのこと他施設間コミュニケーションの一部を担っていると考えます。

(2) 秋のバスツアー開催

大変好評を頂いたバスツアーで、初回72名の応募を受け付けました。乗車定員60名を最大に利用し、58名の参加者で実施しております。キャンセル待ちや人数調整を強いられた職員もあり、次回以降の課題であると考えます。

(3) 同好会の活動支援

同好会の会則に着手して1年が経過し、本年度から実用できる形となりました。しかし、本年中にアクティブである同好会も3つとなり、活性化を図ってまいりましたが、実情は活動回数から見ても衰退傾向にあります。

(4) 市区町村が行うがん検診への補助

実施者の増加を狙い、案内状の作成や近隣市の検診種類まとめを配布してアナウンスしてまいりました。徐々に浸透しているようで、体感ではありますが実施者は増加傾向にあります。アナウンスを継続することで浸透すると考えており、本年度も計画的に検討してまいります。

(5) 人間ドッグ利用助成

永年表彰で表彰された職員を対象に実施してまいりました。案内状を作成し、対象の職員へ配布することで受診率向上を狙い増加しております。

(6) その他

年度末から感染症の影響で計画できない状況となりました。令和2年度の新人歓迎ボーリング大会は延期となり、次年度に引き継ぐ形となります。

【3】令和2年度への課題

本年度は全体的に“アナウンス”へ注力した年度となりました。主に、市区町村がん検診・人間ドッグ利用補助であり、実数は各施設の統計によりますが体感的には増加していると見ます。一方でアナウンスの方法は、パンフレットを各施設で配布する手段で行いましたが全体的に浸透したわけではなく、興味があるスタッフが目に留める程度であるとも感じており、本年度への課題を残します。

改めて公平な福利厚生制度を検討します。過去には、平等に福利厚生を受給できるよう試行錯誤してきました。しかし、未だに参加人数の制約や勤務形態によって受給できず、一年を通して企画に参加できない、しない職員が大勢存在し、お世辞にも平等な福利厚生制度であるとは言えません。継続して平等な制度を目指して検討してまいりたいと思います。

【1】令和元年度総括

昨今、介護業界の人材不足が深刻な問題となっており、人材確保に向けた取り組みが一層重視されます。介護の仕事の魅力を幅広く発信し、効率的・効果的な採用活動が展開できるよう、今年度は、優先課題としてホームページのブラッシュアップ及び新たな採用パンフレット作成に注力し取り組みました。又、前年度に引き続き、各拠点の広報活動について情報共有し、ブログ、広報誌等の課題整理を行いました。その他、SNSの導入についても検討しましたが、具体的な運用や管理方法まで課題整理できなかったため、引き続き、次年度に取り組みます。

【2】検討内容

(1) 各拠点の広報活動の課題解決

「月1回のホームページの更新」「ブログの随時更新」「他の拠点のパンフレットと広報誌の設置」をルール化し、広報活動の活性化に結びました。広報誌について情報共有、課題整理を行い、内容のブラッシュアップ、外部発信の強化に取り組みました。

(2) ホームページのブラッシュアップ

ホームページ内の「採用情報」について、採用ホームページ構築サービスを導入することで、求人サイトからホームページへの誘導を促進し、応募者獲得に向けて環境整備を行いました。また、福利厚生委員会と連携し「福利厚生」の内容について充実化を図りました。

(3) SNSの活用

ソーシャルアカウントの導入に向けて、目的やメリット・デメリットについて検討し、課題整理を行いました。

(4) 法人のイメージアップ戦略

採用活動における法人のイメージアップとして、学生等に法人の「強み」「良さ」を知ってもらい、ポジティブなイメージを持ってもらえるよう、介護職員採用パンフレットの内容を一新し、新たなパンフレットを作成しました。

【3】令和2年度への課題

(1) 法人の広報活動の課題抽出

各拠点の発信力、訴求力が高まり、広報活動が活性化するよう、法人の広報活動について情報共有し、課題抽出・改善に向けた取組みを推進します。

(2) ホームページを活用した広報の検討・ホームページの改善

ホームページの中身を精査し、閲覧者が确实、かつスムーズに情報収集できるように、内容について充実、発展させます。とりわけ、新着情報の有効活用、福利厚生、教育制度のブラッシュアップ、地域貢献等の項目の追加に取り組みます。

(3) SNSの活用による広報の検討

ソーシャルアカウント（インスタグラム）の導入に向けて、具体的な運用、管理方法、ホームページとの連携等について検討します。

(4) イメージアップ戦略

法人の「強み」や「良さ」に着目し、PR活動やイメージアップにつながるようなツールや仕掛けづくりに取り組みます。

【1】令和元年度総括

各拠点（事業場）の安全衛生委員会において実施している職場環境ならびに労働環境の整備、事業所の風土といった領域を主として、その活動より生じた事業場単体では改善や解決が困難な諸問題に関し、その支援・調整及び検討等を実施。

また、委員会設置が不要である少人数の事業所（ケアハウス・小規模多機能など）へも同様の支援を実施しております。

【2】検討内容

法人安全衛生委員会にて実施・検討事項

①法定に基づく実施

- ・健康診断の実施。（夜勤実施者は年2回）
- ・ストレスチェックの実施及び、高ストレス者への産業医面談等。
- ・「心の健康づくり推進計画」の策定。

②検討（実施）事項

- ・高ストレス者及び精神不調者への対策として、各事業所にてセルフケアのための講習（セミナー）を開催。
- ・年次有給休暇時季指定義務（働き方改革関連）啓発。

各拠点（事業場）にて実施事項

①安全衛生委員会における必須事項

- ・各事業場の現場見回りの実施。
- ・安全衛生委員会の開催。

②労働者の安全確保及び福利厚生

- ・インフルエンザ予防接種の実施。（感染症予防）

【3】令和2年度への課題

精神不調者に対する更に深度を増した支援の構築

- ・高ストレス対象者向けのセミナーセルフケアのための講習会の継続開催。
アンガーマネジメント研修等による心理面でのストレス軽減に向けた研修及び、管理職群に向けてのラインケア講習等の検討。
- ・産業医への健康相談など、機能や方法等は改善されて来てはいるが、更なる機能の充実と利用時の利便性、プライバシー保護など機能面の向上。

- ・ 職員の健康に対する啓蒙活動（教育）

新規施設である「すいれん」における安全衛生委員会の開催と継続への支援。委員会設置不要の事業所「ケアフル布施」への健康診断、ストレスチェックの実施及び、メンタルヘルス・感染症予防などの支援。

その他、新規採用及び中途採用職員への健康に対する意識向上。

感染症への対策

- ・ 昨年度よりコロナウイルス感染症により様々な影響が生じております。

これらに限らず感染症への対策については事業場の労働者の安全面、環境・衛生面の確保向上においても重要であることから、安全衛生委員会として何が必要であり、どのような手を打つことができるのか検討する事が必要であると考えております。

【1】令和元年度 総括

平成30年12月1日に、「社会福祉法人 川福会 リスクマネジメント方針」が定められ、「リスクマネジメントの考え方について」が示されました。平成31年1月1日に、「社会福祉法人川福会 リスクマネジメント実施要綱」が発出され、平成31年4月より、リスクマネジメント推進担当者会として活動を開始しました。

リスクマネジメント推進担当者会の目的

利用者や地域の方々に福祉サービスを提供する過程で発生する様々なリスク（事故・苦情・感染症・災害等）の発生を防止、解消する体制を確立し、福祉サービスにおける危機管理に関する取り組みを行い、適切、安全な福祉サービスの提供及び利用者処遇の向上に資することを目的とする。

上記の目的を担当者会のメンバーが共有し、様々なリスクに対する「予測」と「準備」ができるように検討を行いました。リスクマネジメントの取り組みに関して、多岐に及ぶため、初めに取り組む事項を選択することや、法人全体として、取り組みの共有認識を持つこと、統一して取り組んでいくことの難しさがありました。目的を果たすべく、以下の取り組みを行いました。

- ①「ヒヤリ・ハット報告書」の統一書式の作成とヒヤリ・ハット啓発活動
- ②拠点であった事例の検討と啓発活動
- ③第三者委員苦情報告会の報告書書式改善と発表方法についての検討

【2】検討内容

①「ヒヤリ・ハット報告書」の統一書式の作成とヒヤリ・ハット啓発活動

現在、法人内の各拠点により、「事故報告書」「ヒヤリ・ハット報告書」の書式が異なっていました。本来、「事故報告書」よりも多く提出されることが必要である「ヒヤリ・ハット報告書」の提出が少ない状況を確認しました。事故を未然に防ぐ取り組みとして、ヒヤリ・ハットの理解（重要性）を深める啓発活動ツールと「ヒヤリ・ハット報告書」の原案を作成しました。報告書の書式については、改善の必要がありますので、継続して検討し提出が多くあり、気づきが増え、事故予防につなげるようにしていきます。「ヒヤリ・ハット報告書」が完成しましたら、「事故報告書」の作成に取り掛かります。

②各拠点であった事例の検討と啓発活動

リスクマネジメント推進担当者会で、施設における利用者の危険行為についての対応に

ついて検討を行いました。対応について、各拠点に事例を伝達して周知し、意見を求めることで、課題の把握と問題解決方法についての周知と啓発を行いました。

多くの意見があることで、気づきも増えますし、対策も幅が広がります。今後も、事例を積み重ねてよりよいリスクマネジメントを構築していきたいと考えます。

③第三者委員苦情報告会の報告書書式改善と発表方法についての検討

一つの苦情を単体として伝え終わるのではなく、苦情解決や改善を重ねることにより、サービスの質の向上、運営の適正化に努めていくことが重要です。苦情内容の分析（見える化）、苦情の周知及び対応方法、対応後を振り返りどのようになったのか、その結果、苦情は減っているのか等を報告できるように、報告書の改善と報告内容を検討し、令和元年11月の第三者委員苦情報告会の開催に向けて取り組みました。報告方法や書式の改善、各施設での報告内容や対応についての情報共有がきっちりと行う方法等が課題としてあります。

【3】令和2年度の課題

①「ヒヤリ・ハット報告書」「事故報告書」等の書式が各拠点で異なっている。また、報告書を提出して終わっている所が多く、職員間の共有と改善における検証の意識が薄い。事故等を未然に防ぐことができるように、ヒヤリ・ハット報告の提出を活発にしていく必要がある。各施設内だけではなく、重要なインシデントについては法人全体として周知が必要になります。多くの各施設が共通認識して実行することが課題です。

②苦情は宝であると言われるように、第三者委員報告会の苦情内容や苦情に対する取組、改善結果について、全職員に対する周知方法が課題となり、宝が活かさない事は、事故や苦情を繰り返すこととなります。事情報告会の重要性の理解、伝達の難しさが課題です。

③様々なリスクに対して、今まで対応してきた経験（対応能力）を積み重ねてきているが、時勢による様々なリスクに対する準備力を身に着ける必要がある。新型コロナウイルスの感染症に関しても、日々情報が多く飛び交います。法人の全職員が、統一した考えを持って、リスクに対応すること、正しい情報を共有することが重要。早く正確に情報が伝達され、リスク予防を実行し、協力し合える環境作りが必要です。